



REX-9530 シリーズ用ドライバセット

REX-9530KIT

ユーザースマニュアル



1996年9月

第1.0版

RATOC

ラトックシステム株式会社

目次

ユーザズマニュアル

はじめに	1
ご注意	1
カード取扱上の注意	1
製品に関するお問い合わせ	2
1 . REX-9530KIT について	1-1
対応パソコン	1-1
対応 OS(オペレーティングシステム)	1-1
付属品について	1-2
付属のソフトウェアについて	1-2
制限	1-2
WindowsNT 3.51 における制限	1-3
OS/2 Warp における制限	1-4
2 . Windows3.1 上でのインストール	2-1
Windows3.1 用インストーラ	2-2
SCSI 機器の接続と再起動	2-3
SCSI 機器を正しく使用できない場合	2-3
3 . WindowsNT 4.0 での REX-9530 のインストール	3-1
WindowsNT 4.0 用ドライバのインストール	3-1
インストール後の確認と設定	3-3
[SCSI PC Card REX 9530] 項目が [起動済み] になっていない場合	3-3
CD-ROM ドライブのドライブ名の設定	3-3
SCSI PC カードで WindowsNT 4.0 をインストールする	3-4
4 . WindowsNT 3.51 での REX-9530 のインストール	4-1
WindowsNT 3.51 用ドライバのインストール	4-1
SCSI 機器の接続と再起動	4-3
インストール後の確認と設定	4-4
[Pcmcia] 項目が [実行中] になっていない場合や [Pcmcia] 項目がない場合	4-4
[rex9530] 項目が [実行中] になっていない場合	4-5
CD-ROM ドライブのドライブ名の設定	4-5
SCSI PC カードで WindowsNT 3.51 をインストールする	4-6

目次

5 . OS/2 Warp でのREX-9530 のインストール	5-1
OS/2 Warp 用ドライバのインストール	5-1
SCSI 機器の接続と再起動	5-2
SCSI PC カードでOS/2 Warp をインストールする	5-3
「SCSI PC カード用ディスク 1」の作成 (DOS/V)	5-4
「SCSI PC カード用ディスク 1」の作成 (NEC)	5-5
OS/2 Warp のインストール.....	5-6
REXCARD.SYS - SCSI PC カード用イネーブラ	5-8
SCSI9530.ADD - REX-9530 用 SCSI アダプタドライバ	5-8
6 . 各 SCSI 機器を使用するには	6-1
CD-ROM ドライブを使用する	6-1
CD-ROM ドライブを使用するための設定	6-1
CD-ROM の接続を確認する	6-1
音楽 CD を聞く.....	6-2
CD-ROM ドライブを使用する場合の注意	6-2
MSCDEX についての注意事項.....	6-2
「NECCD.SYS」等の CD-ROM デバイスドライバについて	6-2
光磁気ディスク(MO)ドライブを使用する	6-3
MO ドライブを使用するための設定.....	6-3
メディアのフォーマット	6-3
MO ドライブを使用する場合の注意.....	6-4
ハードディスクドライブを使用する	6-4
ハードディスクドライブを使用するための設定	6-4
ハードディスクのフォーマット	6-5
ハードディスクドライブを使用する場合の注意	6-5
PD ドライブを使用する	6-5
PD ドライブを使用するための設定	6-5
PD メディアのフォーマット	6-6
PD ドライブを使用する場合の注意	6-7
zip ドライブを使用する	6-7
zip ドライブを使用するための設定	6-7
zip ドライブを使用する場合の注意	6-8
MD(ミニディスク)データドライブを使用する	6-8
MD データドライブを使用するための設定.....	6-8
メディアのフォーマット	6-9
MD データドライブを使用する場合の注意.....	6-9
スキャナを使用する	6-10
GT-8500 を使用するための設定	6-10
GT-8500 を使用する場合の注意	6-11

目次

7. SCSI ユーティリティについて	7-1
REXFMT.EXE - ディスク・フォーマット・コマンド	7-1
書式 1 - ハードディスクの初期化.....	7-3
書式 2 - 光磁気ディスク (MO) の初期化.....	7-5
書式 3 - 区画の確保.....	7-7
書式 4 - 区画の削除.....	7-9
書式 5 - 区画属性の変更.....	7-10
SSC.EXE - SCSI 機器接続確認コマンド	7-11
WinSSC - Windows95 用 SCSI 機器接続確認ユーティリティ	7-13
RMLOCK.EXE - イジェクト・スイッチの設定	7-15
RMLOCK.EXE の書式とパラメタ.....	7-15
RMLOCK.EXE の表示メッセージ.....	7-15
RMEJECT.EXE - メディアのイジェクト	7-16
RMEJECT.EXE の書式.....	7-16
RMEJECT.EXE の表示メッセージ.....	7-16
CDPLAY.EXE - オーディオCD プレイバックユーティリティ	7-17
準備.....	7-17
CDPLAY.EXE の書式のオプション.....	7-17
各機能について.....	7-18
ステータス表示について.....	7-18
演奏操作ボタンについて.....	7-20
音量調節つまみについて.....	7-20
演奏モードボタンについて.....	7-21
PROGRAM LIST について.....	7-21
CD を演奏する.....	7-21
8. DOS 用 SCSI 関連ドライバについて	8-1
CONFIG.SYS の書き換えについて	8-1
DOS 用ドライバ (イネーブラ+ASPI マネジャ)	8-2
全ドライバ共通のオプション.....	8-3
ASPI9530.SYS 固有のオプション.....	8-3
ASPDBK30.SYS, ASP36530.SYS 固有のオプション.....	8-4
全ドライバ共通のエラーメッセージ.....	8-4
ASPI9530.SYS, ASP9530N.SYS, ASP9530E.SYS 共通の表示メッセージ.....	8-4
ASPDBK30.SYS 固有の表示メッセージ.....	8-6
ASP36530.SYS 固有の表示メッセージ.....	8-6
REXCD.SYS - CD-ROM ドライバ	8-7
REXCD.SYS の書式.....	8-7
REXCD.SYS の表示メッセージ.....	8-8

目次

REXDISK.SYS - ハードディスク/MO ディスクドライバ	8-9
サポートしているメディアについて	8-9
REXDISK.SYS の書式とオプション	8-9
PC-DOS J6.1/V での制限について	8-11
REXDISK.SYS の表示メッセージ	8-12
MSCDEX.EXE - CD-ROM エクステンション	8-13
MSCDEX.EXE の書式とオプション	8-13
MSCDEX.EXE の表示メッセージ	8-13
WINASPI.DLL, VASPIREX.386	8-14
WINASPI.DLL, VASPIREX.386 のインストール手順	8-14
WINASPI.DLL の制限	8-15
表示メッセージ	8-15
9. 付録	9-1
付属のインストーラを使用しない場合	9-1
ASPI マネジャ / ASPI モジュール等のコピー	9-1
CONFIG.SYS への PC カードドライバ / ASPI マネジャ / ASPI モジュールの設定	9-1
AUTOEXEC.BAT への設定	9-2
SYSTEM.INI の設定について	9-2
PC カードドライバについて	9-3
対応カードサービスについて	9-3
「DATABOOK CardTalk」について	9-4
カードサービスがない場合	9-4
別途カードサービス用意する	9-4
カードサービスを使用しない	9-4
PCMICA コントローラ (i82365) の確認方法	9-5
パソコン機種別設定例	9-6
IBM 版カードサービス Play At Will Ver3.xx の場合	9-6
IBM 版カードサービス Play At Will Ver2.xx の場合	9-6
IBM 版カードサービス PCMCIA 2.00 相当の場合	9-7
IBM 版カードサービス PCMCIA 1.07 相当の場合	9-8
Panasonic PRONOTE jet の場合	9-9
コンパック LTE 5000 シリーズの場合	9-9
コンパック CONTURA 400 / 410 / 420 / 430, LTE Elite, CONTURA AERO 4/25, 4/33C の場合	9-10
DEC Digital HiNote シリーズの場合	9-11
DELL Latitude シリーズの場合	9-12
SOTEC WiNBook Pro の場合	9-13
SOTEC WiNBook / GATEWAY 2000 ColorBook の場合	9-14
SHARP Mebius シリーズの場合	9-15
EPSON vividly NOTE シリーズの場合	9-16
SystemSoft 版カードサービス対応の他の場合(その 1)	9-17
SystemSoft 版カードサービス対応の他の場合(その 2)	9-18

目次

TOSHIBA DynaBook GT450, SS450, GT475, SS475, SS-R590, GT-R575, GT-R590 の場合	9-19
TOSHIBA DynaBook V486FV,SS425,SS433,EZVision,EZ425 の場合	9-20
FUJITSU FM V-BIBLO シリーズの場合	9-21
FUJITSU FM-V NoteBook シリーズの場合	9-22
EPSON PC-VR466S(MOBILIO) の場合	9-23
EPSON DIRECT Endeavor NT-500 の場合	9-24
PC-DOS J7.0/V 版カードサービスの場合	9-24
PC-DOS J6.1/V, J6.3/V 版カードサービスの場合	9-26
Phoenix 版カードサービス PCPLUS 対応の他の場合	9-27
DATABOOK の PCMCIA コントローラ搭載パソコンの場合	9-28
PCMCIA コントローラ直接制御の場合	9-30
NEC PC-9821/9801 シリーズの場合	9-31
EPSON PC-486/586 シリーズの場合	9-33
接続可能な SCSI 機器のタームパワー供給能力について	9-34
SCSI 機器のターミネータ電源供給の確認方法	9-34
SCSI PC カードの仕様	9-34
SCSI ケーブルのコネクタピン配列について	9-35
オプション製品について	9-35
オプション SCSI ケーブル	9-35
デスクトップパソコンで REX-9530 を使用する場合	9-36

目次

はじめに	1
ご注意	1
カード取扱上の注意	1
製品に関するお問い合わせ	2
1 . REX-9530KIT について	1-1
対応パソコン	1-1
対応 OS(オペレーティングシステム)	1-1
付属品について	1-2
付属のソフトウェアについて	1-2
制限	1-2
WindowsNT 3.51 における制限	1-3
OS/2 Warp における制限	1-3
2 . Windows3.1 上でのインストール	2-1
Windows3.1 用インストーラ	2-2
SCSI 機器の接続と再起動	2-3
SCSI 機器を正しく使用できない場合	2-3

はじめに

このたびは REX-9530KIT (SCSI PC カード用ドライバセット) をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。未永くご愛用賜りますようお願い申し上げます。

本書は、REX-9530KITの導入ならびに運用方法を説明したマニュアルです。REX-9530 およびREX-9530KITを正しくお使い頂くため、ご使用前に必ず本書をよくお読みください。

また、添付ディスクに入っているREADMEファイルには本マニュアルに記載できなかった最新情報がありますので合わせてご覧ください。

ご注意

- ・ 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤りなどにお気づきになりましたらご連絡願います。
- ・ 運用の結果につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承願います。
- ・ 本製品の保証や修理に関しては、添付の保証書に記載されております。必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。
- ・ 本製品および本製品付属のマニュアルに記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

カード取扱上の注意

- ・ カードやケーブルの分解や改造等は絶対に行わないでください。
- ・ カードやケーブルを無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せる等を行わないでください。
- ・ ケーブルを抜くときは、コネクタ両側の突起を押しながら抜いてください。
- ・ カードは電子機器ですので静電気を与えないようしてください。
- ・ ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
- ・ モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してご使用ください。
- ・ 煙が出たり、変な臭いがする場合は、ただちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブル等もコンセントから抜いてください。
必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。
- ・ カードが濡れた場合、ショートによる火災や感電のおそれがあるため使用しないでください。
必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

はじめに

- ・本製品を使用しない場合、次のような場所での保管は避けてください。

直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所、暖房器具等の近く、温度差の激しい場所

チリやほこり、湿気の多い場所

振動や衝撃の加わる場所

スピーカ等の磁気を帯びたものの近く

製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。

ラトックシステム株式会社

サポートセンター

〒556

大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル

TEL 06-633-6766

月～金 10:00～17:00 土曜、日曜および祝日を除く

FAXでの受付は24時間行っております。

FAX 06-633-3553

また、NIFTY Serve の以下のフォーラムおよびインターネットのホームページでも受け付けております。

PC Vendor STATION E

(SPCVE)

電子会議室8番「ユーザサポート」

ラトックシステムのホームページ

<http://www.rexpccard.co.jp>

お問い合わせの際には、最後のページの「質問用紙」に必要事項を記入の上、上記FAX番号までお送りください。折り返しサポートセンターより電話またはFAXにて回答させていただきます。

ご質問に対する回答は上記営業時間内の処理となりますのでご了承ください。

また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

1. REX-9530KIT について

REX-9530KITは、SCSI PCカードREX-9530をWindows95以外の環境で使用するためのドライバセットです。REX-9530KITに含まれるドライバをインストールすることによりDOS/Windows3.1上、WindowsNT3.51, NT4.0上、OS/2 Warp Version 4, Version 3などのOSに対応することができます。

ただし、ご使用になる環境によりましては、本書の手順どおりにインストールできない場合もありますのであらかじめご了承ください。

また、本書にはREX-9530をWindows95で使用する場合の説明は含まれておりません。SCSI PCカードに付属のマニュアル「REX-9530 ユーザーズマニュアル」の方をご覧ください。

対応パソコン

本製品は、PCMCIA 2.01/JEIDA 4.1仕様以降のPCカードスロットを装備している以下のパソコンに対応しています。

- ・DOS/Vパソコン（PC/AT 100%互換機）
- ・NEC PC-9821シリーズ
- ・EPSON PC-486/586 Noteシリーズ

ただし、一部の機種では制限があったり正常に動作しない場合もありますので、メーカー名および機種型番の詳細については弊社サポートセンターに直接ご確認ください。

対応OS(オペレーティングシステム)

本製品は以下のOSに対応しています。

DOS/V（PC/AT 100%互換機）	MS-DOS 5.0/V 以降, Microsoft Windows 3.1, Microsoft Windows NT 3.51, NT 4.0 OS/2 Warp Version 4, Version 3
NEC PC-9821 シリーズ	MS-DOS 3.3D/5.0 以降, Microsoft Windows 3.1, Microsoft Windows NT 3.51, NT 4.0 OS/2 Warp Version 3
EPSON PC-486/586 Note シリーズ	MS-DOS 5.0 以降, Microsoft Windows 3.1 (注1)

(注1) EPSON PC シリーズ (98 互換機) では、パソコン本体に対するWindowsNT, OS/2 Warp のサポートは行われておりません。

付属品について

REX-9530KITにはフロッピーディスク以外に以下のものが付属しています。不足の場合には、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

- ユーザズマニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ご愛用者登録ハガキ / 保証書(注1)・・・・・・・・・・・・ 1

(注1) ご愛用者登録カードは保証書を切り離した後、必要事項を記入の上必ずご返送ください。ご返送頂けない場合、バージョンアップ等のサポートサービスは受けられませんのでご注意ください。

付属のソフトウェアについて

本製品に付属のフロッピーディスクには次のソフトウェアが含まれます。

- ・ DOS 用 SCSI デバイスドライバ (ASPI マネージャ)
- ・ Windows 3.1 用 ASPI (WinASPI.DLL)
- ・ CDROM ドライブ用デバイスドライバ (ASPI モジュール)
- ・ ハードディスク / 光磁気ディスク用デバイスドライバ (ASPI モジュール)
- ・ ハードディスク / 光磁気ディスク用フォーマッタ
- ・ 接続 SCSI 機器確認ユーティリティ
- ・ WindowsNT 4.0 用 SCSI ミニポートドライバ
- ・ WindowsNT 3.51 用 SCSI ミニポートドライバ
- ・ OS/2 Warp 用 SCSI アダプタドライバ
- ・ Windows95 用 SCSI ミニポートドライバ

フロッピーディスク内のディレクトリ階層構造やファイル名については同ディスク内の README ファイルをテキストエディタ等を使用して確認してください。

READMEファイルにはマニュアルに記載できなかった最新情報がありますので必ずご覧ください。

制限

- ・ 本製品は、ドライバソフトウェアのみの製品となっているため必ず SCSI PC カード (REX-9530) が無いとご使用頂けません。
- ・ SCSI PC カードに接続する機器は、原則としてタームパワー供給機能を持った SCSI 機器に限られます。複数の機器を接続する場合は、そのうちの1台からタームパワーが供給できれば問題ありません。

例外としてzipドライブでは、タームパワーは出力されていませんが、本製品へ接続しても問題ありません。

- ・ SCSI PC カードに接続された機器からのシステムの起動 (ブート) はできません。

- ・ SCSI PC カードおよび添付ドライバは、サスペンド・レジュームや活線挿抜 に対応していますが、SCSI 機器のアクセス中にはカードを抜いたりサスペンド・レジューム 処理を行わないようにしてください。
「活線挿抜」とは SCSI PC カードを抜いても、再挿入すると再び使用可能な状態 になる機能のことです。
- ・ SCSI PC カードに接続されたハードディスクや MO に対して FDISK コマンドによる フォーマットはできません。また、DISK-BIOS (INT 1Bh や INT 13h) を直接呼び 出して動作するソフトによる操作もできません。
- ・ SCSI PC カードに接続された CD-ROM ドライブで音楽 CD を再生する場合、その音 声はパソコン本体の内蔵スピーカからは出力されません。CD-ROM ドライブのライン 出力またはヘッドフォン端子から出力されます。
- ・ SCSI PC カードに複数の SCSI 機器を接続する場合は、ケーブルの総延長が 3m を越 えないようにしてください。また、接続する機器にもよりますが接続台数はできるだ け 2 台を越えないようにしてください。
- ・ PC カードスロットが 1 スロットのみでフロッピーディスクドライブが PC カード接続 のパソコンでは、直接フロッピーディスクからのドライバのインストールはできない 場合があります。
この場合、あらかじめ本製品添付フロッピーの内容をパソコン本体内蔵のハードディ スクへコピーしたのちに SCSI PC カードのインストールを行ってください。

WindowsNT における制限

- ・ 同梱のドライバは、WindowsNT 3.51 または NT4.0 のインテルプラットフォームでの みの対応となります。その他のプラットフォーム以外では動作しません。
また、WindowsNT 3.1, WindowsNT 3.5 等でも動作しませんのでご注意ください。
- ・ REX-9530 を WindowsNT 上で使用できるパソコンは、各パソコンメーカーが、 WindowsNT での動作を保証しているパソコンのみとなります。また、接続する SCSI 機器に関しても各メーカーが動作保証するものとします。
- ・ SCSI PC カードに接続されたディスクへ WindowsNT をインストールすることはでき ませんのでご注意ください。
- ・ WindowsNT では、PC カードに対する Plug-and-Play がサポートされておりません。 したがって WindowsNT の起動時には、以下の状態でないと SCSI 機器が使用できま せん。
PC カードスロットに SCSI PC カードが挿入されている。
SCSI 機器との接続ケーブルが接続されている。
SCSI 機器の電源が入っている。
- ・ 同時に装着して使用可能な REX SCSI PC カードは、1 枚のみです。2 枚以上装着し ても最初の 1 枚しかご使用いただけません。
- ・ CD ドライブを接続した場合、ディスクアドミニストレータによりドライブの割当て を行わないと正常に使用できないことがあります。
- ・ ハードディスクや MO などをフォーマットする場合、ディスクアドミニストレータか ら行います。

OS/2 Warp における制限

- ・ 同梱のドライバは、OS/2 Warp Version 4 および Version 3 の対応となります。それ以外のバージョンでの動作は保証しませんのでご注意ください。
- ・ REX-9530 を OS/2 Warp 上で使用できるパソコンは、各パソコンメーカーが、OS/2 Warp での動作を保証しているパソコンのみとなります。また、接続可能な SCSI 機器に関しても各メーカーが OS/2 Warp 上での動作保証するものに限りです。
- ・ PC-9821Nr15 は、OS/2 Warp 上での PC カードスロットの使用がサポートされていません。したがって、REX-9530 はご使用頂けませんのでご了承ください。
- ・ SCSI PC カードに接続されたディスクへ OS/2 Warp をインストールすることはできませんのでご注意ください。
- ・ OS/2 Warp では、PC カードに対する Plug-and-Play はサポートされていますが、SCSI 機器の Plug-and-Play はサポートされていません。したがって OS/2 Warp 起動時には、以下の状態でないとい SCSI 機器が使用できません。
 - PC カードスロットに SCSI PC カードが挿入されている。
 - SCSI 機器との接続ケーブルが接続されている。
 - SCSI 機器の電源が入っている。
- ・ NEC 版 OS/2 Warp に添付する MO 用のドライバ「NECMO3.SYS」を組み込んで MO ドライブを使用する場合、128MB のメディア以外の初期化はサポートされません。
- ・ NEC 製のドライブ（エンジン）を採用している PD ドライブを接続した場合、CD 部は使用できません。PD 部は問題なく使用できます。
- ・ zip ドライブの接続に関する制限事項
 - IOMGDRV.FLT の入手については、各 zip ドライブメーカーへ直接お問い合わせください。
 - zip メディアのフォーマット(100MB 容量)やプロテクト関係の機能はサポートされません。
 - MAC とのデータ交換用にフォーマットされたメディアは認識できません。
 - 1997 年 1 月現在、日本国内で zip ドライブメーカーによる OS/2 サポートは行われておりませんので、zip ドライブのご使用はお客様ご自身の責任において行ってください。

2. Windows3.1 上でのインストール

SCSI PCカードにSCSI機器を接続して使用するには次のインストール作業が必要です。

1. カードサービス/ソケットサービスをインストールする。
まだカードサービスが組み込まれていない場合、パソコン本体に付属のディスク等から組み込みます。
詳しくは、後述「付録 PC カードドライバについて」をご覧ください。



2. ドライバをインストールする。
本製品に付属のフロッピーに含まれるインストール (Setup.exe) を使用してインストールします。
詳しくは、後述「Windows3.1 用インストーラ」をご覧ください。



3. SCSI 機器の接続
SCSI 機器の ID 等の設定、SCSI ケーブルの接続後、電源を入れます。
詳しくは、SCSI PC カードに添付の「REX-9530 ユーザーズマニュアル」の「SCSI ケーブルの接続と SCSI 機器の設定」をご覧ください。



4. パソコンの再起動で終了です。

ただし、ご使用になる環境によりましては、本書の手順どおりにインストールできない場合もありますのであらかじめご了承ください。

MS-DOSのみ環境でインストールする場合は、第章「付属のインストーラを使用しない場合」をご覧ください。

Windows3.1 用インストーラ

1. 最初に、Windows3.1 を起動します。
2. プログラムマネージャの [アイコン(F)] メニューの [ファイル名を指定して実行] を選択します。
3. [コマンドライン(C):] の入力欄に「A:¥SETUP.EXE」を入力して [OK] ボタンを押します。
インストーラが起動したら画面の指示にしたがって作業を進めます。



4. ご使用の機種を選択すると環境を設定するダイアログボックスが表示されます。
(ご使用の機種によって右下の画面は多少異なります。)

5. 環境ファイル (CONFIG.SYS) のあるドライブとドライブのインストール先ディレクトリを入力します。
また、接続する SCSI 機器をチェックします。



CD-ROM, HD/MO

以外に機器を接続す

る場合は、後述「各 SCSI 機器を接続するには」での説明もご覧ください。

6. 次に SCSI PC カードの I/O ポートや MSCDEX の設定を行います。
I/O ポートアドレスの値は、他のデバイスと競合しない値を選択してください。

先の「接続する SCSI 機器」で CD-ROM をチェックしなかった場合、MSCDEX に関する設定は行えません。

[OK] ボタンを押すとファイルのコピーや設定値の更新が行われます。



7. インストールが正常に終了したら、確認のウィンドウが表示されます。

[OK] ボタンを押すと Windows3.1 の画面に戻ります。



Windows 3.1 を終了して、MS-DOS へ戻ります。

以下のパソコンの場合、添付ディスクの「BM」ディレクトリから機種に対応したASPIマネージャを上書きコピーする必要があります。

**PC-9821Nr15, FMV-5150NA3, FMV-5133NP, FMV-5120NU2,
IBM ThinkPad 760**

SCSI 機器の接続と再起動

1. SCSI PC カードに添付のマニュアル「REX-9530 ユーザーズマニュアル」の「SCSI ケーブルの接続と SCSI 機器の設定」の説明にしたがって SCSI PC カード、SCSI ケーブル、SCSI 機器を接続します。そして、SCSI 機器の電源を入れます。
2. そして、SCSI PC カードを PC カードスロットに挿入します。
3. 最後に、パソコンを再起動します。

SCSI 機器を正しく使用できない場合

SCSI 機器を正しく使用できない場合、本製品添付フロッピーに含まれる SSC コマンドを実行して次のことを確認してください。

SSC の実行結果	確認事項
「ASPI マネージャが登録されていません」と表示された場合	PC カードの装着や CONFIG.SYS の記述を確認。
SCSI 機器を認識しない場合	SCSI 機器の設定や SCSI ケーブルの接続等を確認。
CD-ROM を認識している場合	Windows3.1 を起動する前に MSCDEX でドライブが割り当てられているか AUTOEXEC.BAT の記述を確認。
ハードディスクを認識している場合	REXFMT コマンドでディスクのフォーマットおよび区画設定を確認。
MO (光磁気ディスク) を認識している場合	REXFMT コマンドでディスクのフォーマットを確認。
zip ドライブを認識している場合	REXDISK の登録削除や Guest.exe の組み込みを確認。
スキャナを認識している場合	Setup で WinASPI の組み込みを確認。

詳しくは、第6章以降をご覧ください。

3. WindowsNT 4.0 での REX-9530 のインストール

ここでは、すでにWindowsNT 4.0が動作しているパソコンでSCSI PCカードを使用するためのドライバのインストール方法について説明します。

WindowsNT 4.0をこれからインストールする場合には、後述「SCSI PCカードでWindowsNT 4.0をインストールする」をご覧ください。

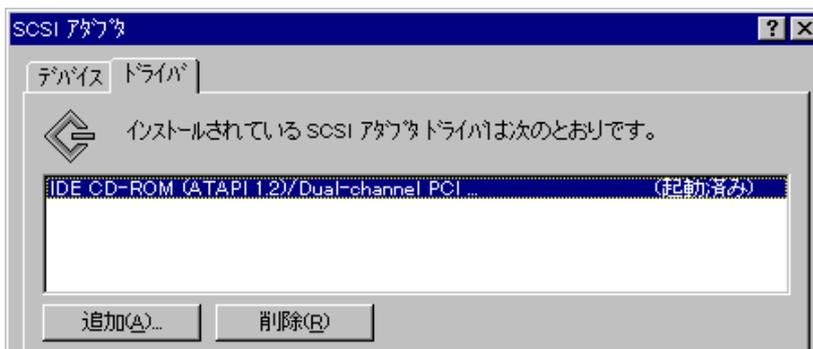
ただし、ご使用になる環境によりましては、本書の手順どおりにインストールできない場合もありますのであらかじめご了承ください。

WindowsNT 4.0 用ドライバのインストール

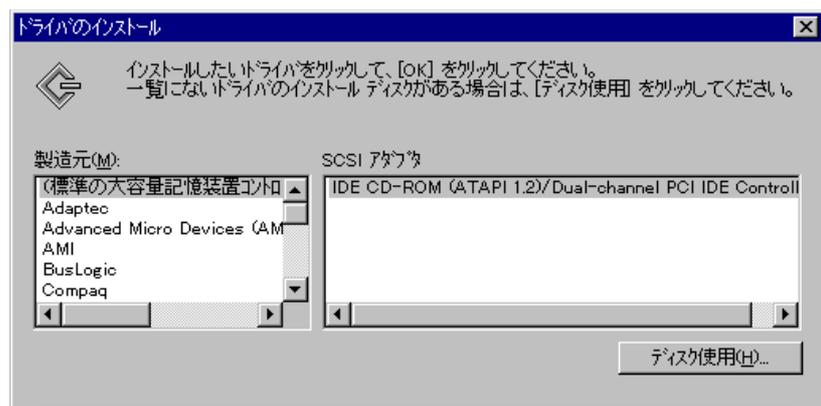
1. WindowsNT 4.0 を起動します。
SCSI PC カードを抜いた状態でパソコンを起動します。
2. [コントロールパネル] から [SCSI] アイコンを起動します。
3. 下の [SCSI アダプタ] 画面が表示されたら [ドライバ] タグをクリックします。



4. ドライバの画面が表示されたら [追加(A)..] ボタンを押します。

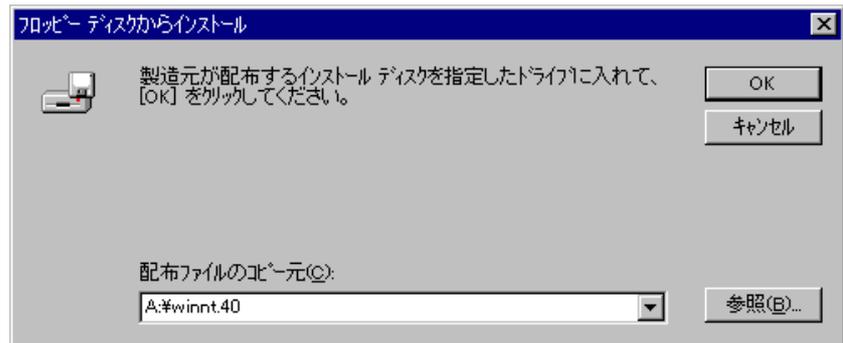


5. [ドライバのインストール] 画面が表示されたら、[ディスク使用(H)...] ボタンをクリックします。



第3章 WindowsNT 4.0 での REX-9530 のインストール

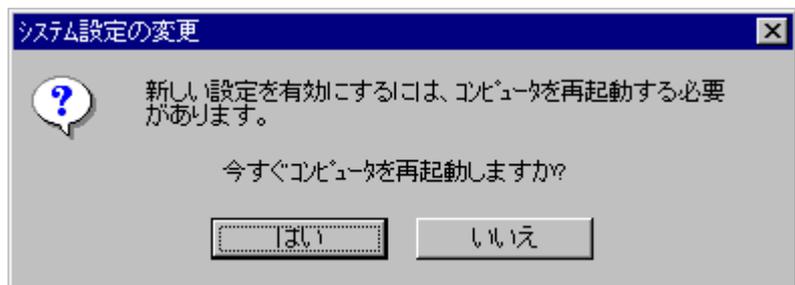
6. 右の画面が表示されたら、[配布ファイルのコピー元 (C):] の欄に「A:¥WINNT.40」と入力して [OK] ボタンをクリックします。



7. 右の画面が表示されたら使用するパソコンに対応した項目を選択して [OK] ボタンを押します。
PC98 の場合は、使用する割り込み番号で項目を選択できます。



8. ドライバファイルのコピーが終わると再起動指示する確認画面が表示されます。



[はい] ボタンをクリックする前に以下のことを行います。

- (1) フロッピードライブからドライバディスクを抜きます。
- (2) SCSI PC カードに添付のマニュアル「REX-9530 ユーザーズマニュアル」の「SCSI ケーブルの接続と SCSI 機器の設定」の説明にしたがって SCSI PC カード、SCSI ケーブル、SCSI 機器を接続します。そして、SCSI 機器の電源を入れます。
- (3) そして、SCSI PC カードを PC カードスロットに挿入します。
- (4) 最後に [はい] をクリックして WindowsNT を再起動します。

以上でドライバのインストールは終わりです。

インストール後の確認と設定

ここでは、ドライバが正しくインストールされて正常に動作しているかの確認方法について説明します。

1. [コントロールパネル] から [SCSI] アイコンを起動します。



[デバイス] リストの中に [SCSI PC Card REX 9530] が表示されていることを確認します。

2. [ドライバ] タグをクリックして、[SCSI PC Card REX 9530] が (起動済み) になっていること確認します。



[SCSI PC Card REX 9530] 項目が [起動済み] になっていない場合

この場合、インストールが正常に終了していない可能性があります。

ドライバを再インストールしてください。

再インストールしても [起動済み] にならない場合、リソース (I/O または IRQ) が競合している可能性があります。

この場合、REX-9530 のリソースを変更する方法はありませんので、競合している側のデバイスのリソースを変更してください。

CD-ROM ドライブのドライブ名の設定

CD-ROMドライブを接続した場合、以下の手順でドライブ名を割り当てます。

1. [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [ディスクアドミニストレータ] を起動します。
2. [ツール(T)] メニューの [ドライブ文字の割り当て] を使用して各 SCSI 機器に割り当てるドライブ名を設定します。

SCSI PC カードでWindowsNT 4.0 をインストールする

ここでは、WindowsNT 4.0をインストールする作業にSCSI PCカードに接続したCD-ROMを使用する場合について説明します。

1. MS-DOS 上で SCSI PC カードに接続した CD-ROM が使用できるようにする。

PC カードスロットが MS-DOS 上で使用できるようにします。

必要であればカードサービスのインストールを行います。

SCSI PC カード、CD-ROM が MS-DOS 上で使用できるようにします。

本製品付属の Windows3.1 用のインストーラを使用するか「9. 付録」にある「付属のインストーラを使用しない場合」に沿って行います。



2. SCSI 機器の接続

CD-ROM ドライブの設定、SCSI ケーブルの接続後、電源を入れます。パソコンを再起動して CD-ROM が読み出せることを確認します。



3. WindowsNT 4.0 のインストールをする。

CD-ROM ドライブに WindowsNT 4.0 の CD-ROM をセットして「WINNT」を実行してインストールを行います。

詳しくは、WindowsNT のマニュアルをご覧ください。

インストールが終了したら WindowsNT 4.0 を再起動します。

インストール途中に以下の画面が表示されます。

WindowsNTで使用するSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラを追加して指定する場合は、Sキーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイスサポートディスクで指定する場合も、Sキーを押してください。

メーカーのデバイスサポートディスクがない場合、または追加で指定したいWindowsNTを使用する大容量記憶装置がない場合は、Enterキーを押してください。

ここでは、SCSI PCカードは対象外になりますのでEnterキーを押して、そのままインストールを続けます。



4. SCSI アダプタの追加

先に説明した「WindowsNT 4.0 用ドライバのインストール」にしたがって SCSI アダプタの追加を行います。

SCSI PCカードに接続されたディスクへWindowsNT 4.0をインストールすることはできませんのでご注意ください。

4. WindowsNT 3.51 での REX-9530 のインストール

ここでは、すでにWindowsNT 3.51が動作しているパソコンでSCSI PCカードを使用するためのドライバのインストール方法について説明します。

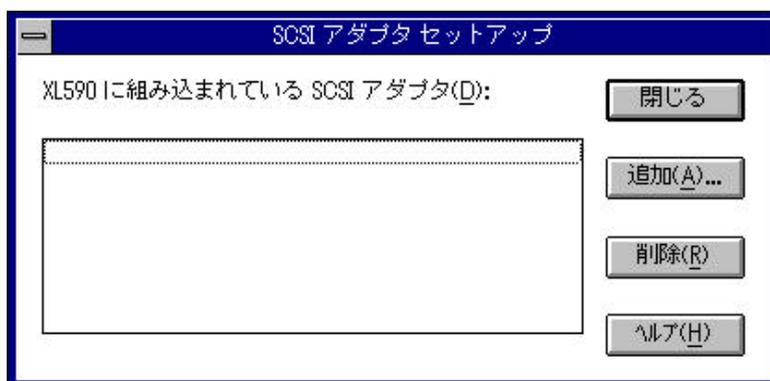
WindowsNT 3.51をこれからインストールする場合には、後述「SCSI PCカードでWindowsNT 3.51をインストールする」をご覧ください。

ただし、ご使用になる環境によりましては、本書の手順どおりにインストールできない場合もありますのであらかじめご了承ください。

WindowsNT 3.51 用ドライバのインストール

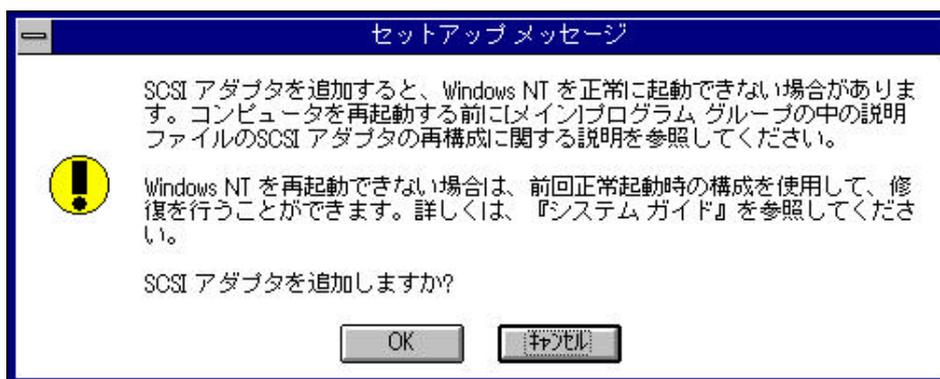
1. WindowsNT 3.51 を起動します。
SCSI PC カードを抜いた状態でパソコンを起動します。
2. [メイン]グループから [WindowsNT セットアップ] を起動します。

3. [設定] - [SCSI アダプタの追加と削除(S)] を選択します。



4. [SCSI セットアップ] ウィンドウの [追加(A)..] ボタンを押します。

5. 下の確認画面が表示されたら [OK] ボタンを押します。

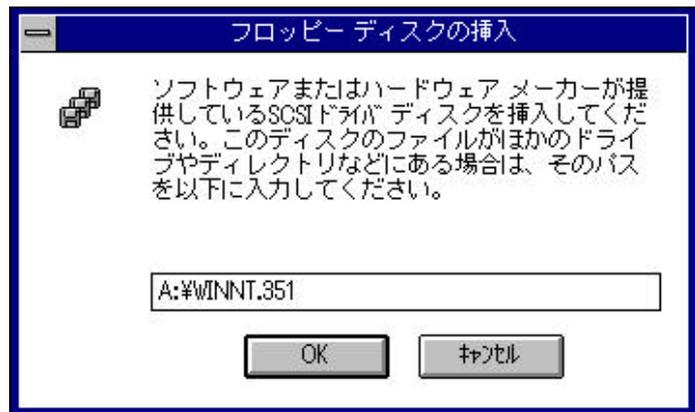


6. [SCSI アダプタのオプション選択] ウィンドウが表示されたら、[アダプタ(D)]の選択覧の右端の [] をクリックして一番下の [その他 (ハードウェアメーカー) のディスクが必要です] を選択します。



第4章 WindowsNT 3.51 での REX-9530 のインストール

7. [フロッピーディスクの挿入] ウィンドウが開いたらドライブ名とディレクトリ名「WINNT.351」を入力して [OK] ボタンを押します。



8. [OEM オプションの選択] ウィンドウで [RATO C REX-9530 SCSI2 HOST Adapter, for NT3.51] を選択して [OK] ボタンを押します。



9. [SCSI アダプタのオプション選択] ウィンドウの [アダプタ(D)] の選択覧に選択した項目が表示されていることを確認して [組み込み] ボタンを押します。



10. [Windows NT セットアップ] ウィンドウが開き、ドライバのコピー元の入力画面が表示されます。フロッピーディスクのドライブ名を入力して [続行] ボタンを押します。



11. ファイルのコピーが終わると [SCSI アダプタセットアップ] の画面に戻ります。

この画面で [組み込まれている SCSI アダプタ] の一覧に「REX-9530」が追加されていることを確認して [閉じる] ボタンを押します。
そして、フロッピーディスクを抜きます。



11. [Windows NT セットアップ] を終了します。



以上でドライバのインストールは終わりです。

SCSI 機器の接続と再起動

1. SCSI PC カードに添付のマニュアル「REX-9530 ユーザーズマニュアル」の「SCSI ケーブルの接続と SCSI 機器の設定」の説明にしたがって SCSI PC カード、SCSI ケーブル、SCSI 機器を接続します。そして、SCSI 機器の電源を入れます。
2. そして、SCSI PC カードを PC カードスロットに挿入します。
3. 最後に、WindowsNT 3.51 を再起動します。

インストール後の確認と設定

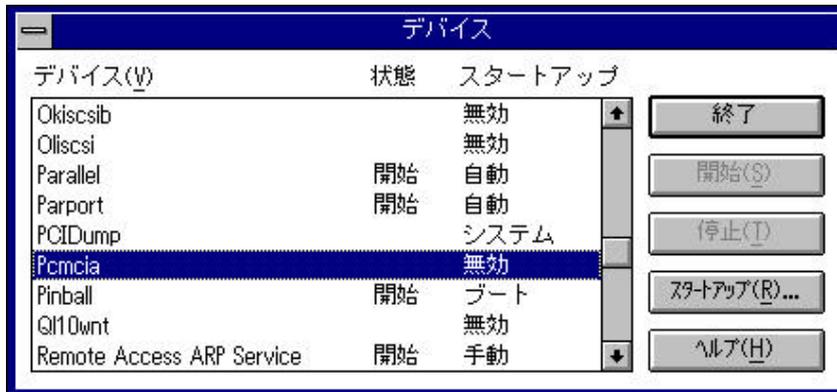
ここでは、ドライバが正しくインストールされて正常に動作しているかの確認方法について説明します。

1. [管理ツール]グループから [WindowsNT 診断プログラム] を起動します。
2. [ドライバ(R)...] ボタンを押して、[ドライバー一覧] ウィンドウを開きます。
一覧の中に [Pcmcia] [rex9530] の項目が表示されており、状態の欄が [実行中] になっていることを確認します。

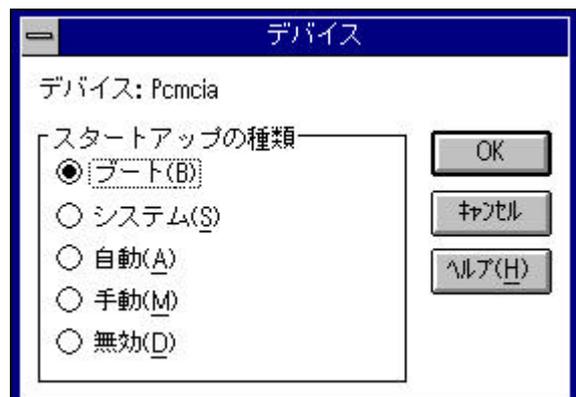


[Pcmcia] 項目が [実行中] になっていない場合や [Pcmcia] 項目がない場合

1. [コントロールパネル] を起動して [デバイス] を開きます。
2. デバイス [Pcmcia] を選択して [スタートアップ(R)...] ボタンを押します。



3. スタートアップの種類に [ブート(B)] を選択して [OK] ボタンを押します。
4. [開始] ボタンを押して状態を [開始] にします。
5. 最後に [終了] ボタンを押して [コントロールパネル] に戻り、[コントロールパネル] を終了します。



[rex9530] 項目が [実行中] になっていない場合

この場合、インストールが正常に終了していない可能性があります。
ドライバを再インストールしてください。

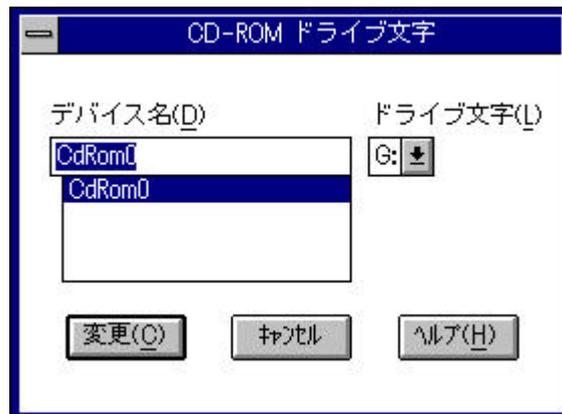
再インストールしても [実行中] にならない場合、リソース (I/O または IRQ) が競合している可能性があります。

この場合、REX-9530 のリリースを変更する方法はありませんので、競合している側のデバイスのリソースを変更してください。

CD-ROM ドライブのドライブ名の設定

CD-ROM ドライブを接続した場合、以下の手順でドライブ名を割り当てます。

1. [管理ツール] グループから [ディスクアドミニストレータ] を起動します。
2. [ツール(T)] メニューの [ドライブ文字] を使用して CDROM ドライブに割り当てるドライブ名を設定します。



SCSI PC カードで WindowsNT 3.51 をインストールする

ここでは、Windows3.1からWindowsNT 3.51へアップグレードする作業にSCSI PCカードに接続したCD-ROMを使用する場合について説明します。

1. MS-DOS 上で SCSI PC カードに接続した CD-ROM が使用できるようにする。

PC カードスロットが MS-DOS 上で使用できるようにします。

必要であればカードサービスのインストールを行います。

SCSI PC カード、CD-ROM が MS-DOS 上で使用できるようにします。

本製品付属の Windows3.1 用のインストーラを使用するか「9. 付録」にある「付属のインストーラを使用しない場合」に沿って行います。



2. SCSI 機器の接続

CD-ROM ドライブの設定、SCSI ケーブルの接続後、電源を入れます。パソコンを再起動して CD-ROM が読み出せることを確認します。



3. WindowsNT 3.51 のインストールをする。

CD-ROM ドライブに WindowsNT 3.51 の CD-ROM をセットして「WINNT」を実行してインストールを行います。

詳しくは、WindowsNT のマニュアルをご覧ください。

インストールが終了したら WindowsNT 3.51 を再起動します。

インストール途中に以下の画面が表示されます。

WindowsNTで使用するSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラを追加して指定する場合は、Sキーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイスサポートディスクで指定する場合も、Sキーを押してください。

メーカーのデバイスサポートディスクがない場合、または追加で指定したいWindowsNTを使用する大容量記憶装置がない場合は、Enterキーを押してください。

ここでは、SCSI PCカードは対象外になりますのでEnterキーを押して、そのままインストールを続けます。



4. SCSI アダプタの追加

先に説明した「WindowsNT 3.51 用ドライバのインストール」にしたがって SCSI アダプタの追加を行います。

SCSI PCカードに接続されたディスクへWindowsNT 3.51をインストールすることはできませんのでご注意ください。

5. OS/2 Warp での REX-9530 のインストール

ここでは、すでにOS/2 Warp Version 4 またはVersion 3 が動作しているパソコンで SCSI PCカードを使用するためのドライバのインストール方法について説明します。

OS/2 Warpをこれからインストールする場合には、後述「SCSI PCカードでOS/2 Warpをインストールする」をご覧ください。

ただし、ご使用になる環境によりましては、本書の手順どおりにインストールできない場合もありますのであらかじめご了承ください。

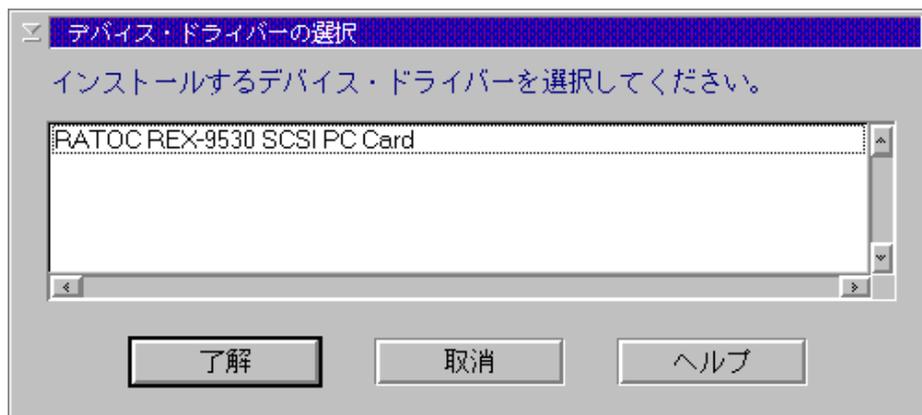
OS/2 Warp 用ドライバのインストール

1. OS/2 Warp を起動します。
SCSI PC カードを抜いた状態でパソコンを起動します。
2. [システム設定] - [インストール/削除] とアイコンを開いて [デバイスドライバのインストール] を起動します。
「Warp Version 3」の場合、[システム設定]の中からそのまま起動します。
3. [変更(C)...] ボタンをクリックして [ソースディレクトリ] の欄を「A:¥OS2」に変更します。

また [宛先ディレクトリ] の欄が OS/2 Warp がインストールされているドライブ名と異なる場合も変更します。最後に [インストール(I)...] ボタンを押します。

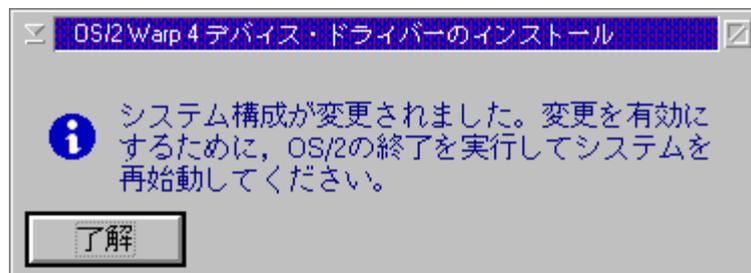


4. [デバイスドライバの選択] ウィンドウが表示されたら [REX-9530] を選択して、[了解] ボタンを押します。



第5章 OS/2 Warp での REX-9530 のインストール

5. ファイルのコピーが終わると[デバイスドライバーのインストール]ウィンドウに戻ります。
6. [終了]ボタンを押して終了すると OS/2 の再起動を指示する確認ウィンドウが表示されます。



以上でドライバのインストールは終わりです。

SCSI 機器の接続と再起動

1. SCSI PC カードに添付のマニュアル「REX-9530 ユーザーズマニュアル」の「SCSI ケーブルの接続と SCSI 機器の設定」の説明にしたがって SCSI PC カード、SCSI ケーブル、SCSI 機器を接続します。そして、SCSI 機器の電源を入れます。
2. そして、SCSI PC カードを PC カードスロットに挿入します。
3. 最後に、OS/2 Warp を再起動します。
4. OS/2 Warp の起動時に「ピポ、ピポ」と音がすればドライバは正しくインストールされています。

SCSI PC カードで OS/2 Warp をインストールする

ここでは、OS/2 Warp Version 4 または Version 3 をインストールする作業に SCSI PC カードに接続した CD-ROM を使用する場合について説明します。

1. MS-DOS 上で SCSI PC カードに接続した CD-ROM が使用できるようにする。

PC カードスロットが MS-DOS 上で使用できるようにします。

必要であればカードサービスのインストールを行います。

SCSI PC カード、CD-ROM が MS-DOS 上で使用できるようにします。

本製品付属の Windows3.1 用のインストーラを使用するか「9. 付録」にある「付属のインストーラを使用しない場合」に沿って行います。



2. SCSI 機器の接続

CD-ROM ドライブの設定、SCSI ケーブルの接続後、電源を入れます。

パソコンを再起動して CD-ROM が読み出せることを確認します。



3. OS/2 Warp のインストール

「SCSI PC カード用ディスク 1」の作成

後述の説明にしたがって SCSI PC カードで OS/2 Warp をインストールするためのディスクを作成します。

OS/2 Warp のインストールの開始

CD-ROM ドライブに OS/2 Warp の CD-ROM をセットします。

そして、「インストール・ディスク」「SCSI PC カード用ディスク 1」を使用して OS/2 Warp のインストールを始めます。



4. OS/2 Warp の再起動

SCSI PC カードに接続されたディスクへ OS/2 Warp をインストールすることはできませんのでご注意ください。

「SCSI PC カード用ディスク1」の作成 (DOS/V)

1. フォーマット済みの新しいディスクを1枚用意します。
「SCSI PC カード用ディスク1」とラベルに書いて貼ります。
2. OS/2 Warp に付属の「ディスク1」をディスクドライブに挿入して複製を作成します。

```
C:¥> diskcopy a: a:
```

複写先ディスクへの交換メッセージが表示されたら「SCSI PC カード用ディスク1」をドライブに挿入してコピーを続けます。

3. コピーが終わったら、ディスクの空き容量を確保するため「FD16-700.ADD」ファイルを削除します。
4. OS/2 Warp に付属の「BonusPak」CD-ROM の「J_POCKET¥MAINTNCE¥CSSCSI」ディレクトリからソケットサービス、カードサービスのドライバファイルをコピーします。

CD-ROM ドライブが「D:」に割り当たっている場合、以下のようにコピーします。

```
C:¥> d:  
D:¥> cd ¥j_pocket¥maintnce¥csscsi  
D:¥J_POCKET¥MAINTNCE¥CSSCSI> copy pcmcia.sys a:¥  
D:¥J_POCKET¥MAINTNCE¥CSSCSI> copy ibm2ss01.sys a:¥  
D:¥> c:
```

5. ハードディスクに SCSI PC カード用のドライバ類をコピーします。
ディスクドライブへ本製品添付のディスクを挿入して、以下のようにコピーします。

```
C:¥> copy a:¥os2¥rexcad.sys c:¥  
C:¥> copy a:¥os2¥scsi9530.add c:¥
```

6. 「SCSI PC カード用ディスク1」に SCSI PC カード用のドライバ類をコピーします。
ディスクドライブへ「SCSI PC カード用ディスク1」を挿入して、以下のようにコピーします。

```
C:¥> copy c:¥rexcad.sys a:¥  
C:¥> copy c:¥scsi9530.add a:¥
```

7. CONFIG.SYS ファイルの編集
「SCSI PC カード用ディスク1」に含まれる CONFIG.SYS ファイルに以下の4行を追加します。

```
BASEDEV=PCMCIA.SYS  
BASEDEV=IBM2SS01.SYS  
BASEDEV=REXCARD.SYS  
BASEDEV=SCSI9530.ADD
```

以上で「SCSI PC カード用ディスク1」の作成は終わりです。
次の「OS/2 Warp のインストール」に進みます。

「SCSI PC カード用ディスク1」の作成 (NEC)

1. フォーマット済みの新しいディスクを1枚用意します。
「SCSI PC カード用ディスク1」とラベルに書いて貼ります。
2. OS/2 Warp に付属の「ディスク1」をディスクドライブに挿入して複製を作成します。

```
A:¥> diskcopy c: c:
```

複写先ディスクへの交換メッセージが表示されたら「SCSI PC カード用ディスク1」をドライブに挿入してコピーを続けます。

3. コピーが終わったら、ハードディスクに SCSI PC カード用のドライバ類をコピーします。

ディスクドライブへ本製品添付のディスクを挿入して、以下のようにコピーします。

```
A:¥> copy c:¥os2¥rexcad.sys a:¥  
A:¥> copy c:¥os2¥scsi9530.add a:¥
```

4. 「SCSI PC カード用ディスク1」に SCSI PC カード用のドライバ類をコピーします。

ディスクドライブへ「SCSI PC カード用ディスク1」を挿入して、以下のようにコピーします。

```
A:¥> copy a:¥rexcad.sys c:¥  
A:¥> copy a:¥scsi9530.add c:¥
```

5. CONFIG.SYS ファイルの編集

「SCSI PC カード用ディスク1」に含まれる CONFIG.SYS ファイルに以下の4行を修正します。

修正前

```
rem basedev=pcmcia.sys /p  
rem basedev=nec1ss01.sys /s0=4  
rem basedev =csscsi98.sys  
rem basedev =scsicd.add
```

修正後

```
basedev=pcmcia.sys /p  
basedev=nec1ss01.sys /s0=4  
rem basedev =csscsi98.sys  
basedev =scsicd.add  
basedev=rexcad.sys  
basedev=scsi9530.add
```

← rem を取り除きます。
← rem を取り除きます。
← この行だけ修正しません。
← rem を取り除きます。
← この行を追加します。
← この行を追加します。

以上で「SCSI PC カード用ディスク1」の作成は終わりです。

次の「OS/2 Warp のインストール」に進みます。

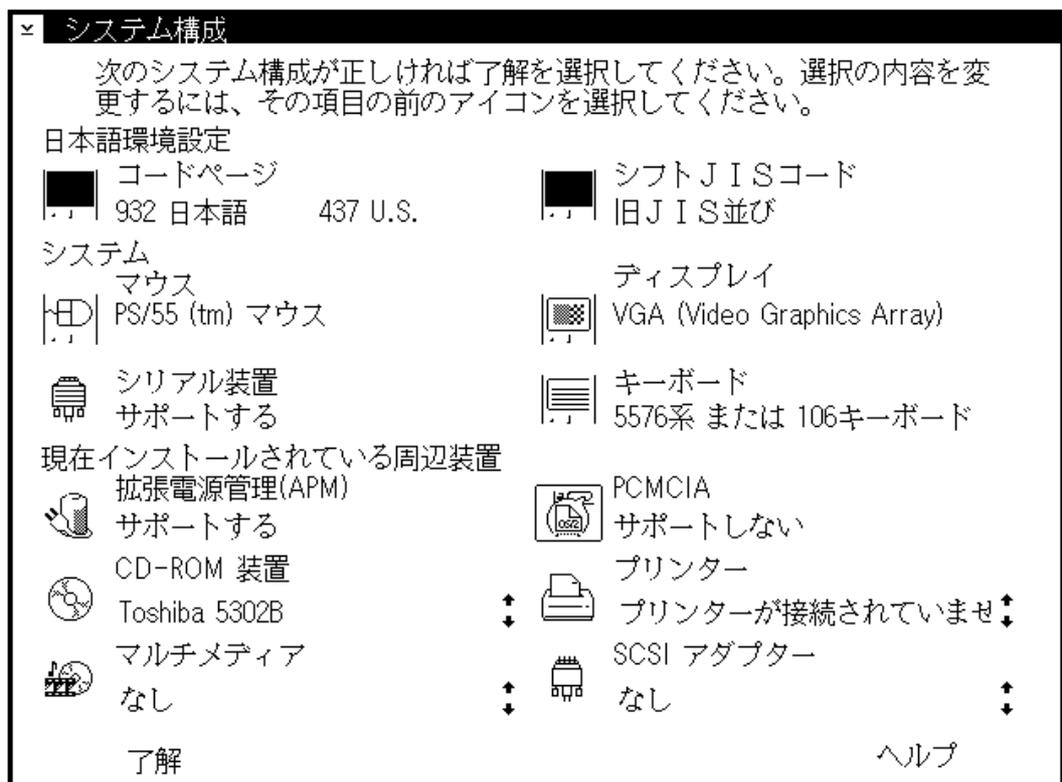
OS/2 Warp のインストール

1. OS/2 Warp に付属のマニュアルにしたがってインストールを開始します。
詳しくは、OS/2 Warp に付属のマニュアルをご覧ください。
2. 「インストール・ディスク」の読み込みが終わると以下のメッセージが表示されます。

ドライブ A からディスクを取り出してください。
OS/2 ディスク 1 をドライブ A に挿入して、Enter (改行) を
押してください。

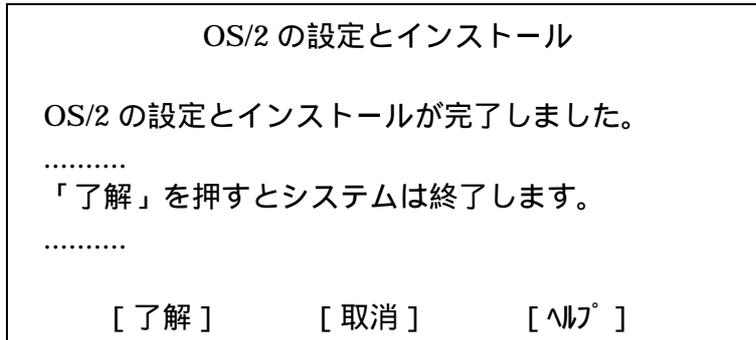
ここで、先に作成した「SCSI PC カード用ディスク 1」に入れ替えてインストールを続けます。

3. インストールが進むと以下の [システム構成] 画面が表示されます。



4. [PCMCIA] の欄の設定
この欄は最初、「サポートしない」と表示されているので変更します。
DOS/V 機の場合
PCMCIA アイコンをクリックしてご使用のコンピュータ名を選択します。
適当なコンピュータ名が見つからない場合は、「IBM ThinkPad 360」を選択しておいてください。
NEC PC98 の場合
「サポートする」を選択します。
また、「PCMCIA シリアル」のチェックはとりあえずクリアしておいてください。
5. [SCSI アダプタ] 欄の設定
この欄は、「なし」になっていることを確認してください。
何か設定されている場合、「なし」に設定してください。

6. インストールの終了
インストールの最後で以下の画面が表示されますが、必ず [取消] ボタンを選択してください。



7. [プロダクティビティ] 中の [システムエディタ] を起動します。
8. ファイル名の欄に [¥CONFIG.SYS] と入力して CONFIG.SYS ファイルを開きます。
ファイル名の先頭には必ず「¥」マークを指定してください。
9. 次の2行がファイルの先頭にある場合は、これをファイルの一番最後へ移動します。

```
BASEDEV=REXCARD.SYS
BASEDEV=SCSI9530.ADD
```

移動方法

- カーソルをファイルの先頭へ移動します。
- [Shift] キーを押しながら [] キーを押して先の2行を選択します。
- [Shift] キーを押しながら [削除] キーを押して選択した2行を削除します。
- カーソルをファイルの最後へ移動します。
- [Shift] キーを押しながら [挿入] キーを押して選択した2行を追加します。

最後に、ファイルメニューから [保存] を選んでセーブします。

10. システムの再起動

デスクトップ画面でマウスの右ボタンを押してメニューを表示させます。
表示したメニューから「OS/2 の終了(D)...」を選択して OS/2 を終了させます。
OS/2 が終了したら、パソコン本体をリセットして再起動します。

OS/2 Warp の起動時に「ピポッ、ピポッ」と音がすればドライバは正しくインストールされています。

REXCARD.SYS - SCSI PC カード用イネーブラ

REXCARD.SYS は、SCSI PC カード用のイネーブラです。

PCMCIA.SYS, IBM2SS01.SYS 等のカードサービスドライバより後ろ、SCSI9530.ADD アダプタドライバより前に登録される必要があります。

カードの抜き差しに対応してビープ音が鳴ります。

状態・意味	対応するビープ音
カードを差したとき	ピポッ, ピポッ
カードを抜いたとき	ポピッ, ポピッ
イネーブルに失敗したとき	ブー

書式

```
BASEDEV=REXCARD.SYS [/nobeep] [/v]
```

オプション

/nobeep

このオプションが指定された場合、カードの認識音を鳴らさないようにします。

/v

このオプションを指定された場合、ドライバ起動時に以下のような起動情報を画面に表示します。

```
OS/2 PCMCIA Enabler Ver x.xx for REXCARD is installed.  
Boot Setting RATOCS SCSI PC-Card  
Socket No. 1 PORT 120 IRQ 3 REXxxxx RATOCS System Inc.  
Socket No. 2 .....
```

SCSI9530.ADD - REX-9530 用 SCSI アダプタドライバ

REX-9530 用の SCSI アダプタドライバです。

REXCARD.SYS より後ろに登録される必要があります。

書式

```
BASEDEV=SCSI9530.ADD [!/SN] [!/SYNC] [!/DISCONNECT] [/S1]  
[/ResetDelay=xx] [/RM] [/8Bit]
```

オプション

!/SN または !/SYNC

このオプションが指定された場合、接続したすべての SCSI 機器に対するデータ転送モードを非同期で行います。

!/DISCONNECT

このオプションが指定された場合、接続したすべての SCSI 機器に対して切断処理(ディスクコネク - リコネク処理)を実行しません。

ただし、この指定を行うとシステム全体のパフォーマンスは低下します。

/S1

このオプションが指定された場合、同期ネゴシエーションを 5MB (SCSI-1 仕様) から開始します。

10MB ネゴシエーションで動作不安定な機器を接続するために使用します。

「/S1」に続けて SCSI-ID 番号やロジカルユニット番号を指定します。

例

/S1:1,2	SCSI-ID 番号「1, 2」に対する指定
/S1:(2,0)	SCSI-ID 番号「2」のロジカルユニット「0」に対する指定
/S1:1,(2,0)	上記 2 つの組み合わせ

/ResetDelay=xx

このオプションが指定された場合、SCSI リセット発行後 xx で指定された秒数の間だけ次の SCSI 処理実行を待ちます。

この指定により、リセット後の起動が遅い SCSI 機器を接続することが可能となります。

/RM

このオプションが指定された場合、zip ドライブやリムーバブルハードディスクを OPTICAL.SYS で認識させます。

「/RM」に続けて SCSI-ID 番号やロジカルユニット番号を指定します。指定方法は「/S1」オプションと同じです。

「IOMGDRV.FLT」を組み込んでいる場合は、「/RM」オプションの指定なしで zip ドライブが認識可能となります。

zip ドライブとの接続に関してはいくつかの注意事項、制限事項がありますので必ず、前出「第1章 REX-9530KIT について」の「OS/2 Warp における制限」をご覧ください。

/8Bit

このオプションが指定された場合、SCSI PC カード内の SCSI コントローラの読み出しをバイト単位で行います。

SCSI9530.ADD は通常ダブルワード(32bit)単位で行いますが、SCSI 機器を認識しない場合や、ドライバの動作が不安定な場合にはこのオプションを指定してみてください。

6. 各 SCSI 機器を使用するには

この章では、SCSI PC カードにさまざまな SCSI 機器を接続して DOS/Windows3.1 上で使用する手順について説明していきます。

以下の順番で各 SCSI 機器毎に説明していきます。

- ・ CD-ROMドライブ、光磁気ディスク (MO) ドライブ、ハードディスクドライブ、PDドライブ、zipドライブ、MD(ミニディスク)データドライブ、スキャナ

CD-ROM ドライブを使用する

SCSI インターフェイスを備えた CD-ROM ドライブを SCSI PC カードに接続して DOS/Windows3.1 上で使用する場合の手順を説明します。

CD-ROM ドライブを使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

[使用する SCSI 機器] の [CD-ROM ドライブ] は必ずチェックします。

2. SCSI PC カード、SCSI ケーブル、CD-ROM ドライブの接続

SCSI PC カードを PC カードスロットに奥まで差し込みます。

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

CD-ROM ドライブに対して以下の設定を行います。

SCSI-ID	0~6 のいずれか
タームパワー供給	有効にする

CD-ROM ドライブの SCSI コネクタにターミネータ(終端抵抗)を取り付けます。

CD-ROM ドライブのもう一方の SCSI コネクタに SCSI ケーブルを取り付けます。

3. システムの再起動

CD-ROM ドライブの電源を入れます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

CD-ROM の接続を確認する

DOS 上ではパソコンが起動した時に、MSCDEX が表示するメッセージを確認します。

```
MSCDEX Version 2.23
Copyright(C) Microsoft Corp. 1986,1987,1988,1990 All right reserved.
Drive L: = Driver PCMCIA CD unit 0
```

3 行目の「Drive x:」表示のドライブが CD-ROM に割り当てられたドライブです。

このドライブに対して DIR コマンド等でファイル名が表示されるか確認します。

- ・ エラーになる場合は、SCSI ケーブルやターミネータの接続および CD-ROM ドライブの設定等が正しいか確認してください。

第6章 各 SCSI 機器を接続するには

音楽 CD を聞く

本製品には CDPLAY.EXE という DOS 上で音楽 CD を聞くためのプログラムを用意しています。詳しくは、後述の「CDPLAY.EXE」をご覧ください。

Windows3.1 上で音楽 CD を聞く場合は、Windows3.1 のアクセサリに含まれるメディアプレーヤというソフトを使用します。詳しくは、MS-Windows のマニュアルをご覧ください。音声出力は、CD-ROM ドライブのライン出力またはヘッドホン端子から出力されます。パソコン本体のスピーカからは出力されませんのでご注意ください。

CD-ROM ドライブを使用する場合の注意

- ・ CD-ROM ドライブに付属のデバイスドライバは組み込む必要がありません。
- ・ PhotoCD, VideoCD, CD-I を再生する場合は、専用の再生ソフトが必要ですが本製品には含まれておりませんので、別途ご用意ください。

MSCDEX についての注意事項

- ・ SCSI PC カードに CD-ROM ドライブを接続して DOS/Windows3.1 上で使用する場合には、APSI マネージャ, ASPI モジュール以外に MSCDEX.EXE が必要ですが、本製品には含まれておりません。MSCDEX はマイクロソフト社の製品で以下のものを別途ご用意ください。

DOS/V 機 (PC/AT 100%互換機)	MS-DOS6.2/V, PC-DOS6.3/V, PC-DOS7.0/V に 付属のもの CD-ROM ドライブに付属のもの
NEC PC-9821 シリーズ	NEC 版 MS-DOS 6.2 または NEC 版 Windows3.1 に付属のもの CD-ROM ドライブに付属のもの
EPSON PC-486/586 Note シリーズ	EPSON 版 MS-DOS 6.2 に付属のもの CD-ROM ドライブに付属のもの

- ・ ネットワーク環境で使用する場合は、ネットワークを起動した後で MSCDEX をロードしてください。
また、CD-ROM に割り当てるドライブ名がネットワークドライブと重ならないように指定してください。
- ・ MSCDEX のパラメータについては、後述の「MSCDEX.EXE」をご覧ください。

「NECCD.SYS」等の CD-ROM デバイスドライバについて

CD-ROM デバイスドライバ「NECCD.SYS」は、NEC 製 SCSI インターフェイス用のデバイスドライバで ASPI 仕様でないため、REX-9530 と組み合わせて動作させることはできません。このため、「NECCD.SYS」を「CONFIG.SYS」ファイルに登録する必要はありません。また、CD-ROM ドライブに付属する CD-ROM デバイスドライバも ASPI 仕様以外は、全く使用できませんので「CONFIG.SYS」ファイルに登録しないでください。

光磁気ディスク(MO)ドライブを使用する

SCSI インターフェイスを備えた光磁気ディスク(MO)ドライブを SCSI PC カードに接続して DOS/Windows3.1 上で使用する場合の手順を説明します。

MO ドライブを使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

[使用する SCSI 機器] の [ハードディスク、MO] は必ずチェックします。

2. SCSI PC カード、SCSI ケーブル、MO ドライブの接続

SCSI PC カードを PC カードスロットに奥まで差し込みます。

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

MO ドライブに対して以下の設定を行います。

SCSI-ID	0~6 のいずれか
タームパワー供給	有効にする

MO ドライブの SCSI コネクタにターミネータ(終端抵抗)を取り付けます。

MO ドライブのもう一方の SCSI コネクタに SCSI ケーブルを取り付けます。

3. システムの再起動

MO ドライブの電源を入れます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

メディアのフォーマット

DOS/Windows3.1 上で MO のメディアをフォーマットするには DOS のプロンプト状態で REXFMT というフォーマットユーティリティを使用します。

```
REXFMT [%Adapter_No] #SCSI-id /MO:[ FD | IBM | NEC ] [ /INIT ]
```

オプションパラメータ

オプション	意味
%Adapter_No	「%」に続けて対象となるホストアダプタの番号を指定します。
#SCSI-id	「#」に続けて対象となるMOドライブのSCSI-ID番号を指定します。
/MO:	MO メディアの論理フォーマットを行う指定です。 「/MO:」に続けてフォーマット形式「FD, IBM, NEC」の3種類から指定します。Windows95 のマシンでこのメディアを使用する場合は、必ず「FD」を選択してください。フォーマット形式を省略した場合、「FD」を選択したことになります。
FD	MOの一般的な形式です。 異機種間での互換性が最もあるフォーマットです。
IBM	DOS/Vの「FDISK」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式です。
NEC	PC-9800シリーズの「FORMAT」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式です。
/INIT	論理フォーマットをする前に物理フォーマットを実行します。

第6章 各 SCSI 機器を接続するには

実行例

```
REXFMT #1 /MO /INIT
```

SCSI-ID が「1」のドライブのメディアの初期化を物理フォーマットを含めて行います。また、フォーマット形式は「FD」になります。

REXFMT に関する詳しい説明は、後述の「REXFMT.EXE」をご覧ください。

MO ドライブを使用する場合の注意

- ・ MO ドライブに付属のデバイスドライバは組み込む必要がありません。
- ・ DOS/Windows3.1 上では FDISK や FORMAT コマンドによるフォーマットはできません。
- ・ 新規メディアは物理フォーマットを行ってください。
- ・ 対応する物理セクターサイズは 512 バイト/セクターのみです。
- ・ 論理フォーマットのフォーマット形式は特に指定しないでください。

ハードディスクドライブを使用する

SCSI インターフェイスを備えたハードディスクドライブを SCSI PC カードに接続して DOS/Windows3.1 上で使用する場合の手順を説明します。

ハードディスクドライブを使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

[使用する SCSI 機器] の [ハードディスク、MO] は必ずチェックします。

2. SCSI PC カード、SCSI ケーブル、ハードディスクドライブの接続

SCSI PC カードを PC カードスロットに奥まで差し込みます。

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

ハードディスクドライブに対して以下の設定を行います。

SCSI-ID	0~6 のいずれか
タームパワー供給	有効にする

ハードディスクドライブの SCSI コネクタにターミネータ(終端抵抗)を取り付けます。
ハードディスクドライブのもう一方の SCSI コネクタに SCSI ケーブルを取り付けます。

3. システムの再起動

ハードディスクドライブの電源を入れます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

ハードディスクのフォーマット

新規のディスクを接続する場合には、ハードディスクをフォーマットとパーティションの作成をする必要があります。

DOS/Windows3.1 上でハードディスクをフォーマットするには DOS のプロンプト状態で REXFMT というフォーマットユーティリティを使用します。

```
REXFMT [%Adapter_No] #SCSI-id /HD :< IBM | NEC > [ /INIT ]
```

オプションパラメータ

オプション	意味
%Adapter_No	「%」に続けて対象となるホストアダプタの番号を指定します。
#SCSI-id	「#」に続けて対象となるハードディスクドライブのSCSI-ID番号を指定します。
/HD:	ハードディスクの論理フォーマットを行う指定です。 「/HD:」に続けてフォーマット形式「IBM, NEC」の2種類から指定します。省略はできません。
IBM	DOS/Vの「FDISK」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式です。
NEC	PC-9800シリーズの「FORMAT」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式です。
/INIT	論理フォーマットをする前に物理フォーマットを実行します。

実行例

```
REXFMT #1 /HD:IBM
```

SCSI-ID が「1」のドライブの初期化を FDISK 形式で行います。

ハードディスクのフォーマットが正常に終了したら、パーティションを作成する必要があります。パーティションを作成する場合にも REXFMT を使用します。

REXFMT に関する詳しい説明は、後述の「REXFMT.EXE」をご覧ください。

ハードディスクドライブを使用する場合の注意

- ・ハードディスクドライブに付属のデバイスドライバは組み込む必要がありません。
- ・DOS/Windows3.1 上では FDISK や FORMAT コマンドによるフォーマットはできません。

PD ドライブを使用する

PD ドライブ を接続して DOS/Windows3.1 上で使用する手順を説明します。ここでは、Panasonic 製の PD ドライブ LF-1000 との接続を例に説明します。

PD ドライブを使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。
[使用する SCSI 機器]の [CD-ROM ドライブ] [ハードディスク、MO] は必ずチェックします。

第6章 各 SCSI 機器を接続するには

2. SCSI PC カード、SCSI ケーブル、PD ドライブの接続

SCSI PC カードを PC カードスロットに奥まで差し込みます。

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

PD ドライブに対して以下の設定を行います。

SCSI-ID	0~6 のいずれか
ファンクションスイッチ 1 番 ターミネータ(TERMINATOR)	ON
ファンクションスイッチ 2 番(LUN)	OFF

PD ドライブの SCSI IN コネクタに SCSI ケーブルを取り付けます。

3. システムの再起動

PD ドライブの電源を入れます。

PD ドライブのインストーラは実行しません。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

PD メディアのフォーマット

新規の PD ディスクを接続する場合には、PD をフォーマットする必要があります。

DOS/Windows3.1 上で PD をフォーマットするには DOS のプロンプト状態で REXFMT というフォーマットユーティリティを使用します。

```
REXFMT [%Adapter_No] #SCSI-id /MO:[ FD |IBM |NEC ] [ /INIT ]
```

オプションパラメータ

オプション	意味
%Adapter_No	「%」に続けて対象となるホストアダプタの番号を指定します。
#SCSI-id	「#」に続けて対象となるPDドライブのSCSI-ID番号を指定します。
/MO:	PD メディアの論理フォーマットを行う指定です。 「/MO:」に続けてフォーマット形式「FD, IBM, NEC」の3種類から指定します。Windows95 のマシンでこのメディアを使用する場合は、必ず「FD」を選択してください。フォーマット形式を省略した場合、「FD」を選択したことになります。
FD	PDの一般的な形式です。 異機種間での互換性が最もあるフォーマットです。
IBM	DOS/Vの「FDISK」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式です。
NEC	PC-9800シリーズの「FORMAT」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式です。
/INIT	論理フォーマットをする前に物理フォーマットを実行します。

実行例

```
REXFMT #1 /MO
```

SCSI-ID が「1」のドライブのメディアの初期化を FD 形式で行います。

フォーマット形式に「IBM, NEC」を指定した場合はフォーマットが終了したら、パーティションを作成する必要があります。パーティションを作成する場合にも REXFMT を使用します。

REXFMT に関する詳しい説明は、後述の「REXFMT.EXE」をご覧ください。

PD ドライブを使用する場合の注意

- ・ DOS/Windows3.1 上で FDISK や FORMAT コマンドによるメディアのフォーマットはできません。
- ・ DOS/Windows3.1 上での PD ドライブへのアクセスは「REXDISK.SYS」、
「REXCD.SYS」を使用するため PD ドライブ付属のデバイスドライバを組み込む必要はありません。
- ・ PD ドライブに付属のユーティリティは使用できません。
- ・ メディアのフォーマットは、REXFMT.EXE を使用します。

zip ドライブを使用する

zip ドライブ を接続して Windows95 上で使用する場合の手順を説明します。

zip ドライブに添付のマニュアルには「PCカードでの接続は不可」という意味の表記がありますが、本製品はPCカードの電源のみで動作可能なアクティブターミネータを内蔵しているため、zip ドライブとの接続において問題はありません。

zip 専用モデル REX-9530Z 以外で zip ドライブを接続するには、専用の SCSI ケーブル (RCL-3004-05) が別途必要です。

zip ドライブを使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

zip ドライブのみを接続する場合、[使用する SCSI 機器] の [CD-ROM ドライブ] [ハードディスク、MO] のチェックは両方ともクリアします。

ハードディスク / 光磁気ディスクと同時に使用する場合

- ・ CONFIG.SYS ファイルの以下の行に「/NoScanID」指定で zip ドライブに割り当てる SCSI-ID にアクセスしないように指定します。

```
DEVICE=C:¥SCSI¥REXDISK.SYS /NoScanID:5+6
```

2. SCSI PC カード、SCSI ケーブル、zip ドライブの接続

SCSI PC カードを PC カードスロットに奥まで差し込みます。

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

zip ドライブに対して以下の設定を行います。

SCSI-ID	5 または 6 のいずれか
ターミネータ(TERMINATOR)	ON にする

zip ドライブの SCSI コネクタに専用の SCSI ケーブルを取り付けます。

zip ドライブにターミネータが付属している場合がありますが、これは使用しません。

3. システムの再起動

zip ドライブの電源を入れます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

第6章 各 SCSI 機器を接続するには

4. zip ドライブのインストーラの実行

Windows3.1 を起動して、zip ドライブ添付のディスクからインストーラ「Setup」を実行して専用のソフトウェアを組み込みます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

zip ドライブを使用する場合の注意

- ・ zip ドライブのみを使用する場合は、REXDISK.SYS を組み込まないでください。
- ・ FDISK や FORMAT コマンドによるメディアのフォーマットはできません。

MD(ミニディスク)データドライブを使用する

MD データドライブを SCSI PC カードに接続する場合の手順について説明します。

MD データは音楽用の MD(ミニディスク)をコンピュータの記録媒体として扱うために拡張されたメディアです。

MD データドライブは、MD データをフロッピーディスクや MO などと同じ用途に使用するためのドライブです。

ここでは、SONY 製のポータブル MD データ・ドライブ MDH-10 との接続を例に説明します。

MD データドライブを使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

MD データドライブのみを接続する場合、[使用する SCSI 機器]の[CD-ROM ドライブ][ハードディスク、MO]のチェックは両方ともクリアします。

2. (2) SCSI PC カード、SCSI ケーブル、MD データドライブの接続

SCSI PC カードを PC カードスロットに奥まで差し込みます。

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

MD データドライブ以下の設定を行います。

SCSI-ID	0～6 のいずれか
ターミネータスイッチ	ON にする
POWER/モード切り換えスイッチ	「DATA」にする

MD データドライブの SCSI コネクタに SCSI ケーブルを取り付けます。

3. システムの再起動

MD データドライブの電源を入れます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

4. MD データのインストーラの実行

MD データドライブ添付のディスクから SETUP.EXE を実行して専用のソフトウェアを組み込みます。

MD データを使用するために以下の2行が AUTOEXEC.BAT ファイルに追加されます。

```
C:¥MDDATA¥MDMGR.EXE
C:¥MDDATA¥MDFSEX.EXE
```

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

メディアのフォーマット

MD データのメディアは MD FS(MD データファイルシステム)という独自のフォーマットを持っています。

メディアをフォーマットするには専用のフォーマットユーティリティを使用します。

DOS 上では MD FORMAT.EXE というコマンドを実行します。

```
MDFORMAT drive: [ -q | -s ] [ -v:label -o ] [ -? ]
```

オプションパラメータ

オプション	意味
drive	フォーマットするメディアの入っているドライブ名
-q	論理フォーマット
-s	物理フォーマットと論理フォーマット
-v:label	ボリュームラベル
-o	確認のステップなしで実行
-?	ヘルプ表示

実行例

```
mdformat d: -qv:TEST
```

D ドライブのメディアを論理フォーマットして「TEST」というボリュームラベルを付けます。

Windows 上では MD DATA グループにある MdfORMAT を実行します。

MD データドライブを使用する場合の注意

- ・ FDISK や FORMAT コマンドによるフォーマットはできません。
- ・ メディアのフォーマットは、MD FORMAT を使用します。

第6章 各 SCSI 機器を接続するには

スキャナを使用する

SCSI インターフェイスを備えたイメージスキャナを SCSI PC カードに接続して DOS/Windows3.1 上で使用する場合を中心に説明します。

イメージスキャナの場合、スキャナの種類やメーカーによって設定方法が異なります。紙面の都合上ここでは、EPSON の GT-8500 を例に説明します。他のスキャナについては、各スキャナに付属のマニュアル等をご覧ください。

GT-8500 を使用するための設定

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

画面左の [WinASPI の組み込み] 項目をチェックします。

スキャナのみを接続する場合、[使用する SCSI 機器] の [CD-ROM ドライブ] [ハードディスク、MO] のチェックは両方ともクリアします。

EPSON PC シリーズ (98 互換機) の場合、Windows3.1 の SYSTEM.INI ファイルの [System] セクション内に「ReflectTimer=1」を設定します。

([System] セクションそのものがない場合は追加します)

```
[System]
ReflectTimer=1
```

2. SCSI PC カード、SCSI ケーブル、GT-8500 の接続

SCSI PC カード用 SCSI ケーブルの小さい方のコネクタを SCSI PC カードに差し込みます。

GT-8500 に対しての以下の設定を行います。

SCSI-ID	1～6 のいずれか
ターミネータ(TERMINATOR)	OFF

GT-8500 の SCSI コネクタにターミネータ(終端抵抗)を取り付けます。

GT-8500 のもう一方の SCSI コネクタに SCSI ケーブルを取り付けます。

GT-8500では、ターミネータ(TERMINATOR)をONにすることによりSCSIコネクタにターミネータ(終端抵抗)を取り付けないように設定できますが、REX-9530を接続して使用する場合にはこの方法は推奨しません。

3. システムの再起動

スキャナの電源を入れます。

パソコン本体をリセットしてシステムを再起動します。

4. スキャナ添付のインストーラの実行

GT-8500 添付の EPSON Scan! II ディスクからインストーラ「Setup」を実行して専用のソフトウェアを組み込みます。

インストールが正常に終了すると、「EPSONスキャナの設定」ダイアログボックスが表示されます。

- ・「インターフェイス」は SCSI を選択して、「GT-8500」が認識されることを確認します。
- ・スキャンのテストをするためにスキャナに原稿をセットし、「テスト」ボタンを押してスキャナが正常に動作することを確認します。

詳しくは、EPSON Scan! II 取扱説明書をご覧ください。

GT-8500 を使用する場合の注意

- ・ GT-8500 自体は SCSI-ID を 0～7 まで設定可能ですが、EPSON Scan! II がスキャナを認識する SCSI-ID が 1～6 のため、ID0, ID7 は設定しないでください。
- ・ EPSON Scan! II をインストール後に GT-8500 の SCSI-ID を変更した場合は、Windows のコントロールパネルから「EPSONスキャナの設定」を選択して GT-8500 を再認識させる必要があります。
- ・ EPSON Scan! II のイメージ取得中に「イメージの転送に失敗しました」のエラー表示になった場合は、一度 GT-8500 の RESET スイッチを押した後にイメージ取得をもう一度最初から行ってください。
- ・ パソコンの機種や環境によって、EPSON Scan! II でカラー写真モードのイメージ取得をした場合には、イメージの取得が終わってから画面に表示されるまで 5 分以上かかる場合があります。

7. SCSI ユーティリティについて

この章では、添付ディスクに含まれるユーティリティソフトウェアについて説明していきます。

REXFMT.EXE - ディスク・フォーマット・コマンド

ハードディスクや光磁気ディスク(MO)、PDの論理フォーマット、パーティション設定・表示を行います。

このプログラムを実行するには、ASPIマネージャが登録されている必要があります。

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] [サブコマンド] [オプション...]
```

%Adapter_No	<p>ホストアダプタ番号を指定します。 この指定は、ATAPI仕様のCD-ROMドライブを内蔵しているパソコンでWindows95のDOSプロンプトから本コマンドを使用する場合などに、SCSI PCカードがホストアダプタ番号「0」以外で動作する場合に使用します。</p> <p style="margin-left: 40px;">ホストアダプタ 0 内蔵 CD-ROM (ATAPI) ホストアダプタ 1 SCSI PC カード</p> <p>省略時は、「0」が選択されます。</p>
#SCSI_ID	<p>対象ドライブのSCSI-ID番号を指定します。 省略時は、最も若い番号が選択されます。</p>
サブコマンド	<p>ディスクに対する処理を指定します。</p> <p>/HD ハードディスクのフォーマット /MO 光磁気ディスク(MO)およびPDのフォーマット /PAT 区画(パーティション)の作成 /DEL 区画の削除 /SLEEP 区画を一時的に無効(SLEEP)にする /ACTIVE 一時的に無効にした区画を有効(ACTIVE)にする</p>
オプション	<p>各処理の詳細を指定します。 各サブコマンドによって指定可能なオプションは異なります。</p>

サブコマンド、SCSI-ID以外のすべてのオプションを省略した場合は、指定SCSI-IDのドライブの状態について表示します。SCSI-IDも省略した場合は、最も若いSCSI-IDについて表示します。

(注意)REXFMTを起動しようとして下のようなメッセージを表示して実行できない場合があります。この場合は、「EMM386.EXE」のオプションに「D=48」を追加してシステムを再起動してください。

```
EMM386 DMA buffer is too small. Add D=48 parameter and reboot.
```

「EMM386.EXE」の記述例

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM 1024 FRAME=D000 X=C800-CFFF D=48
```

第7章 SCSI ユーティリティについて

状態表示の実行例

```
A:¥SCSIUT> REXFMT #0 <Enter>
ハードディスク・MOフォーマットユーティリティ Verx.x (yymmdd)
(c)RATOC system.inc,1994,1995. all right reserved.

Check SCSI ID:#0.....OK!
メディアタイプ: Hard Disk (HD) <SEAGATE ST32430N 025>
ディスクの全容量: 2149071360 バイト (2049 メガバイト)
フォーマット形式: I B M H D
全シリンダ数: 261
1シリンダあたりのバイト数: 8225280バイト
ヘッド数: 255
トラックあたりのセクタ数: 63

区画番号 容量 開始シリンダ 終了シリンダ %
  00 1019 メガバイト 0 129 49.81

空き領域 1: 1027 メガバイト (131 シリンダ)
処理を終了します。
```

エラーメッセージ

```
A S P I マネジャが登録されていません。
```

- 意味 ・ASPI マネジャが正常に起動していない。
- 原因 ・ASPI マネジャが起動に失敗している。
- 対処 ・ASPI マネジャの設定や SCSI 機器の設定を確認します。

```
SCSI ID: #X ... 指定された機器は使えません
```

```
Check SCSI ID: #6 ... フォーマット可能なSCSI機器が見つかりません
```

- 意味 ・ドライブが認識できなかった。
- 原因 ・間違った SCSI-ID 番号を指定した。
- 対処 ・ディスクの SCSI-ID 番号を確認して、その番号を指定します。
- 原因 ・ドライブの電源が入っていない。
 - ・SCSI ケーブルが正しく接続されていない。
 - ・SCSI ターミネータが装着されていない。
 - ・ドライブからタームパワーが供給されていない。
- 対処 ・ドライブの設定を確認します。
 - ・SCSI ケーブルの接続を確認します。

書式 1 - ハードディスクの初期化

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /HD:[ IBM | NEC ] [ /INIT ]
[ /VERIFY:[ ON | OFF ] ]
```

ハードディスクのフォーマットを実行します。

サブコマンド

/HD

「/HD:」に続けてハードディスクのフォーマット形式を指定します。

ここで指定するフォーマット形式は以下のものです。

IBM	DOS/Vの「FDISK」コマンドで初期化した場合と同じ形式 Windows95で使用する場合、こちらを選択してください。
NEC	PC-9800シリーズの「FORMAT」コマンドで初期化した場合と同じ形式

オプション

/INIT

このオプションは、論理フォーマットに先立ってハードディスクの物理フォーマットを行う場合に指定します。

/VERIFY:ON

/VERIFY:OFF

このオプションは、ハードディスクのフォーマット書き込み後のベリファイチェックを指定します。

ON	ベリファイチェックを行います。
OFF	ベリファイチェックを行いません。

フォーマットの実行例

```
A:¥SCSIUT> REXFMT #0 /HD:IBM <Enter>
ハードディスク・MOフォーマットユーティリティ Ver x.x (yymmdd)
(c)RATOC system.inc,1994,1995. all right reserved.

Check SCSI ID:#0.....OK!
メディアタイプ: Hard Disk (HD) <SEAGATE ST32430N 025>
ディスクの全容量: 2149071360 バイト (2049 メガバイト)
フォーマット形式: I B M H D
全シリンダ数: 261
1シリンダあたりのバイト数: 8225280バイト
ヘッド数: 255
トラックあたりのセクタ数: 63
このディスクは、I B M H D 形式でフォーマットされています。
```

上のように表示した後、下の確認入力になります。

```
I B M H D形式でメディアを初期化しますか？(内容は全て失われます) (y/n)
```

「y」を入力するとハードディスクを初期化します。「n」を入力すると処理を中止します。

第7章 SCSI ユーティリティについて

初期化されると下のメッセージを表示してプログラムを終了します。

終了しました。
続いて区画の確保を行って下さい。
処理を終了します。

エラーメッセージ

ドライブの準備ができていません。

- 意味 ・ ディスクの読みだしに失敗した。
- 原因 ・ 間違った SCSI-ID 番号を指定した。
- 対処 ・ ディスクの SCSI-ID 番号を確認して、その番号を指定します。
- 原因 ・ ドライブの電源が入っていない。
- ・ SCSI ケーブルが正しく接続されていない。
 - ・ SCSI ターミネータが装着されていない。
 - ・ ドライブからタームパワーが供給されていない。
- 対処 ・ ドライブの設定を確認します。
- ・ SCSI ケーブルの接続を確認します。

制限事項

NEC PC-9800 シリーズまたは EPSON PC シリーズ (98 互換機) の場合
NEC HD形式でフォーマットしたメディアに対してSCANDISK.EXEを実行すると以下のエラーメッセージが表示されます。

FATメディアバイトが足りない、FATバックアップコピーが正しくない

修復するか問いに対しては、必ず「修復する」を選択してください。
一度修復すると次回からこのエラーは発生しません。

DOS/V Note パソコンの場合

NEC HD形式でフォーマットしたメディアに対してSCANDISK.EXEを実行すると以下のエラーメッセージが表示されます。

ディレクトリエントリが正しくない、ディレクトリが損傷を受けている

これは、SCANDISKがディレクトリエントリを検査中にFDISK形式でフォーマットされたディスクのエントリ数と異なる場合に表示するエラーですが、使用上特に問題はありません。修復するか問いに対しては、絶対に「修復する」は**選択しない**てください。

「修復する」を選択するとディスクのデータを破壊するおそれがあるので注意してください。

書式 2 - 光磁気ディスク(MO)の初期化

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /MO:[ FD | IBM | NEC ] [ /INIT ]
[ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

光磁気ディスク(MO)やPDメディアのフォーマットを実行します。

サブコマンド

/MO

「/MO:」に続けてハードディスクのフォーマット形式を指定します。

FD	MOの一般的な形式 異機種間での互換性が最もあるフォーマットです。 Windows95で使用する場合、これを選択してください。
IBM	DOS/Vの「FDISK」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式
NEC	PC-9800シリーズの「FORMAT」コマンドで初期化したハードディスクと同じ形式

ここで指定するフォーマット形式は「REXDISK.SYS」で説明したものと同じです。

今後の互換性のため、なるべく「FD」形式を指定してください。

また、フォーマット形式を省略した場合は、自動的に「FD」を選択したことになります。

DOS 3.X互換のセミIBMフォーマットには対応していません

オプション

/INIT

このオプションは、論理フォーマットに先立ってメディアの物理フォーマットを行う場合に指定します。

/VERIFY:ON

/VERIFY:OFF

このオプションは、メディアのフォーマット書き込み後のベリファイチェックを指定します。

ON	ベリファイチェックを行います。
OFF	ベリファイチェックを行いません。

第7章 SCSI ユーティリティについて

フォーマットの実行例

```
A:¥SCSIUT> REXFMT #0 /MO <Enter>
ハードディスク・MOフォーマットユーティリティ Ver x.x (yymmdd)
(c)RATOC system.inc,1994,1995. all right reserved.

Check SCSI ID:#0.....OK!
メディアタイプ: Removable Media (MO) <FUJITSU >
ディスクの全容量: 228518400 バイト (217 メガバイト)
フォーマット形式: N E C H D
全シリンダ数: --
1シリンダあたりのバイト数: --
ヘッド数: --
トラックあたりのセクタ数: --

このディスクは、N E C H D 形式でフォーマットされています。
```

上のように表示した後、下の確認入力になります。

```
MOを FD形式でフォーマットします。よろしいですか？(内容は全て失われます) (y/n)
```

「y」を入力するとメディアを初期化します。「n」を入力すると処理を中止します。初期化されると下のメッセージを表示してプログラムを終了します。

```
終了しました。
処理を終了します。
```

エラーメッセージ

```
ドライブの準備ができていません。
```

- 意味 ・ディスクの読みだしに失敗した。
- 原因 ・間違った SCSI-ID 番号を指定した。
- 対処 ・ディスクの SCSI-ID 番号を確認して、その番号を指定します。
- 原因 ・メディアがドライブに挿入されていない。
- 対処 ・ドライブにメディアが正しく挿入されていることを確認します。
- 原因 ・ドライブの電源が入っていない。
- ・SCSI ケーブルが正しく接続されていない。
 - ・SCSI ターミネータが装着されていない。
 - ・ドライブからタームパワーが供給されていない。
- 対処 ・ドライブの設定を確認します。
- ・SCSI ケーブルの接続を確認します。

```
メディアに異常があります。処理を中断します。
```

- 意味 ・メディアの読みだしに失敗した。
- 原因 ・ドライブに間違ったメディアが挿入されている。
- 対処 ・正しいメディアが挿入されていることを確認します。

書式3 - 区画の確保

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /PAT[<確保容量>] [/Hxx]
        [/LABEL:<ボリュームラベル>]
        [/KNAME:<区画名>] [ /SLEEP | /ACTIVE ]
        [ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

ハードディスクに区画を確保します。

サブコマンド

/PAT

「/PAT:」に続けて確保する区画の容量を指定します。
 確保容量を省略した場合は、連続して確保可能な最大容量になります。
 また、容量の単位は次の3とおりが指定できます。

	設定単位	説明
/PAT:<cc>	シリンダ数	ccには10進数の1～1024が指定できます
/PAT:<mm>M	Mバイト数	mmには10進数の1～8032が指定できます
/PAT:<pp>%	パーセント	ppには10進数の1～100が指定できます

オプション

/Hxx

このオプションは NEC HD 形式で最初の区画作成の場合のみ有効です。
 本製品で初期化したディスクを NEC PC-9801 シリーズ用の各種 SCSI インターフェイスカードでも再フォーマットせずに認識させる場合に指定します。

「/H」に続けてフォーマット形式を指定します。
 「xx」のフォーマット形式は以下のいずれかを指定します。

指定値	対象フォーマット
92	NEC製SCSIインターフェイスカード(PC-9801-92)
55	NEC製SCSIインターフェイスカード(PC-9801-55) (MOに対しては設定できません。)
S2	サードパーティ製 (ICM等)SCSIインターフェイスカード (MOに対しては設定できません。)
MELCO	サードパーティ製 (MELCO等)SCSIインターフェイスカード
FMO	REXFMT v1.xx でNEC HD形式にフォーマットしたMO (このオプションは、REXDISK.SYS v1.xxとの下位互換性のために用意されています。通常は指定しないでください。)

すでに区画が作成されている場合、このオプションは無視されます。

/LABEL

「/LABEL:」に確保した区画に設定するボリュームラベルを指定します。

/VERIFY:ON

/VERIFY:OFF

このオプションは、区画情報の書き込み後のベリファイチェックを指定します。

ON	ベリファイチェックを行います。
OFF	ベリファイチェックを行いません。

第7章 SCSI ユーティリティについて

下の3つのオプションはハードディスクがNEC HD形式の場合のみ有効です。

/KNAME[:<区画名>]	区画名を指定します。
/SLEEP	区画確保後に区画の属性をスリープ状態にします。
/ACTIVE	区画確保後に区画の属性をアクティブ状態にします。

区画作成の実行例

```
A:¥SCSIUT> REXFMT #0 /PAT:1 /LABEL:DOS_6 <Enter>
ハードディスク・MOフォーマットユーティリティ Ver x.x (yymmdd)
          (c)RATOC system.inc,1994,1995. all right reserved.
Check SCSI ID:#0.....OK!
メディアタイプ: Hard Disk (HD)    <SEAGATE ST32430N    025>
ディスクの全容量: 2149071360 バイト (2049 メガバイト)
フォーマット形式: I B M H D
全シリンダ数: 261
1シリンダあたりのバイト数: 8225280バイト
ヘッド数: 255
トラックあたりのセクタ数: 63

このディスクは、I B M H D 形式でフォーマットされています。
区画番号   容量       開始シリンダ   終了シリンダ   %
   00      1019 メガバイト         0           129       49.81

確保区画容量: 40 メガバイト   ラベル名: DOS_6
```

上のように確保する区画の容量とボリュームラベルが表示した後、下の確認入力になります。

区画を確保します。よろしいですか? (y/n)

「y」を入力すると指定した領域を確保します。「n」を入力すると処理を中止します。区画が確保されると下のメッセージを表示してプログラムを終了します。

区画を確保しました。
処理を終了します。

エラーメッセージ

指定された容量では確保できません。

原因 ・ ディスクの残り容量を越えた容量を指定した。
対処 ・ ディスクの残り容量を確認して、その範囲内の容量を指定します。

区画確保の対象がNEC HD形式でフォーマット済みのMOの場合

NEC HD形式の場合は、フォーマット種別を指定してください。

原因 ・ 「/H」オプションによるフォーマット形式を指定しなかった。
・ MO に対して「/H55」または「/HS2」を指定した。
対処 ・ HD の場合、「/H55」、「/HS2」、「/H92」、「/HMELCO」のいずれかを指定します。
・ MO の場合、「/H92」、「/HMELCO」のいずれかを指定します。

制限事項

NEC PC-9800 シリーズまたは EPSON PC シリーズ (98 互換機) の場合
NEC HD形式でフォーマットしたメディアに対して区画を確保する場合以下の制限が
あります。

内蔵HDの区画サイズが31M未満または129M以上の場合、REXFMTで確保する区画サイズ
も31M未満または129M以上にする必要があります。
上の条件で32M ~ 128Mの区画サイズを確保するとREXDISK.SYSの起動時にハングアップ
したり、メディアに対して正しくアクセスできない不具合が発生することがあります。

書式4 - 区画の削除

書式

REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] /DEL:<区画番号> [/VERIFY:[ON | OFF]]

ハードディスクから区画を削除します。

サブコマンド

/DEL

「/DEL:」に続けて削除する区画番号を指定します。

区画番号を省略した場合は、先頭区画(区画番号 0)が削除されます。

オプション

/VERIFY:ON

/VERIFY:OFF

このオプションは、区画情報の書き込み後のベリファイチェックを指定します。

ON	ベリファイチェックを行います。
OFF	ベリファイチェックを行いません。

区画削除の実行例

```
A:¥SCSIUT> REXFMT #0 /DEL:2 <Enter>
.....
.....
区画番号 容量      開始シリンダ  終了シリンダ
  00     12 メガバイト      0           11
  01    100 メガバイト     12          111
  02     40 メガバイト    112          151
```

上のように現在の各区画容量とボリュームラベルを表示した後、下の確認入力になります。

区画番号： 02 を削除します。よろしいですか？ (y/n) y <Enter>

「y」を入力すると指定した区画を削除します。「n」を入力すると処理を中止します。
区画が削除されると下のメッセージを表示してプログラムを終了します。

区画を削除しました。
処理を終了します。

書式5 - 区画属性の変更

書式

```
REXFMT [%Adapter_No] [#SCSI_ID] [ /SLEEP:<区画番号> | /ACTIVE:<区画番号> ]  
[ /VERIFY: [ ON | OFF ] ]
```

NEC HD形式でフォーマットしたメディアの区画属性を変更します。

サブコマンド

/SLEEP

/ACTIVE

「/SLEEP:」, 「/ACTIVE:」に続けて区画番号を指定します。

この機能は、NEC HD形式以外でフォーマットしたメディアの区画に対しては無効です。

オプション

/VERIFY:ON

/VERIFY:OFF

このオプションは、区画情報の書き込み後のベリファイチェックを指定します。

ON	ベリファイチェックを行います。
OFF	ベリファイチェックを行いません。

区画属性変更の実行例

```
A:¥SCSIUT> REXFMT #0 /SLEEP:1 <Enter>  
.....  
.....  
.....
```

区画番号	区画名	容量	開始シリンダ	終了シリンダ	属性
00	MS-DOS 5.0	100 メガバイト	1	651	Active
01	MS-DOS 5.0	40 メガバイト	652	912	Active

上のように現在の各区画の情報を表示した後、下の確認入力になります。

```
区画番号： 01 の属性をSleepに変更しますか？ (y/n) y <Enter>
```

「y」を入力すると指定した区画属性を変更します。「n」を入力すると処理を中止します。区画属性が変更されると下のメッセージを表示してプログラムを終了します。

```
属性を変更しました。  
処理を終了します。
```

SSC.EXE - SCSI 機器接続確認コマンド

SCSI PCカードに接続されているSCSI機器を確認するためのコマンドです。
このプログラムを実行するには、ASPIマネージャが登録されている必要があります。

書式

```
SSC [%Adapter_No] [#SCSI_ID]
```

- %Adapter_No** ホストアダプタ番号を指定します。
この指定は、ATAPI仕様のCD-ROMドライブを内蔵しているパソコンでWindows95のDOSプロンプトから本コマンドを使用する場合などに、SCSI PCカードがホストアダプタ番号「0」以外で動作する場合に使用します。
 ホストアダプタ 0 内蔵 CD-ROM (ATAPI)
 ホストアダプタ 1 SCSI PC カード
省略時は、「0」が選択されます。
- #SCSI_ID** 対象 SCSI 機器の SCSI-ID 番号を指定します。
省略時は、ID 番号 0 から 6 まで順番にスキャンして表示します。

実行例

```
A:¥SCSIUT> SSC <Enter>
SSC.EXE(SHOW SCSI) S C S I 接続機器チェックプログラム Ver x.xx(yymmdd)
                    (c) RATOC system.inc,1995. SLR. all rights reserved.
S C S I I D : #0 .....Connect!
C D - R O M ・ デバイス
    ベンダ I D : TOSHIBA
    製品番号 : CD-ROM XM-4101TA
    リビジョン : 2943
    S C S I 規格の適合範囲 : SCSI-2
    同期転送 : サポート
    取り外し : 可能
    ブロックサイズ : 2048
    全ブロック数 : 130080
    総容量 : 254メガバイト
```

実行を開始すると、指定した SCSI-ID の機器状態を ID 番号の右横に表示します。

表示	機器検出状態
Connect	SCSI 機器を検出できた
Not Connect	SCSI 機器を検出できなかった

機器を検出した場合には、さらに機器の情報を表示します。
また、メディアの情報も表示します。

表示メッセージ

ASPI マネジャが登録されていません！！

- 意味 ・ASPI マネジャが正常に起動していない。
原因 ・ASPI マネジャが起動に失敗している。
対処 ・CONFIG.SYS ファイルの ASPI マネジャの設定を確認します。

ドライブの準備ができていません。

CD-ROM や MO 等の取り外し可能なドライブを接続している場合

- 原因 ・ドライブにメディアが挿入されていない。
対処 ・ドライブにメディアをセットします。

CD-ROM ドライブを接続している場合

- 原因 ・REXCD.SYS や MSCDEX.EXE が正しく組み込まれていない。
対処 ・CONFIG.SYS ファイルの REXCD.SYS の設定を確認します。
・AUTOEXEC.BAT ファイルの MSCDEX.EXE の設定を確認します。
・REX-9530 のインストーラを再実行します。

WinSSC - Windows95 用 SCSI 機器接続確認ユーティリティ

SCSI PCカードに接続されているSCSI機器をWindows95上から確認するためのコマンドです。WinSSCは、RexFmt95と共に「Setup95.exe」コマンドでインストールします。

1. 本製品に付属するドライバディスクをフロッピードライブに挿入して、デスクトップ画面の [マイコンピュータ] からディスクのアイコンをダブルクリックします。
2. Setup95 のアイコンをダブルクリックしてインストーラを起動します。
3. 画面の指示に従ってインストールを進めます。
4. SCSI ユーティリティのインストールが正常に終了すると、[スタート] ボタンから表示される [プログラム] メニューの中に [REX SCSI ユーティリティ] が追加されます。



WinSSC の起動

[スタート] ボタンから [プログラム] [REX SCSI ユーティリティ] [WinSSC] を選択します。

WinSSC の操作

WinSSC が起動すると下の画面が表示されます。



[ホストアダプタ]

接続されているSCSIインターフェイスの情報が表示されます。CD-ROMドライブを内蔵しているパソコンでは、この覧を [rex9530] が表示されるように変更してください。

[デバイスリスト]

接続されているSCSI機器の情報の一覧です。左から順に以下の項目が表示されます。

- ・ SCSI機器ID番号 (ID:)
- ・ ロジカルユニット番号 (LUN:)
- ・ デバイスタイプ (カッコ内)
- ・ ベンダ名および型番

第7章 SCSI ユーティリティについて

また、情報を確認したい機器の行を選択してダブルクリックすると詳細情報が表示されます。

SCSI機器の詳細情報の例

CD-ROM ドライブの例

デバイス情報			
	TEAC CD-ROM CD-56S		
CD-ROMデバイス (5)	(Removable)		
デバイスID:			
ホストアダプタ: (0) rex9530			
SCSI ID: 4	LUN: 0		
デバイス名:			
ベンダID: TEAC	リビジョン: 1.0A		
製品番号: CD-ROM CD-56S			
SCSI規格:			
適合規格: SCSI-2			
同期転送	コマンドリンク	コマンドキュー	ワットレット
AEN	タ-3レーヒ/O	相対アドレス	16/32bitBUS
DeviceStatus:			
Ready.			
総容量: 273 (MByte)	ブロックサイズ: 2048		
<input type="button" value="OK"/>			

光磁気ディスク(MO)ドライブの例

デバイス情報			
	NECITSU M2512A		
光メモリデバイス (MO) (7)	(Removable)		
デバイスID:			
ホストアダプタ: (0) rex9530			
SCSI ID: 2	LUN: 0		
デバイス名:			
ベンダID: NECITSU	リビジョン: 1408		
製品番号: M2512A			
SCSI規格:			
適合規格: SCSI-2			
同期転送	コマンドリンク	コマンドキュー	ワットレット
AEN	タ-3レーヒ/O	相対アドレス	16/32bitBUS
DeviceStatus:			
Ready.			
総容量: 217 (MByte)	ブロックサイズ: 512		
<input type="button" value="OK"/>			

[再スキャン]

[ファイル]メニューの[再スキャン]は、SCSI PCカードを抜き差しした後の最新情報を表示させるための機能です。

RMLOCK.EXE - イジェクト・スイッチの設定

CD-ROMドライブ、光磁気ディスク(MO)ドライブ等のリムーバブル(取り外し可能)メディア機器のイジェクトスイッチの有効・無効を設定します。

また、光磁気ディスク(MO)にアクセスすると自動的にイジェクトスイッチを無効にする機能(オートロック機能)を指定します。

このプログラムを実行するには、REXCD.SYS, REXDISK.SYSが登録されている必要があります。

RMLOCK.EXE の書式とパラメタ

書式

```
RMLOCK <ドライブ名:> [ /LOCK | /UNLOCK | /AUTO | /MANUAL ]
```

パラメタ

ドライブ名	対象ドライブのMS-DOSでのドライブ名を指定します。
/LOCK	イジェクトスイッチを無効にします。
/UNLOCK	イジェクトスイッチを有効にします。
/AUTO	オートロック機能を有効にします。
/MANUAL	オートロック機能を無効にします。

実行例

```
C:\SCSI> RMLOCK F: /LOCK <Enter>
ドライブ f: をロック状態にしました。
```

```
C:\SCSI> RMLOCK F: /UNLOCK <Enter>
ドライブ f: のロック状態を解除しました。
```

RMLOCK.EXE の表示メッセージ

```
ドライブ x: をロック状態にしました。
```

意味 ・SCSI 機器に対してドライブのロックコマンドが正常発行された。

```
ドライブ x: をロック状態を解除しました。
```

意味 ・SCSI 機器に対してドライブのアンロックコマンドが正常発行された。

```
ドライブを指定された状態にできませんでした。
```

意味 ・SCSI 機器に対してドライブのロックまたはアンロックコマンドが正常発行されなかった。

原因 ・指定した SCSI 機器が SCSI コマンドレベルでのドライブのロック・アンロックをサポートしていない。

対処 ・RMLOCK コマンドは使用できません。

```
指定ドライブは存在しません。
```

原因 ・MS-DOS での正しいドライブ名を指定していない。

対処 ・ドライブ名を確認します。

RMEJECT.EXE - メディアのイジェクト

CD-ROMドライブ、光磁気ディスク(MO)ドライブ等のリムーバブル(取り外し可能)メディアの排出を行います。

このプログラムを実行するには、REXCD.SYS, REXDISK.SYSが登録されている必要があります。

RMEJECT.EXE の書式

```
RMEJECT <ドライブ名>
```

ドライブ名

対象ドライブの MS-DOS でのドライブ名を指定します。

実行例

```
C:\>RMEJECT F: <Enter>
```

ドライブ f: をイジェクトしました。

RMEJECT.EXE の表示メッセージ

```
ドライブ x: をイジェクトしました。
```

意味 ・SCSI 機器に対してメディアの排出コマンドが正常発行された。

```
指定ドライブはイジェクトできません。
```

意味 ・SCSI 機器に対してメディアのイジェクトコマンドが正常発行されなかった。

原因 ・指定した SCSI 機器が SCSI コマンドレベルでのメディアのイジェクトをサポートしていない。

対処 ・RMEJECT コマンドは使用できません。

```
指定ドライブは存在しません。
```

原因 ・MS-DOS での正しいドライブ名を指定していない。

対処 ・ドライブ名を確認します。

CDPLAY.EXE - オーディオCD プレイバックユーティリティ

「CDPLAY.EXE」は、パソコン上からCD-ROMドライブを操作してオーディオCDの再生を行うものです。CDプレーヤと同じようなボタン操作でオーディオCDを楽しむことができます。

音声出力は、CD-ROMドライブのライン出力またはヘッドフォン端子から出力されます。パソコン本体のスピーカからは出力されませんのでご注意ください。

CD-ROMドライブの一部の機種では、ボリューム調整やチャンネル切り換えが使用できない場合があります。これは、ドライブ側のオーディオコマンドの詳細がCSI-2仕様でなくドライブメーカー固有の仕様になっているためです。

準備

このプログラムはすべての操作をマウスで行います。このため、マウスドライバ「MOUSE.COM」を起動しておいてください。

そして、「MSCDEX.EXE」を起動しておいてください。

CDPLAY.EXE の書式のオプション

オプション

```
CDPLAY [/U<ユニット番号>] [<ドライブ名:>] [/M<画面モード>]
```

オプション

/U<ユニット番号>

CD-ROMドライブが2台以上接続されている場合に、操作対象のCD-ROMドライブをユニット番号で指定します。ユニット番号は、「MSCDEX」が起動したときに接続されているCD-ROMドライブに付けられる通し番号で、「0」から始まります。

接続されているCD-ROMドライブが1台だけの場合には、指定する必要はありません。

<ドライブ名>

CD-ROMドライブが2台以上接続されている場合に、操作対象のCD-ROMドライブをMS-DOSのドライブ名で指定します。

/M<画面モード>

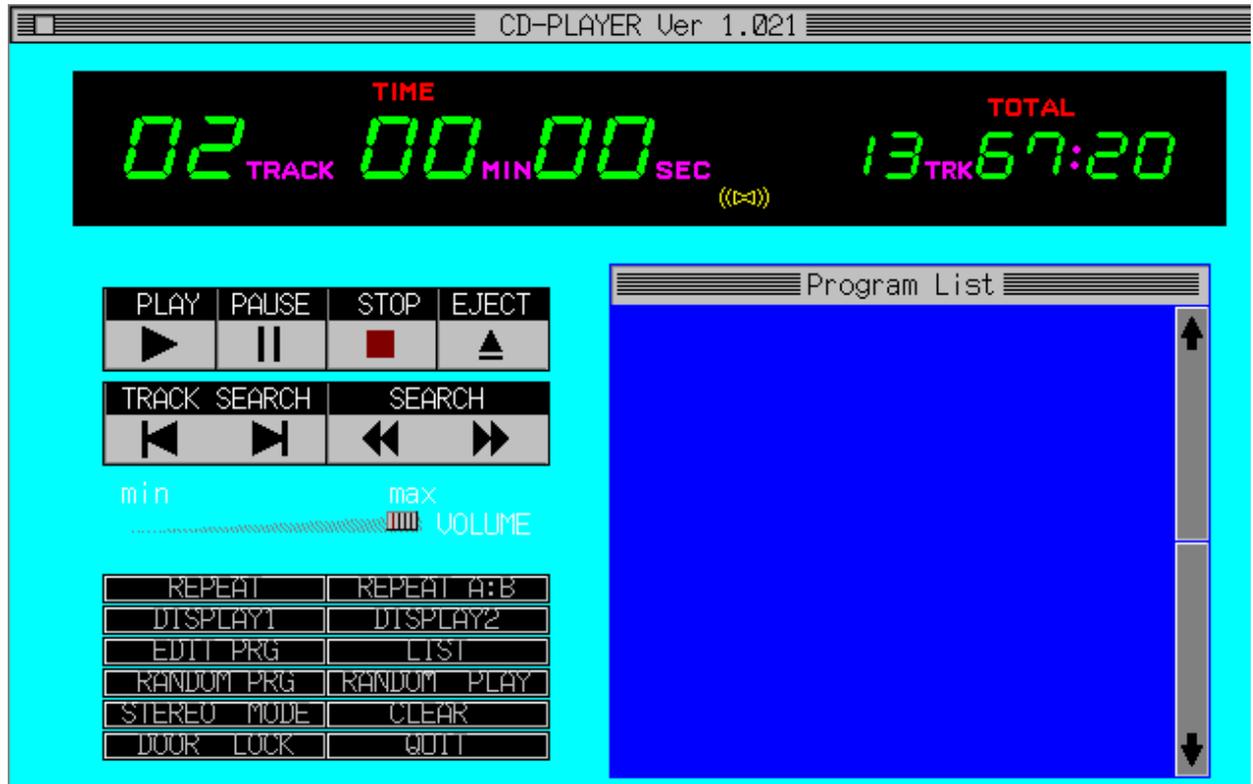
画面に表示するモードを次の2つから選択して指定します。

0	カラーモニタでの表示
1	モノクロモニタでの表示

省略時は、「/M0」（カラーモニタでの表示）の指定となります。

各機能について

CDプレーヤの操作画面は以下のような構成です。



操作画面は大きく下の4つの部分に別れます。

	画面位置	機能
ステータス表示	上段	CDPLAYソフトの状態表示
演奏操作ボタン	中段左側	演奏の開始、一時停止、中止、スキップなどの操作
演奏モードボタン	下段左側	くり返し演奏、プログラム演奏、状況表示の切替などの操作
演奏リスト	右側	プログラム演奏の曲順リスト

ステータス表示について

ステータス表示は、以下の6つの部分で構成されます。

(1) CD 挿入状態表示

ステータス表示の最上行は、CD-ROM ドライブのCDの挿入状態を表示します。

表示メッセージ	意味
CD-PLAYER Ver x.xx	CDがドライブに挿入されており、演奏可能な状態
INSERT DISC	CDがドライブに挿入されていない状態
LOADING DISC	CDをドライブに挿入直後で、まだ演奏できない状態
NO AUDIO TRACK DISC!	挿入されたCDにオーディオ・トラックがない (このメッセージを表示後、ただちにCDは排出される)

(2) メインステータス表示

ステータス表示の左側は、現在演奏中の曲について表示モード、曲番（トラック）、経過時間を表示します。

表示モード	表 示 内 容
TIME	現在演奏中の曲番号と曲の始めからの経過時間
R-TIME	現在演奏中の曲番号と曲の終わりまでの残り時間
DISC TIME	現在演奏中の曲番号と1曲目の始めからの経過時間

(3) サブステータス表示

ステータス表示の右側は、曲数・演奏時間/日付/時刻などを表示します。

表示モード	表 示 内 容
TOTAL	挿入されているCDの曲数と全演奏時間
DATE CLOCK	現在の日付と時刻
DATE	現在の年月日

(4) 演奏状態表示

ステータス表示の真中表示は、下の4つのマークで演奏状態を表します。

表示モード	表示内容
	演奏中
	一時停止中
	CD排出
	演奏停止

(5) 演奏モード表示

ステータス表示の最下行の左から3つの項目は、RANDOMモード、演奏・編集モード、プログラムモードの3つのモードについて表示します。

	表示モード	意 味
RANDOM モード表示	(空白)	シーケンシャルモード 順番通りに演奏します。
	RANDOM	ランダムモード 順番を無作為に演奏します。
演奏・編集 モード表示	(空白)	停止中
	PLAY	演奏中
	PAUSE	一時停止中
	EDIT	編集モード
PROGRAM モード表示	(空白)	マニュアルモード
	PRG	プログラムモード PROGRAMリストに従って演奏します。

第7章 SCSI ユーティリティについて

(6) リピートモード表示

ステータス表示の最下行中央の項目は、くり返し演奏のモードについて表示します。

表示モード	意 味
(空白)	くり返し演奏しません
REPEAT 1	指定した曲のみをくり返し演奏
REPEAT ALL	最後の曲の演奏が終わると1曲目に戻って繰り返し演奏
REPEAT A:	繰り返し演奏の開始位置を指定中
REPEAT A:B	繰り返し演奏の終了位置が指定中 設定した範囲で繰り返し演奏される

(7) 音声チャンネル表示

ステータス表示の最下行中央のマーク表示は、下の4つのマークで音声出力チャンネル状態を表します。

表示モード	表 示 内 容
(空白)	ミュート(出力しません)
((>	左チャンネルのみ
<))	右チャンネルのみ
((><))	ステレオ

演奏操作ボタンについて

PLAY ボタン	マニュアルモードの場合、演奏を開始する プログラムモードの場合には、メインステータスに表示している曲をPROGRAM LISTの最後に追加する
PAUSE ボタン	演奏を一時停止する PLAY ボタンを押すと続きから演奏する
STOP ボタン	演奏を中止する
EJECT ボタン	CDを排出する
TRACK SEARCH ボタン	演奏開始位置を1曲単位で前進・後退する
SEARCH ボタン	演奏開始位置を1秒単位で前進・後退する

音量調節つまみについて

「VOLUME」表示の左側の部分は音量調節つまみで、マウスの右ボタンを押したまま移動させると、好みの音量に調節できます。

また、マウスカーソルを好みの位置に移動させてから左ボタンを押すと指定した音量に設定されます。

演奏モードボタンについて

REPEAT ボタン	リピートモードを順番に切り替える 「REPEAT 1」->「REPEATE ALL」->「なし」の順
REPEAT A:B ボタン	範囲指定リピートを順番に切り替える 「REPEAT A:」->「REPEATE A:B」->「なし」の順
DISPLAY1 ボタン	メインステータス表示を順番に切り替える 「TIME」->「R-TIME」->「DISC TIME」の順
DISPLAY2 ボタン	サブステータス表示を順番に切り替える 「TOTAL」->「DATE CLOCK」->「DATE」の順
EDIT PRG ボタン	演奏・編集モードを順番に切り替える
LIST ボタン	CDに入っている全曲をPROGRAM LISTに登録する PAUSE（一時停止）状態で「LIST」ボタンを押した場合は、 演奏が中止されて1曲目の先頭に戻ります。
RANDOM PRG ボタン	PROGRAM LISTに登録されている曲順をランダムに並べ替える
RANDOM PLAY ボタン	演奏モードのシーケンシャル/ランダムを切り替える
STEREO MODE ボタン	音声出力チャンネルを順番に切り替える 「ステレオ」->「左チャンネル」->「右チャンネル」->「ミュート」の順
CLEAR ボタン	プログラム演奏の曲順リストをクリアする
DOOR LOCK ボタン	CD-ROMドライブのドアロックを操作する ドアロックに対応したCD-ROMドライブのみ操作可能
QUIT ボタン	このソフトを終了してMS-DOSに戻る

PROGRAM LIST について

この部分は、挿入されているCDの各曲と演奏時間を一覧表示する領域です。

「EDIT PRG」、「LIST」、「RANDOM PRG」、「PLAY」ボタンなどで操作します。
CD再生中は、「LIST」ボタンを押してProgramListを表示させることはできません。

CD を演奏する

- (1) CD-ROM ドライブにCDを入れます。
- (2) ステータス表示の最上行に「CD-PLAYER Ver x.xx」が表示されるのを待ちます。
- (3) 「PLAY」ボタンを押します。
- (4) 演奏が始まったら、「VOLUME」部分の音量調節つまみを操作して音量を調節します。

聞きたい曲を演奏する

- (1) 「LIST」ボタンを押します。
- (2) 「PROGRAM LIST」に挿入されているCDの全曲が演奏時間とともに一覧表示されます。
- (3) マウスカーソルを聞きたい曲の行でクリックします。

8. DOS用SCSI関連ドライバについて

SCSI PCカードを使用してDOS/Windows3.1で使用する場合、DOS用SCSI関連ドライバがインストールされます。ここでは、これらのドライバについて説明していきます。

CONFIG.SYS の書き換えについて

本製品付属の Windows3.1 用インストーラ「SETUP.EXE」を実行すると、CONFIG.SYS に SCSI PC カード用の各種ドライバを登録します。

例えば DOS/V 環境でインストールした場合、次のような記述を追加します。

```
[COMMON]
REM ----REX-9530----
DEVICE=C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280
DEVICE=C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIACD
DEVICE=C:\SCSI\REXDISK.SYS
```

ASPI9530.SYS

SCSI PCカードのカードサービス対応インーブラ兼ASPIマネージャ。

パソコン本体のカードサービスに対してSCSIカードが必要とするI/Oポートアドレスを知らせます。

また、SCSIコントローラを制御するためのASPIマネージャとして機能します。

ここでは、ASPI9530.SYSを例としていますが、これ以外にパソコンの機種およびPCMCIAドライバに対応した各種ドライバがあります。各ドライバ名および設定パラメータについては、後述「DOS用ドライバ(インーブラ+ASPIマネージャ)」をご覧ください。

REXCD.SYS

ASPI仕様のCD-ROMドライバ(ASPIモジュール)。

REXDISK.SYS

ASPI仕様のハードディスク/MO用ディスクドライバ(ASPIモジュール)。

ASPIおよびASPIマネージャについて

ASPI(Advance SCSI Programming Interface)はAdaptec社によって提唱されたSCSIデバイスドライバやユーティリティプログラムのためのソフトウェア上のインターフェイス規格案です。

ASPIマネージャと呼ばれる部分はSCSIインターフェイスボードのハードウェアの直接制御を受け持ち、上位のプログラムとのインターフェイスがASPI規格に準拠していればハードウェアの違いを吸収することができるように考慮されています。そしてASPIモジュールと呼ばれる部分は、このASPIマネージャを呼び出してSCSI機器を制御するソフトウェアです。

第8章 DOS 用 SCSI 関連ドライバについて

DOS 用ドライバ(イネープラ+ASPI マネジャ)

本製品に付属のドライバ ASPI9530.SYS, ASPDBK30.SYS, ASP36530.SYS, ASP9530N.SYS, SS9530.SYS, ASP9530E.SYSは、SCSI PCカードのイネープラ兼DOS用ASPIマネジャとして機能します。

ドライバは以下の種類があります。

ドライバ名	対応PCMCIAドライバ	対応機種
ASPI9530.SYS	カードサービス	DOS/Vノートパソコン
ASPDBK30.SYS	DATABOOK製CardTalk	
ASP36530.SYS	PCMCIAコントローラ直接制御	
ASP9530N.SYS	NEC PC98標準添付のカードサービス	NEC PC-9821シリーズ
SS9530.SYS	NEC PC98標準添付のソケットサービス	NEC PC-9821 Ne
ASP9530E.SYS	EPSON 98互換機標準添付のカードサービス	EPSON PC-486/586シリーズ

書式

DEVICE=<ディレクトリパス>¥ASPI9530.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/INT=<割り込み番号>] [/BOFF] [/AS=n1] [/S1] [/RESET=<ディレイ>]
DEVICE=<ディレクトリパス>¥ASPDBK30.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/MEM=<開始セグメント>] [/AS=n1] [/S1] [/RESET=<ディレイ>]
DEVICE=<ディレクトリパス>¥ASP36530.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/MEM=<開始セグメント>] [/AS=n1] [/S1] [/RESET=<ディレイ>]
DEVICE=<ディレクトリパス>¥ASP9530N.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/AS=n1] [/S1] [/RESET=<ディレイ>]
DEVICE=<ディレクトリパス>¥SS9530.SYS [/AS=n1] [/S1] [/RESET=<ディレイ>]
DEVICE=<ディレクトリパス>¥ASP9530E.SYS [/PORT=<I/Oアドレス>] [/SOCKET=<スロット番号>] [/AS=n1] [/S1] [/RESET=<ディレイ>]

全ドライバ共通のオプション

`/PORT=<I/O アドレス>`

SCSI PC カードが使用する I/O ポートのベースアドレスを 16 進数で指定します。

ドライバ	設定可能 I/O アドレス値	省略時
ASPI9530.SYS, ASP36530.SYS ASPDBK30.SYS	120, 140, 180, 280, 300, 340	300
ASP9530N.SYS	0D0, 1D0, 2D0, 3D0, 4D0	0D0
SS9530.SYS	0D0 固定	
ASP9530E.SYS	300, 320, 340, 380, 3A0, 3C0	380

本カードは「/PORT」で指定した値から 16 バイトの空間を占有します。

`/SOCKET=<スロット番号>`

PC カード スロットが 2 つ以上の場合に、SCSI PC カードを挿入する PC カード スロットを「0~2」の数字で指定します。

スロット番号	意 味
0	自動スキャン。 スロット 1、2 を順番に検索して見つける
1	下側のスロット
2	上側のスロット

1 部のパソコンでは、スロット番号の下側 / 上側の意味が逆になる場合があります。

`/AS=n1 /AS=n2 ...`

特定の機器と非同期転送モードでのアクセスをする指定です。

n1, n2 には非同期モードアクセスする機器の SCSI-ID 番号を「0」~「6」の 1桁の数字で指定します。

イメージスキャナ等で非同期モードしかサポートしていない SCSI 機器をつなぐ場合や、同期モードで動作が不安定な場合に指定します。

このオプションは複数指定が可能です。

`/S1`

同期転送モードを 5MB/Sec 以下でアクセスする指定です。

FAST SCSI (10MB/Sec) をサポートしていない機器を接続している場合に指定してください。

ASPI9530.SYS 固有のオプション

`/INT` SCSI PC カードに割り当てる割り込み番号を 16 進数で指定します。

「ASPI9530.SYS」自体は割り込みを必要としませんが、一部のカードサービスではカードコンフィギュレーション処理で割り当てるための割り込み番号を指定する必要があります。(現在確認されている機種は、COMPAQ CONTURA AERO 4/33C)

設定可能な値は「0~F」ですが、他の装置やインターフェイスと競合しない値でなければなりません。

このオプションが省略された場合は、割り込みを割り当てません。

また、SystemSoft 版カードサービスが組み込まれている場合は、CSALLOC.INI ファイルの「IRQ=」項目にここで指定する値が登録されている必要があります。

第 8 章 DOS 用 SCSI 関連ドライバについて

/BOFF

カード認識時やカード挿抜検出時に ASPI9530.SYS 独自でビーブ音を鳴らす機能を抑制します。記述を省略した場合にはビーブ音が鳴ります。
カードサービス自身が鳴らすビーブ音は、このオプションで抑制することはできません。

ASPDBK30.SYS, ASP36530.SYS 固有のオプション

/MEM

カード属性情報読みだしに使用するメモリ・ウィンドウの開始セグメント・アドレスを指定します。ここで指定した値が EMS のページフレームや UMB 領域と重ならないように「EMM386.EXE」の「X」オプションで除外しておく必要があります。(記述例)

```
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE 512 FRAME=D000 X=C800-CFFF
```

さらに、Windows3.1 上で使用する場合は SYSTEM.INI の[386Enh]セクションに EMMExclude 項目も追加する必要があります。(記述例)

```
EMMExclude=C800-CFFF
```

「/MEM=」の記述を省略した場合は、メモリ・ウィンドウの開始セグメント・アドレスが「CE00」となり、「CE00～CFFF」までの 8 K バイトを使用します。

全ドライバ共通のエラーメッセージ

本カードではそのベースアドレスは使用できません
ドライバをアンロードしました

意味 ・ REX-9530 が使用できないアドレスが指定された。

原因 ・ 「/PORT=」オプションを省略している場合、省略時の値から 16 バイトが他のデバイスと競合している。

対処 ・ 「/PORT=」オプションで、SCSI PC カードが使用する I/O アドレスを 300 以外に指定します。

原因 ・ 「/PORT=」オプションで指定した I/O アドレスが他のデバイスと競合している。

対処 ・ 「/PORT=」オプションで指定した I/O アドレスを他の値にします。

(CSALLOC.INI ファイルがある場合、「IOP=」オプションのリストに含まれている範囲で変更する必要があります)

ASPI9530.SYS, ASP9530N.SYS, ASP9530E.SYS 共通の表示メッセージ

カードサービスプログラムが常駐していません。
ドライバをアンロードしました

意味 ・ カードサービスが起動していないため、ASPI マネジャが起動できなかった。

原因 ・ 「CONFIG.SYS」ファイルにカードサービスが登録されていない。

対処 ・ パソコン本体付属のマニュアルにしたがってカードサービスを登録します。

原因 ・ CONFIG.SYS ファイルへの ASPI マネジャを登録する位置が不正。

対処 ・ ASPI マネジャがカードサービスの登録より後ろの行に登録されているか確認します。

第 8 章 DOS 用 SCSI 関連ドライバについて

- 原因 ・「カードサービス」が使用するメモリが EMS の領域や ROM と競合している。
- 対処 ・「EMM386.EXE」の「X」や「/E」オプションの指定を変更してみます。
(CSALLOC.INIファイルがある場合、「MEM=」オプションのエリアも上に合わせて変更する必要があります)

SystemSoft 版カードサービスの「CSALLOC.EXE」が組み込まれている場合

- 原因 ・CSALLOC.INI ファイルの「MEM=」項目が不正。
- 対処 ・CSALLOC.INI の「MEM=」項目のリストに「EMM386.EXE」の「X」や「/E」オプションのエリアを含めます。

カードコンフィギュレーションに失敗しました。

- 意味 ・SCSI PC カードのコンフィギュレーションを要求したがカードサービスがエラーを返した。

使用機種がコンパック CONTURA AERO 4/33C 等の割り込み指定が必要なカードサービスで発生します。

- 原因 ・ASPI マネジャが割り当てる割り込み番号を指定していない。
- 対処 ・「/INT=」オプションを指定します。
(詳しくは、「ASPI9530.SYS 固有のオプション」を参照してください。)

I/O ウィンドウが取得できません。

- 意味 ・SCSI PC カード用に取得しようとした I/O アドレスが割り当て不可になっている。
- 原因 ・指定した I/O アドレスがすでに他のデバイスに割り当たっている。
- 対処 ・「/PORT=」オプションに別の I/O アドレスを指定します。

SystemSoft 版カードサービスの「CSALLOC.EXE」が組み込まれている場合

- 原因 ・CSALLOC.INI ファイルの「IOP=」項目のリスト外の値を指定している。
- 対処 ・「/PORT=」オプションに別の「IOP=」項目のリストに含まれる値を指定します。

IBM 版カードサービスの「AUTODRV.SYS」が組み込まれている場合

- 原因 ・SCSI PC カードが「AUTODRV.SYS」によって勝手にコンフィギュレーションされている。
- 対処 ・「ASPI9530.SYS」を「AUTODRV.SYS」より前に登録します。

```
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280
DEVICE = C:¥EZGOING¥AUTODRV.SYS C:¥EZGOING¥AUTODRV.INI
```

- ・「AUTODRV.INI」ファイルの [SCSI] セクションに「Option=Ignore」の記述を追加します。

```
[SCSI]
CardID=SCSI
Option=Ignore
```

この記述を追加する

ASPDBK30.SYS 固有の表示メッセージ

ソケットサービスプログラムが常駐していません。
ドライバをアンロードしました

- 意味 ・ソケットサービス「CardTalk」が正しく起動していないため、ASPDBK30.SYS が起動できなかった。
- 原因 ・CONFIG.SYS ファイルにソケットサービス「CardTalk」が登録されていない。
- 対処 ・パソコン本体付属のマニュアルにしたがってソケットサービス「CardTalk」を登録します。
- 原因 ・CONFIG.SYS ファイルへの ASPDBK30.SYS を登録する位置が不正。
- 対処 ・ASPDBK30.SYS が CARDTALK.SYS の登録より後ろの行に登録されているか確認します。
- 原因 ・「/MEM=」オプションを省略している場合、メモリ・ウィンドウ・セグメント「CE00h~CFFFh」が EMS の領域や ROM と競合している。
- 対処 ・「/MEM=」オプションに、EMM386.EXE の「X」オプションのエリアを指定します。
- 原因 ・ASPDBK30.SYS の「/MEM=」で指定したメモリ・セグメントが不正。
- 対処 ・「/MEM=」オプションを EMM386.EXE の「X」オプションのエリアと一致させます。
- 原因 ・ASPDBK30.SYS の「/MEM=」で指定したメモリが EMS の領域や ROM と競合している。
- 対処 ・EMM386.EXE の「X」オプションと「/MEM=」の指定を変更してみます。

ASP36530.SYS 固有の表示メッセージ

カード属性情報(タプル)の読みだしができません。
ドライバをアンロードしました

- 意味 ・メモリ・ウィンドウを通じてカード属性情報が読みだせなかった。
- 原因 ・ASP36530.SYS の「/MEM=」オプションを省略している場合、メモリ・ウィンドウ・セグメント「CE00h~CFFFh」が EMS の領域や ROM と競合している。
- 対処 ・「/MEM=」オプションに、EMM386.EXE の「X」オプションのエリアを指定します。
- 原因 ・ASP36530.SYS の「/MEM=」で指定したメモリ・セグメントが不正。
- 対処 ・「/MEM=」オプションを EMM386.EXE の「X」オプションのエリアと一致させます。
- 原因 ・ASP36530.SYS の「/MEM=」で指定したメモリが EMS の領域や ROM と競合している。
- 対処 ・EMM386.EXE の「X」オプションと ASP36530.SYS の「/MEM=」の指定を変更してみます。

REXCD.SYS - CD-ROM ドライバ

ASPI マネージャ対応の DOS 上で動作する CD-ROM デバイスドライバです。

REXCD.SYS の書式

```
DEVICE=<ディレクトリパス>¥REXCD.SYS [/D:<デバイス名>] [/U:1]  
[/ScanID:id+id+....] [/NoScanID:id+id+....] [/N:1] [/E]
```

オプション

/D:<デバイス名>

この CD-ROM デバイスに付けるデバイス名を指定します。このデバイス名が「MSCDEX.EXE」の「/D:」オプションに指定するデバイス名になります。また、省略した場合のデバイス名は「PCMCIA CD」になります。

/U:1

接続する CD-ROM ドライブが 1 台だけの場合の指定です。

CD-ROM ドライブが 1 台だけ接続されていることを前提として動作する CD-ROM ソフト用のオプションです。接続する CD-ROM ドライブが 1 台だけの場合は、必ずこのオプションを指定してください。

このオプションを省略した場合、SCSI-ID 番号「0」から「6」を順に検索して接続されている CD-ROM ドライブをすべて登録します。

/ScanID:id+id+....

REXCD.SYS が対象とする CD-ROM ドライブの SCSI-ID 番号を指定します。REXCD.SYS は通常 SCSI-ID 0 ~ 6 を順番スキャンして接続されている CD-ROM ドライブを検索します。

しかし、このオプションを指定することにより特定の SCSI-ID のみ検索させることが可能となり、ドライバの起動時間を短縮できます。

たとえば、SCSI-ID 0 と 1 のみを対象とする場合、「/ScanID:0+1」と記述すれば、2 ~ 6 の SCSI 機器については検索しません。

/NoScanID:id+id+....

先の「/ScanID」オプションと反対に REXCD.SYS の対象外とする SCSI-ID 番号を指定します。

たとえば、SCSI-ID 5 と 6 のみを対象外とする場合、「/NoScanID:5+6」と記述すれば、5 ~ 6 の SCSI 機器については検索しません。

/N:1

接続する CD-ROM ドライブに対してロジカルユニットの検索を行いません。

「REXCD.SYS」は起動時に、ロジカルユニット番号「0」から「7」を順に検索して接続されている CD-ROM ドライブの論理ドライブ数を調べます。ところが、旧型の CD-ROM ドライブでロジカルユニット番号「0」以外でアクセスするとドライブ側が異常になる場合があります。このような場合には、必ずこのオプションを指定してください。

また、6 連奏 CD 等ロジカルユニットの指定が必要なドライブの場合にはこのオプションは指定しないでください。

/E

ドライバの表示メッセージを英語にします。
英語 DOS 環境で使用する場合に指定します。

REXCD.SYS の表示メッセージ

A S P I マネージャ対応 C D - R O M デバイスドライバ
R E X - C D Ver x.xx yymmdd
RATOC System,inc. 1994. Osaka Japan.

ASPI CD-ROM Device Driver
REXCD.SYS Ver x.xx (yymmdd)

意味 ・ ドライバ起動メッセージ。

CD-ROM SCSI_ID : 6:NEC PC-CD170
デバイス名 : PCMCIACD

CD-ROM SCSI_ID : 6:NEC PC-CD170
Device name : PCMCIACD

意味 ・ SCSI-IDが「6」の「NEC PC-CD170」を認識した。
・ CD-ROM デバイス名に「PCMCIACD」を割り当てた。
・ ドライバが正常に常駐した。

C D - R O M ドライブを見つけることができませんでした。

CD-ROM Drive Not Found.
Deriver Unloaded.

意味 ・ SCSI バス上に接続されている CD-ROM ドライブを認識できなかった。

原因 ・ CD-ROM ドライブの電源が入っていない。
・ SCSI ケーブルが正しく接続されていない。
・ SCSI ターミネータが装着されていない。
・ CD-ROM ドライブからタームパワーが供給されていない。

対処 ・ CD-ROM ドライブの設定を確認します。
・ SCSI ケーブルの接続を確認します。

A S P I マネージャが登録されていません。

ASPI Manager Not Installed.
Deriver Unloaded.

意味 ・ ASPI9530.SYS, ASPDBK30.SYS, ASP36530.SYS などの ASPI マネージャが正常に起動していない。

原因 ・ 「CONFIG.SYS」ファイルへの「REXCD.SYS」を登録する位置が不正。

対処 ・ ASPI マネージャより後ろの行に登録します。

原因 ・ ASPI マネージャが起動に失敗している。

対処 ・ ASPI マネージャの設定や SCSI 機器の設定を確認します。

REXDISK.SYS - ハードディスク/MO ディスクドライバ

ASPIマネージャ対応のDOS上で動作するハードディスク / 光磁気ディスク用デバイスドライバです。

サポートしているメディアについて

本ドライバがサポートしているメディアは以下のとおりです。

メディア	対応フォーマットおよび制限
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ FDISK形式ハードディスクフォーマット 最大ディスク容量7.8Gバイトまで ・ NEC FORMAT.EXE 形式ハードディスクフォーマット(注1) 最大ディスク容量2Gバイトまで ・ 物理セクタサイズ512バイトのみに対応
3.5インチ光磁気ディスク	<p style="text-align: center;">128MB/230MB/540MB/640MB 容量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FDフォーマット(スーパーフロッピーフォーマット) ・ FDISK形式ハードディスクフォーマット ・ NEC FORMAT.EXE 形式ハードディスクフォーマット(注1) ・ 物理セクタサイズ512バイトと2048バイトに対応
5インチ光磁気ディスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ FDISK形式ハードディスクフォーマット ・ FDフォーマット(スーパーフロッピーフォーマット) <p style="text-align: center;">以下のフォーマットはサポートしていません</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NEC FORMAT.EXE 形式ハードディスクフォーマット
リムーバブルHD	<ul style="list-style-type: none"> ・ FDISK形式ハードディスクフォーマット ・ NEC FORMAT.EXE 形式ハードディスクフォーマット ・ FDフォーマット(スーパーフロッピーフォーマット)

(注1) NEC FORMAT.EXE 形式ハードディスクフォーマット

このフォーマットは、NEC 製 SCSI インターフェイスカードに接続して NEC 版 MS-DOS の FORMAT.EXE で初期化したディスクのフォーマットを意味します。

FORMAT.EXE で初期化したディスクでも他の SCSI インターフェイスカードを使用した場合にはフォーマットの互換性がない場合もありますので注意が必要です。

REXDISK.SYS の書式とオプション

書式

```
DEVICE=<ディレクトリパス>*REXDISK.SYS [/Rn1+n2+n3+...] [/LOCK | /UNLOCK]
[/A] [/DUMMY] [/REMOVABLE] [/ScanID:id+id+...]
[/NoScanID:id+id+...] [/Hxx[:id+...]] [/E]
```

第8章 DOS 用 SCSI 関連ドライバについて

オプション

/Rn1+n2+n3+....

光磁気ディスク(MO)等の取り外し可能なメディア用の予約パーティション数を指定します。SCSI-ID 番号の若い順に指定します。

また、「0」を指定した場合は、ドライバ起動時の状態によって割り当てるパーティション数が決定します。

メディアが挿入されている	メディアに存在する全パーティション数
メディアが挿入されていない	1パーティションのみ

この記述を省略すると「0」を指定した場合と同じ意味になります。

/LOCK

/UNLOCK

光磁気ディスク(MO)等の取り外し可能なメディア用のドアのロック/アンロックを指定します。

/LOCK	ドライブのイジェクト・スイッチを押してもメディアは排出されません。
/UNLOCK	ドライブのイジェクト・スイッチを押すとメディアは排出されます。

この記述を省略すると「/UNLOCK」を指定した場合と同じ意味になります。

/A メディアのフォーマットが「NEC ハードディスク・フォーマット」と同等の場合に、「スリープ属性」のパーティションもドライブとして認識させる指定です。

/DUMMY

PC-DOS J6.1/V のディスク圧縮機能による不具合を回避するための指定です。

これにより、実際に割り当てるより1論理ドライブ余分に論理ドライブを確保します。ただし、余分に割り当たったドライブにはアクセスできません。

たとえば、REX-9530に接続された機器で4ドライブ有効な場合、「/DUMMY」を指定すると下のようになります。

A	フロッピー (1.44MB モード)	
B	フロッピー (1.44MB モード)	
C	内蔵ハードディスク	
D	フロッピー (1.2MB モード)	
E	フロッピー (1.2MB モード)	
F	REX-9530接続のハードディスク (区画1)	
G	REX-9530接続のハードディスク (区画2)	
H	REX-9530接続のハードディスク (区画3)	
I	REX-9530接続のハードディスク (区画4)	
J	ディスク圧縮機能との不具合回避用	x
K 以降	ディスク圧縮ドライブ	

/REMOVABLE

光磁気ディスク(MO)が Windows3.1 のファイルマネージャ等におけるドライブのアイコン表示でフロッピーディスクと同様の取り外し可能なメディアのアイコンで表示されるようにします。

光磁気ディスク(MO)を「フロッピーディスクのフォーマット」で初期化することはできません。

`/ScanID:id+id+....`

REXDISK.SYS が対象とするハードディスク / 光磁気ディスクドライブの SCSI-ID 番号を指定します。

REXDISK.SYS は通常 SCSI-ID 0~6 を順番スキャンして接続されているハードディスク / 光磁気ディスクドライブを検索します。

しかし、このオプションを指定することにより特定の SCSI-ID のみ検索させることが可能となり、ドライバの起動時間を短縮できます。

たとえば、SCSI-ID 0 と 1 のみを対象とする場合、「`/ScanID:0+1`」と記述すれば、2~6 の SCSI 機器については検索しません。

`/NoScanID:id+id+....`

先の「`/ScanID`」オプションと反対に REXDISK.SYS の対象外とする SCSI-ID 番号を指定します。

たとえば、SCSI-ID 5 と 6 のみを対象外とする場合、「`/NoScanID:5+6`」と記述すれば、5~6 の SCSI 機器については検索しません。

`/Hxx[:id+id+....]`

このオプションは NEC PC-9801 シリーズ用の各種 SCSI インターフェイスカードを使用して初期化されたディスクを再フォーマットせずに認識させようとした場合に、REXDISK が認識しないときに指定します。

「`/H`」に続けてフォーマット形式と対象とするドライブの SCSI ID を指定します。

「`xx`」のフォーマット形式は以下のいずれかを指定します。

指定値	対象フォーマット
92	NEC製SCSIインターフェイスカード(PC-9801-92)によるもの
55	NEC製SCSIインターフェイスカード(PC-9801-55)によるもの
S2	サードパーティ製 (ICM等)SCSIインターフェイスカード
MELCO	サードパーティ製 (MELCO等)SCSIインターフェイスカード
FMO	REXFMT v1.xx でNEC HD形式にフォーマットしたMO

ドライブの SCSI ID を省略した場合は、すべてのドライブが対象になります。

ただし、NEC HD 形式以外でフォーマットされているディスクは対象外になります。

`/E` ドライバの表示メッセージを英語にします。

英語 DOS 環境で使用する場合に指定します。

PC-DOS J6.1/V での制限について

REXDISK.SYSはIBMのPC-DOS J6.1/V で使用した場合に、以下の不具合が発生することがわかっています。

PC-DOS J6.1/V でディスクの圧縮機能が組み込まれており、「REXDISK.SYS」に 3 個以上の論理ドライブが割り当てられた場合、最終ドライブにアクセスできなくなる。

これを回避するには、「REXDISK.SYS」に「`/DUMMY`」オプションを指定して余分に 1 ドライブ確保するか、ディスク圧縮機能を完全に排除するためPC-DOS J6.1/V の再インストールを行う必要があります。

また、ディスク圧縮機能を排除する作業は「`FDISK`」によるハードディスクの再区画設定も伴います。一旦、起動ドライブのデータが完全に消去されるため、ファイルのバックアップ等を行ってから作業を行ってください。

PC-DOS J6.1/V 以外のディスク圧縮機能 (PC-DOS J6.3/V 等) の場合には、このような不具合は発生しません。

REXDISK.SYS の表示メッセージ

ASPI マネージャ対応 ハードディスク・MO デバイス ドライバ
REXDISK Ver x.xx (yymmdd)
Copyright(C) RATOC system,inc. 1994. Osaka,Japan.

ASPI Disk Device Driver
REXDISK.SYS Ver x.xx (yymmdd)
(c) Copyright 1994 RATOC system, inc. Osaka, Japan

意味 ・ドライバ起動メッセージ。

SCSI ID	デバイスタイプ	割り当てドライブ
#0	Hard Disk	F: G:
#4	Removable Media(MO)	H:

SCSI ID	Device Type	Drive
#0	Hard Disk	F: G:
#4	Removable Media(MO)	H:

意味 ・SCSI-ID が「0」のハードディスクを認識してドライブ「F:」と「G:」に割り当てた。
・SCSI-ID が「4」の光磁気ディスクを認識してドライブ「H:」に割り当てた。
・ドライバが正常に常駐した。

ハードディスク・MOドライブを見つける事ができませんでした。
ドライバは登録されません。

Hard Disk / MO Drive Not Found.
Driver Unloaded.

意味 ・SCSI バス上に接続されているハードディスクドライブまたは光磁気ディスクドライブを認識できなかった。

原因 ・ドライブの電源が入っていない。
・SCSI ケーブルが正しく接続されていない。
・SCSI ターミネータが装着されていない。
・ドライブからタームパワーが供給されていない。
・ディスクが「REXDISK.SYS」の認識できるフォーマットでない。

対処 ・ドライブの設定を確認します。
・SCSI ケーブルの接続を確認します。
・「REXFMT.EXE」を実行してディスクをフォーマットしてみます。
(注意)REXFMTでフォーマットするとディスクのデータはすべて消えます。

ASPI マネージャが登録されていません。

ASPI Manager Not Installed.
Driver Unloaded.

意味 ・ASPI9530.SYS, ASPDBK30.SYS, ASP36530.SYS などの ASPI マネージャが正常に起動していない。

原因 ・「CONFIG.SYS」ファイルへの「REXDISK.SYS」を登録する位置が不正。

対処 ・ASPI マネージャより後ろの行に登録します。

原因 ・ASPI マネージャが起動に失敗している。

対処 ・ASPI マネージャの設定や SCSI 機器の設定を確認します。

MSCDEX.EXE - CD-ROM エクステンション

CD-ROMドライブをMS-DOSから使用可能なドライブにするためのコマンドです。

ご注意

このプログラム自体は、本製品には含まれておりません

MSCDEXはマイクロソフト社の製品で以下のものを別途ご用意ください。

- ・ MS-DOS 6.2/V, PC-DOS 6.3/V, PC-DOS 7.0/Vに付属のもの
- ・ NEC版MS-DOS 6.2またはNEC版Windows3.1に付属のもの
- ・ EPSON版MS-DOS 6.2に付属のもの
- ・ CD-ROMドライブに付属のもの

MSCDEX.EXE の書式とオプション

書式

```
MSCDEX /D:<デバイス名> [/L:<ドライブ名>] [/M:<メモリサイズ>]
```

オプション

/D:<デバイス名>	CD-ROMデバイスドライバ名につけられたデバイス名を指定します。REXCD.SYS ではデフォルトのデバイス名は「PCMCIACD」です。
/L:<ドライブ名>	CD-ROMドライブに割り当てるMS-DOSのドライブ名を指定します。システムで予約されているドライブ名以降で「LASTDRIVE」で指定したドライブ名までの間で指定可能です。
/M:<メモリサイズ>	CD-ROMアクセス用のディスクバッファのサイズをキロバイト単位で指定します。

MSCDEX.EXE の表示メッセージ

```
MSCDEX Version 2.23  
Copyright(C) Microsoft Corp. 1986,1987,1988,1990 All right reserved.  
Drive L: = Driver PCMCIACD unit 0
```

意味 ・ ドライバが正常に常駐した

```
Device driver not found:'PCMCIACD'  
No valid CDROM device drivers selected
```

意味 ・ CD-ROM デバイス「PCMCIACD」が常駐していない。

原因 ・ 「REXCD.SYS」が起動していないか、エラーでアンロードされている。

対処 ・ 「REXCD.SYS」が正常に起動するよう CONFIG.SYS ファイルを修正します。

原因 ・ 「REXCD.SYS」の「/D:」オプションに指定したデバイス名が、「MSCDEX」の「/D:」オプションに指定したデバイス名と一致していない。

対処 ・ CONFIG.SYS ファイルの「DEVICE=REXCD.SYS」行「/D:」オプションに指定したデバイス名を確認して、AUTOEXEC.BAT ファイルの「MSCDEX」行「/D:」オプションのデバイス名をそれに一致させます。

Not enough drive letters available

- 意味 ・ CD-ROM ドライブに割り当てる MS-DOS のドライブ名が無効。
- 原因 ・ 「MSCDEX」コマンドの「/L:」オプションに指定したドライブ名が、すでに他のデバイスに割り当たっている。
- 対処 ・ 「/L:」オプションに指定したドライブがネットワークドライブ等に割り当たっていないか確認します。
- 原因 ・ 「CONFIG.SYS」ファイルの「LASTDRIVE=」に指定した値以降のドライブ名を「/L:」オプションのドライブ名に指定している
- 対処 ・ 「LASTDRIVE=」の値または「/L:」オプションの値を変更します。

WINASPI.DLL, VASPIREX.386

WINASPI.DLL は、Windows 上から ASPI マネージャを呼び出すためのダイナミック・リンク・ライブラリ (DLL) です。

VASPIREX.386 は、WINASPI.DLL がプロテクトメモリにアクセスするための Windows 用の仮想デバイスドライバです。

WINASPI.DLL ,VASPIREX.386 の 2 つのドライバが組み込まれることにより Windows 上からの ASPI インターフェイスを提供します。

この機能は、CDROM デバイスドライバや HD/MO 用ディスクドライバを介さずに SCSI 機器を直接制御するソフトが使用します。

たとえば、SCSI インターフェイスを持つイメージスキャナ向けのユーティリティがあります。

WINASPI.DLL, VASPIREX.386 のインストール手順

1. 「Windows3.1 上のインストール」で説明されている手順にしたがって PC カードおよびドライバのインストールを行います。

画面左の [WinASPI の組み込み] 項目をチェックします。

スキャナのみを接続する場合、[使用する SCSI 機器] の [CD-ROM ドライブ] [ハードディスク、MO] のチェックは両方ともクリアします。

EPSON PC シリーズ (9 8 互換機) の場合、Windows3.1 の SYSTEM.INI ファイルの [System] セクション内に「ReflectTimer=1」を設定します。

([System] セクションそのものがない場合は追加します)

```
[System]
ReflectTimer=1
```

2. パソコン本体を再起動して、ASPI マネージャが正しく登録されるか確認します。
3. Windows を起動して、WINASPI を使用するソフトを動かします。

WINASPI.DLL の制限

WINASPI.DLL は DOS 用 ASPI マネジャおよび仮想デバイスドライバ VASPIREX.386 が正しく組み込まれていないと動作しません。

本製品に添付しているWINASPI.DLLは、Windows3.1専用となっているためWindows95上では正常に動作しません。したがって、Windows95には組み込まないようしてください。

表示メッセージ

DOS ASPI マネジャが登録されていません！

- 意味 ・ ASPI マネジャが正常に起動していない。
- 原因 ・ ASPI マネジャが起動に失敗している。
- 対処 ・ CONFIG.SYS ファイルの ASPI マネジャの設定を確認します。

VASPIREX.386 が登録されていません。
system.ini に正しく登録されているか確認してください。

- 意味 ・ 「VASPIREX.386」が正常に起動していない。
- 原因 ・ VASPIREX.386 が Windows の SYSTEM ディレクトリにコピーされていないか SYSTEM.INI に記述がない。
- 対処 ・ 「WINASPI.DLL, VASPIREX.386 のインストール手順」にしたがってインストールする。

9. 付録

付属のインストーラを使用しない場合

ここでは、DOS用SCSI関連ドライバ類をインストールする場合に、付属のインストーラを使用せずにインストールする手順について説明します。

ASPIマネージャ / ASPIモジュール等のコピー

CONFIG.SYSへのPCMCIAドライバ/ASPIマネージャ/モジュールの設定

AUTOEXEC.BAT への設定

ASPI マネージャ / ASPI モジュール等のコピー

本製品添付のフロッピーディスクから ASPI マネージャ / ASPI モジュールの各ファイルをコピーします。

- 最初に、各ファイルを格納するために「SCSI」という名前でサブディレクトリを作成します。
- 次に、本製品添付のフロッピーディスクから必要なファイルを作成したサブディレクトリ内に「copy」コマンドでコピーします。

・ ASPIマネージャは、使用するパソコンの機種に対応したディレクトリからコピー

以下のパソコンの場合は、必ず「BM」ディレクトリからコピーしてください。

PC-9821Nr15, FMV-5150NA3, FMV-5133NP, FMV5120NU2, IBM ThinkPad760

・ REXCD, REXDISKは、「SCSIUT」ディレクトリからコピー

C> mkdir %scsi <Enter>

ディレクトリ「SCSI」の作成

C> copy a:%at c:%scsi <Enter>

ディレクトリ AT, 98, EP,BMからコピー

C> copy a:%scsiut c:%scsi <Enter>

ディレクトリ SCSIUTからコピー

CONFIG.SYS への PC カードドライバ / ASPI マネージャ / ASPI モジュールの設定

各ドライバの設定は、以下に示す順番で CONFIG.SYS ファイルに登録されている必要があります。

EMM386.EXE等の拡張メモリーマネージャ

カードサービス / CardTalk等のPCカードドライバ

ASPI9530.SYS / ASPDBK30.SYS / ASP36530.SYS等の
ASPIマネージャ

REXCD.SYS / REXDISK.SYS等のASPIモジュール

LASTDRIVEの指定

その他

- EMM386.EXE 等の拡張メモリーマネージャ
EMM386.EXE 等の拡張メモリーマネージャがカード属性読みだし用のメモリ・ウィンドウを使用しないように設定する必要があります。

たとえば、DOS/V パソコンで「EMM386.EXE」が組み込まれている場合「X」オプションで以下のとおりに設定しておくことで「CF000h～CFFFh」の4Kバイトがメモリ・ウィンドウとして確保されます。

DEVICE = C:%DOS%EMM386.EXE 512 FRAME=D000 X=CF00-CFFF

また、PC カードスロットが2スロットで「ASPDBK30.SYS」、「ASP36530.SYS」を使用する場合、メモリウィンドウを8Kバイト以上確保してください。

DEVICE = C:%DOS%EMM386.EXE 512 FRAME=D000 X=CE00-CFFF

第9章 付録

2. カードサービス/CardTalk 等の PC カードドライバ

REX-9530 に付属する ASPI マネージャは「カードサービス」等の PC カードドライバが提供される場合は、そのドライバを経由して REX-9530 を制御しています。したがって MS-DOS のシステムには、PC カードドライバが組み込まれている必要があります。

3. ASPI マネージャ

ASPI マネージャは PC カードドライバの種類や有無に対応したものを組み込む必要があります。

4. ASPI モジュール

ASPI マネージャ上で動作する ASPI モジュールは、SCSI PC カードに接続する SCSI 機器に対応したものを組み込む必要があります。

5. LASTDRIVE

「LASTDRIVE」コマンドによって CD-ROM が割り当て可能となる最終ドライブを設定する必要があります。

AUTOEXEC.BAT への設定

CD-ROM ドライブを使用する場合は、「AUTOEXEC.BAT」ファイルに「MSCDEX」を起動する行を追加します。

「AUTOEXEC.BAT」の記述追加例

```
C:¥DOS¥MSCDEX /D:PCMCICD /L:M
```

この例では、以下の設定となります。

- ・ディレクトリ「C:¥DOS」の「MSCDEX」を実行します。
- ・CD-ROM デバイス名「PCMCICD」を「/D:」オプションに指定して、「MSCDEX」が制御するようにします。
- ・「/L:」オプションに「M」を指定して、CD-ROM ドライブを MS-DOS のドライブ「M」に割り当てます。

SYSTEM.INI の設定について

先に「EMM386.EXE」の「X」オプションで指定した値を同じ範囲を、Windows 3.1の「SYSTEM.INI」ファイルの「386Enh」セクション内に「EMMExclude」項目で指定します。

SYSTEM.INIファイル

```
.....  
[386Enh]  
.....  
EMMExclude = CE00 - CFFF
```

この範囲は使用する環境によって異なります。

PC カードドライバについて

MS-DOS上でPCカードスロットおよびPCカードを使用するために専用のデバイスドライバを組み込む必要があります。このドライバソフトは「カードサービス」と呼ばれ、通常パソコン本体のメーカーより提供されているため、本製品には付属していません。

対応カードサービスについて

本製品に付属するASPIマネージャ「ASPI9530.SYS, ASPI9530N.SYS, ASPI9530E.SYS」は「カードサービス」の機能を使用してPCカードを制御します。本製品ではPCMCIA 2.0以降のカードサービスに対応しており、現在動作を確認済みの「カードサービス」のベンダーおよびバージョンは以下のとおりです。

種類およびバージョン	ドライバ・ファイル名	パソコン機種
IBM版 Play At Will 2.xx	IBMDSS01.SYS, IBMDOSCS.SYS	DOS/V パソコン
IBM版 PCMCIA 2.00相当 (ATバス用)	IBMDSS01.SYS, IBMDOSCS.SYS	IBM ThinkPad(ATバス) Panacom PRONOTE jet
IBM版 PCMCIA 2.00相当 (MCAバス用)	IBMDSS02.SYS, IBMDOSCS.SYS	IBM ThinkPad(MCAバス)
IBM版 PCMCIA 1.07相当	DICSS001.SYS, DICCS.SYS	IBM ThinkPAD
SystemSoft版 PCMCIA 2.01相当 v4.11	SS365SL.EXE, SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, CS.EXE, CIC.EXE	
SystemSoft版 PCMCIA 2.01相当 v4.12 PCMCIA 2.10相当 v2.0x	SS365SL.EXE, SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, SSVADEM.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	SOTEC WiNBook DELL Latitude
SystemSoft版 PCMCIA 2.10相当 v2.0x	SSVLSI.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	COMPAQ CONTURA AERO 4/25, 4/33C
Phoenix Technologies版 PCMPLUS PCMCIA 2.00相当 v1.0 PCMCIA 2.10相当 v2.2x	PCMSS.EXE, PCMCS.EXE, PCMSCD.EXE	FUJITSU FM-V NoteBook TOSHIBA DynaBook V486FV, EZVison, SS433, SS425
Phoenix Technologies版 PCMPLUS PCMCIA 2.10相当 v3.x	CNFIGNAM.EXE PCMSS.EXE, PCMCS.EXE, PCMSCD.EXE	FUJITSU FM-V BIBLO TOSHIBA DynaBook GT450, SS450, GT475, , SS475, SS-R590
DATABOOK版	SOCKET.SYS, CTALKCS.EXE, CARDTALK.SYS	
SystemSoft版PC98対応 PCMCIA 2.10相当v2.06	SSDRV.SYS, CS.EXE, CSALLOC.EXE	NEC PC-9821シリーズ
SystemSoft版EPSON PC 対応 PCMCIA 2.10相当v4.17	SS.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	EPSON PCシリーズ (98互換機)

また、IBMから発売されている「PC-DOS J6.1/V」「PC-DOS J6.3/V」「PC-DOS J7.0/V」に含まれているPhoenix Technologies版のカードサービスでも動作が確認されています。

「DATABOOK CardTalk」について

DATABOOK社のPCMCIAコントローラが搭載されているパソコンでは、「CardTalk」と呼ばれるドライバが提供されていることがあります。
この場合は、CardTalk用のASPIマネージャ「ASPDBK30.SYS」を用意していますので、そちらをお使いください。

カードサービスがない場合

パソコンによってはカードサービスが提供されていない場合があります。そういう場合は、まずパソコン本体のメーカーや販売店にお問い合わせください。ここでは、メーカーや販売店がカードサービスを提供していない場合の対処方法について説明します。

別途カードサービス用意する

別途カードサービスを用意するには次の2つの方法があります。

IBMのカードサービス「Play at Will」を使用する。

「IBM版カードサービス Play At Will Ver3.xx」または、「IBM版カードサービス Play At Will Ver2.xx」を別途用意してください。

IBMの「PC-DOS J7.0/V, J6.1/V, J6.3/V」に含まれている「PCPLUS」を使用する。
PC-DOS J7.0/V, J6.1/V, J6.3/VのセットアップでPCMCIAを使用するように設定してください。

マイクロソフト社のMS-DOS 5.0/V や MS-DOS 6.2/V にはカードサービスが含まれていませんので注意してください。

カードサービスを使用しない

カードサービスを使用しない場合、次のいずれかの条件であれば使用可能です。
ただし、活線挿抜機能には対応しません。

PCMCIAコントローラがDATABOOK社のLSIでCardTalkが提供されている場合
CONFIG.SYSファイルに「CARDTALK.SYS」を含むドライバが登録されている場合は、PCカードドライバとしてCARDTALKが組み込まれています。

この場合は、ASPIマネージャにASPDBK30.SYSを組み込めば使用可能です。

PCMCIAコントローラがi82365およびその互換LSIの場合

後述の「PCMCIAコントローラ(i82365)の確認方法」で確認できた場合は、ASPIマネージャにASP36530.SYSを組み込めば使用可能です。

PCMCIA コントローラ (i82365) の確認方法

パソコン側にカードサービスもソケットサービスも用意されていない場合、PCMCIA コントローラ LSI を直接制御するタイプの APSI マネジャ「ASP36530.SYS」を使用します。しかし「ASP36530.SYS」ではインテルの ExCA 規格に基づいたハードウェアを想定していますので、DATABOOK 社製コントローラ上では動作しません。使用されている PCMCIA コントローラの種別は下記の方法で簡単に調査することができます。

- (1) MS-DOS の「DEBUG.COM」というコマンドを起動します。このコマンドは通常 MS-DOS の標準ユーティリティのあるディレクトリに存在します。
- (2) I/O ポート「3E0」に「00」を書き込みます。
- (3) I/O ポート「3E1」の内容を読みだします。
- (4) 確認したら、「q」コマンド入力して「DEBUG」を終了します。

C:¥DOS> DEBUG <Enter>	(1)
-o 3E0 0 <Enter>	(2)
-i 3E1 <Enter>	(3)
-83	
-q <Enter>	(4)
C:¥DOS>	

読みだした内容が「8x」であればインテル 82365 または互換製品が使用されていますので「ASP36530.SYS」は動作します。

読みだした内容が「FF」であった場合、「ASP36530.SYS」は使用できません。

パソコン機種別設定例

ここでは、DOS/Windows3.1 がインストールされた各パソコンの機種別および PCMCIA ドライバ別に具体的な設定例で説明していきます。

これらの例は、あくまで DOS/Windows3.1 がインストールされたパソコンの標準的な環境を想定しています。Windows95, WindowsNT 3.51, OS/2 Warp 等の他の OS の場合は、ここでの説明とは異なりますのでご注意ください。また、メーカー側の仕様変更などにより実際にご使用頂いている環境と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

IBM 版カードサービス Play At Will Ver3.xx の場合

- (1) 「Play At Will」のマニュアルにしたがってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=C800-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥EZPLAY¥SSDPCIC.SYS	(B)
DEVICE = C:¥EZPLAY¥IBMDOSCS.SYS	(C)
DEVICE = C:¥EZPLAY¥RMUDOSAT.SYS /SH=1 /NS=1 /MA=C800-CFFF	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:¥EZPLAY¥AUTODRV.SYS	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A) ~ (H)の説明については「IBM 版カードサービス PCMCIA 2.00 相当の場合」をご覧ください。

IBM 版カードサービス Play At Will Ver2.xx の場合

- (1) 「Play At Will」のマニュアルにしたがってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=C800-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥EZPLAY¥IBMDSS01.SYS	(B)
DEVICE = C:¥EZPLAY¥IBMDOSCS.SYS	(C)
DEVICE = C:¥EZPLAY¥DICRMU01.SYS /MA=C800-CFFF	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:¥EZPLAY¥AUTODRV.SYS C:¥EZPLAY¥AUTODRV.INI	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A) ~ (H)の説明については「IBM 版カードサービス PCMCIA 2.00 相当の場合」をご覧ください。

IBM 版カードサービスPCMCIA 2.00 相当の場合

IBM の ThinkPad シリーズの以下の機種では IBM 版のカードサービス PCMCIA 2.00 相当が提供されています。

IBM ThinkPad 220, 230C, 320, 330CS, 340, 360Cs, 420, 520, 530Cs, 555BJ

IBM ThinkPad 720C, 750C, 755, 701

- (1) パソコン本体付属のマニュアルにある「IC カード・デバイス・ドライバの導入」にしたがってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

ATバス用

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=C800-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\EZGOING\IBMDSS01.SYS /M	(B)
DEVICE = C:\EZGOING\IBMDOSCS.SYS	(C)
DEVICE = C:\EZGOING\DICRMU01.SYS /MA=C800-CFFF	(D)
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:\EZGOING\AUTODRV.SYS C:\EZGOING\AUTODRV.INI	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(H)

MCAバス用

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=C800-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\NOTEUT\IBMDSS02.SYS	(B)
DEVICE = C:\NOTEUT\IBMDOSCS.SYS	(C)
DEVICE = C:\NOTEUT\DICRMU02.SYS /MA=C800-CFFF	(D)
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:\NOTEUT\AUTODRV.SYS C:\NOTEUT\AUTODRV.INI	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSDPCIC1.SYS」, 「IBMDSS01.SYS」, 「IBMDSS02.SYS」を起動しています。 PlayAtWillの場合、このファイル名はインストール時選択した「Machine Number」によって異なります。 (注意)機種によっては「/SO=」オプションでPCMCIAスロット数を指定する必要があります。たとえばスロットが1つの場合は、「/SO=1」となります。
(C)	カードサービス「IBMDOSCS.SYS」を起動しています。
(D)	リソース・マップ・ユーティリティ「RMUDOSAT.SYS」, 「DICRMU01.SYS」, 「DICRMU02.SYS」に対して、カードサービスが「C800h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用するように指定しています。 MCAバスのパソコンの場合はファイル名が「DICRMU02.SYS」になります。 IBM版カードサービスPCMCIA 1.07相当の「RMULT.EXE」では「/MX」で割り当て不可メモリー・ウィンドウを指定していましたが、PCMCIA 2.00相当の「DISRMU0x.SYS」以降「/MA」で割り当て可能メモリー・ウィンドウを指定するよう変更されていますので注意してください。

第9章 付録

(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。このドライバはPCカード独自のクライアント・デバイス・ドライバに当たるため、次にある「AUTODRV.SYS」より前に追加します。
(F)	DOS/Windows オートコンフィギュレータ「AUTODRV.SYS」を起動しています。機種によっては、この行がない場合もあります。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

IBM 版カードサービスPCMCIA 1.07 相当の場合

IBM の ThinkPad シリーズの以下の機種では IBM 版のカードサービス PCMCIA 1.07 相当が提供されています。

IBM ThinkPad M23V, C23V, 550BJ

- (1) パソコン本体付属のマニュアルにある「IC カード・デバイス・ドライバの導入」にしたがってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=CF00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥NOTEUT¥DICSS001.SYS /S0=1 /C0=10	(B)
DEVICE = C:¥NOTEUT¥DICCS.SYS	(C)
DEVICE = C:¥NOTEUT¥RMUTL.EXE /MX=D000-DFFF	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CF00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「DICSS001.SYS」に対して、ソケット数 = 1、カード状態検出用割り込み番号 = IRQ10で起動しています。 (注意)PCMCIAスロットが2スロットの機種(550BJなど)の場合、「/S0=1」は「/S0=2」となります。
(C)	カードサービス「DICCS.SYS」を起動しています。
(D)	リソース・マップ・ユーティリティ「RMUTL.EXE」に対して、EMMページフレームの「D000h~DFFFh」を使用しないように指定しています。 ただし、PCMCIAスロットで使う装置が本製品に限られる場合、この機能は特に必要がないためこの行そのものを削除するか、行の先頭に「rem」を挿入して注釈行にしてください。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

Panasonic PRONOTE jet の場合

松下電器産業の PRONOTE jet シリーズでは IBM 版のカードサービスが提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=CF00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥ICCARD¥IBMDSS01.SYS /S0=2	(B)
DEVICE = C:¥ICCARD¥IBMDOSCS.SYS	(C)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(F)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CF00h～CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「IBMDSS01.SYS」に対して、ソケット数 = 2 で起動しています。
(C)	カードサービス「IBMDOSCS.SYS」を起動しています。
(D)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(E)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIA CD」として起動しています。
(F)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

コンパック LTE 5000 シリーズの場合

コンパック の LTE5000 シリーズでは SystemSoft 版のカードサービスがプレインストールされています。

- (1) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に確認します。

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE NOEMS I=B000-B7FF X=D100-D5FF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥PC_CARD¥SSCIRUS2.EXE	(B)
DEVICE = C:¥PC_CARD¥CS.EXE	(C)
DEVICE = C:¥PC_CARD¥CSALLOC.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:¥PC_CARD¥CARDID.EXE	(E)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

第9章 付録

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D100h～D5FFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSCIRUS2.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」を起動しています。
(E)	コモインエーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

コンパック CONTURA 400 / 410 / 420 / 430, LTE Elite, CONTURA AERO 4/25, 4/33C の場合

コンパックの上記の機種ではSystemSoft版のカードサービスがプレインストールされています。

(1) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

CONTURA 400 / 410 / 420 / 430, LTE Elite, CONTURA AERO 4/25 の場合

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 X=D000-DFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CPQDOS¥SSVLSI.EXE	(B)
DEVICE = C:¥CPQDOS¥CS.EXE	(D)
DEVICE = C:¥CPQDOS¥CSALLOC.EXE	(E)
INSTALL = C:¥CPQDOS¥CARDID.EXE C:¥CPQDOS¥CARDID.INI	(F)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(H)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(I)

CONTURA AERO 4/33Cおよび4/25の一部の機種の場合

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 X=D000-DFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CPQDOS¥SSVLSI.EXE	(B)
DEVICE = C:¥CPQDOS¥PCMSMIX.EXE	(C)
DEVICE = C:¥CPQDOS¥CS.EXE	(D)
DEVICE = C:¥CPQDOS¥CSALLOC.EXE	(E)
INSTALL = C:¥CPQDOS¥CARDID.EXE C:¥CPQDOS¥CARDID.INI	(F)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280 /INT=B	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(H)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(I)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D000h～DFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSVLSI.EXE」を起動しています。
(C)	この記述がコメント行になっている場合は、そのまま変更しないでください。
(D)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(E)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」を起動しています。 4/33Cの場合、ディレクトリ「C:¥CPQDOS」のリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を参照して起動しています。

(F)	コモンインーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(G)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。 4/33Cおよび4/25の一部の場合、カードコンフィギュレーション時に割り当てる割り込み番号を「B」としています。ここで指定可能な割り込み番号は、ご使用になる環境によって異なります。また、「CSALLOC.INI」の「IRQ=」リストに登録されているものに限ります。
(H)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(I)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

DEC Digital HiNote シリーズの場合

日本デジタルイクイップメント Digital HiNoteシリーズではSystemSoft版のカードサービス CardSoft 3.1がプレインストールされています。

(1) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 X=D000-DFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥SSCIRRUS.EXE	(B)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CS.EXE	(C)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE	(E)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D000h~DFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSCIRRUS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」を起動しています。
(E)	コモンインーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

DELL Latitude シリーズの場合

デルコンピュータ LatitudeシリーズではSystemSoft版のカードサービスがプレインストールされています。

(1) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE 1024 X=D000-DBFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\DELL\PCMCIA\SSVADEM.EXE	(B)
DEVICE = C:\DELL\PCMCIA\CS.EXE	(C)
DEVICE = C:\DELL\PCMCIA\CSALLOC.EXE C:\DELL\PCMCIA\CSALLOC.INI	(D)
.....	
DEVICE = C:\DELL\PCMCIA\CARDID.EXE C:\DELL\PCMCIA\CARDID.INI	(E)
.....	
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(G)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(H)
LASTDRIVE=M	(I)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D000h～DBFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSVADEM.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」を起動しています。
(E)	コモンインーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

(注意) PCカードセントラルによるカードの設定は行わないでください。

SOTEC WinBook Pro の場合

SOTEC WinBook Pro では SystemSoft 版のカードサービスが提供されています。それ以前の WinBook の場合には、後述「SOTEC WinBook/GATEWAY 2000 ColorBook の場合」にしたがってインストールしてください。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM X=D000-D7FF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥SSCIRRUS.EXE	(B)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CS.EXE	(C)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.INI	(D)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE	(E)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D000h～D7FFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSCIRRUS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」がディレクトリ「C:¥CARDSOFT」のリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を参照して起動しています。
(E)	コモインエネブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIA CD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

- (3) リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」が参照するリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」ファイルを下の記述例を参考に確認しておきます。

「CSALLOC.INI」の記述例

MEM = D000-D7FF	(A)
IOP = 100-1EF, 1F8-377, 380-397, 3A0-3AF, 3E8-3EF	(B)
R1OP = 170-177, 2E8-2EF, 2F8-2FF, 370-377, 3E8-3EF	
IRQ = 3, 5, A-B	

(A)	MEM=	カード属性読みだし用のメモリー・ウィンドウ・セグメントとして「D000h～D7FFh」を使用するように指定しています。この領域は、「CONFIG.SYS」ファイルで拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」に「X=D000h～D7FFh」オプションで使用しないように指定しています。
(B)	IOP=	REX-9530が使用可能なI/Oアドレスとして「120-12F, 140-14F, 180-18F, 280-28F, 300-30F, 340-34F」がリストに含まれています。

SOTEC WinBook / GATEWAY 2000 ColorBook の場合

SOTEC WinBook / GATEWAY 2000 ColorBook では SystemSoft 版のカードサービスが提供されています。

SOTEC WinBook Pro の場合には、前出「SOTEC WinBook Pro の場合」にしたがってインストールしてください。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 1024 X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥SSCIRRUS.EXE	(B)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CS.EXE /IRQ A	(C)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.INI	(D)
INSTALL = C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE C:¥CARDSOFT¥CARDID.INI	(E)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h～CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSCIRRUS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」がカード状態検出用IRQ番号「0Ah」を使用して起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」がディレクトリ「C:¥CARDSOFT」のリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を参照して起動しています。
(E)	コモンインテラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIA CD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

- (3) リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」が参照するリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」ファイルを下の記述例を参考に確認しておきます。

「CSALLOC.INI」の記述例

MEM = CE00-CFFF	(A)
IOP = 100-11F, 130-16F, 178-1EF, 1F8-1FF, 208-2F7, 300-36F, 3A0-3B7, 3E0-3EF	(B)
RIOP = 170-177, 370-39F, 3F0-3FF	(C)
IRQ = 5, 7, A-C, F	(C)

(A)	MEM=	カード属性読みだし用のメモリー・ウィンドウ・セグメントとして「CE00h～CFFFh」を使用するように指定しています。この領域は、「CONFIG.SYS」ファイルで拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」に「X=CE00h～CFFFh」オプションで使用しないように指定しています。
-----	------	--

(B)	IOP=	REX-9530が使用可能なI/Oアドレスとして「120-12F,140-14F,180-18F,280-28F,300-30F,340-34F」がリストに含まれています。
(C)	IRQ=	カードサービス「CS.EXE」がカード状態検出用として使用するIRQ番号「0Ah」がリストに含まれています。

SHARP Mebiusシリーズの場合

シャープ株式会社のMebiusシリーズではSystemSoft版のカードサービスが提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に確認します。

rem PCMCIA用	
DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE NOEMS X=D000-DFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥SSVADEM.EXE	(B)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CS.EXE	(C)
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE	(E)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=300	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D000h~DFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。Xオプションの値がこれ以外の場合、「D000h~DFFFh」に変更してください。
(B)	ソケットサービス「SSVADEM.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」を起動しています。
(E)	コモンイネーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=300hとして起動しています。
(G)	CD-ROM用デバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

EPSON vividy NOTE シリーズの場合

エプソン販売の vividy NOTE シリーズでは SystemSoft 版のカードサービスが提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に確認します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE NOEMS X=D000-D7FF I=CA00-CFFF I=E500-EFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥CARDWIZ¥SSCIRRUS.EXE /SKT:2	(B)
DEVICE = C:¥CARDWIZ¥CS.EXE /IRQ:0B	(C)
DEVICE = C:¥CARDWIZ¥CSALLOC.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:¥CARDWIZ¥CARDID.EXE	(E)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=300	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D000h~D7FFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSCIRRUS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」を起動しています。
(E)	コモンイネーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=300hとして起動しています。
(G)	CD-ROM用デバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIA CD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

SystemSoft 版カードサービス対応の他の場合その1)

PCMCIA 2.01相当 v4.12 および PCMCIA 2.10相当 v2.0xの場合

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE 1024 X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\CARDSOFT\SS365SL.EXE /SKT 2	(B)
DEVICE = C:\CARDSOFT\CS.EXE /IRQ A	(C)
DEVICE = C:\CARDSOFT\CSALLOC.EXE C:\CARDSOFT\CSALLOC.INI	(D)
INSTALL = C:\CARDSOFT\CARDID.EXE C:\CARDSOFT\CARDID.INI	(E)
.....	
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(G)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(H)

(A)	<p>拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。</p> <p>メモリー・ウィンドウに割り当て可能なセグメントは、各パソコンの機種によって異なりますので、「MSD.EXE」コマンド（MS-Windows3.1に付属）などを使用して確認してください。</p>
(B)	<p>ソケットサービス「SS365SL.EXE」に対して、ソケット数 = 2 で起動しています。</p> <p style="text-align: center;">/SKT n n: PCMCIAソケット数</p> <p>(注意) PCMCIAスロットが1スロットの機種の場合、「/SKT 1」となります。</p> <p>PCMCIAコントローラによって「SS365SL.EXE」以外に以下のものを使用する場合があります。</p> <p style="text-align: center;">SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, SSVADEM.EXE</p>
(C)	<p>カードサービス「CS.EXE」がカード状態検出用IRQ番号「0Ah」を使用して起動しています。</p> <p style="text-align: center;">/IRQ m m: カード状態検出用IRQ番号</p>
(D)	<p>リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」がディレクトリ「C:\CARDSOFT」のリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を参照して起動しています。</p>
(E)	<p>コモンインテラ「CARDID.EXE」を起動しています。</p>
(F)	<p>カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。</p>
(G)	<p>CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。</p>
(H)	<p>ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。</p>

第9章 付録

- (2) リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」が参照するリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」ファイルを下の記述例を参考に確認しておきます。

「CSALLOC.INI」の記述例

MEM = CE00-CFFF	(A)
IOP = 100-11F,130-16F,178-1EF,1F8-1FF,208-2F7,300-36F,3A0-3B7,3E0-3EF	(B)
RIOP = 170-177,370-39F,3F0-3FF	
IRQ = 5,7,A-C,F	(C)

(A)	MEM=	カード属性読みだし用のメモリー・ウィンドウ・セグメントとして「CE00h～CFFFh」を使用するように指定しています。この領域は、「CONFIG.SYS」ファイルで拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」に「X=CE00h～CFFFh」オプションで使用しないように指定しています。
(B)	IOP=	REX-9530が使用可能なI/Oアドレスとして「120-12F,140-14F,180-18F,280-28F,300-30F,340-34F」がリストに含まれています。
(C)	IRQ=	カードサービス「CS.EXE」がカード状態検出用として使用するIRQ番号「0Ah」がリストに含まれています。

SystemSoft 版カードサービス対応の他の場合その2)

PCMCIA 2.01相当 v4.11 以前の場合

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

DEVICE=C:\%DOS%\EMM386.EXE 1024 FRAME=D000 X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE=C:\%CARDSOFT%\SS365SL.EXE /SKT 2	(B)
DEVICE=C:\%CARDSOFT%\CS.EXE /IRQ A	(C)
DEVICE=C:\%CARDSOFT%\CIC.EXE /CSBAS CE /NWBAS CE /NWSIZ 1 /NWBAS2 CF /NWSIZ2 1	(D)
DEVICE=C:\%SCSI%\ASPI9530.SYS /PORT=300	(E)
DEVICE=C:\%SCSI%\REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(F)
DEVICE=C:\%SCSI%\REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h～CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。 メモリー・ウィンドウに割り当て可能なセグメントは、各パソコンの機種によって異なりますので、「MSD.EXE」コマンド（MS-Windows3.1に付属）などを使用して確認してください。
(B)	ソケットサービス「SS365SL.EXE」に対して、ソケット数=2で起動しています。 (注意)PCMCIAスロットが1スロットの機種の場合、「/SKT 1」となります。 /SKT n n: PCMCIAソケット数 PCMCIAコントローラによって「SS365SL.EXE」以外に以下のものを使用する場合があります。 SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE
(C)	カードサービス「CS.EXE」がカード状態検出用IRQ番号「0Ah」を使用して起動しています。 /IRQ m m: カード状態検出用IRQ番号

(D)	<p>クライアントドライバ「CIC.EXE」に対して、カードサービスが「CE00h～CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用するように指定しています。 この領域は、拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」に「X=CE00h～CFFFh」オプションで使用しないように指定しています。 また、それぞれのPCMCIAスロットに対して4 Kバイトずつのメモリー・ウィンドウを割り当てています。</p> <p>/CSBAS xx カードサービスが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。</p> <p>/NWBAS xx スロット1に装着したPCカードが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。</p> <p>/NWSIZ xx スロット1に装着したPCカードが使用するメモリー・ウィンドウのサイズを4Kバイトで割った値を指定します。</p> <p>/NWBAS2 xx スロット2に装着したPCカードが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。</p> <p>/NWSIZ2 xx スロット2に装着したPCカードが使用するメモリー・ウィンドウのサイズを4Kバイトで割った値を指定します。</p>
(E)	<p>カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=300hとして起動しています。</p>
(F)	<p>CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIA CD」として起動しています。</p>
(G)	<p>ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。</p>

TOSHIBA DynaBook GT450, SS450, GT475, SS475, SS-R590, GT-R575, GT-R590 の場合

TOSHIBA DynaBook GT450, SS450, GT475, SS475, SS-R590, GT-R575, GT-R590 では Phoenix Technologies 版のカードサービス (Phoenix Card Manager Plus Ver 3.x) が提供されています。

ご使用の機種が DynaBook V486FV, SS425, SS433, EZVision, EZ425 の場合は、後述「TOSHIBA DynaBook V486FV, SS425, SS433, EZVision, EZ425 の場合」をご覧ください。

- (1) パソコン本体付属の「東芝カードマネージャ」フロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

<pre>DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE RAM P0=D000 P1=D400 P2=D800 P3=DC00 I=B000-B7FF X=C800-C8FF</pre>	(A)
<pre>.....</pre>	
<pre>DEVICE=C:\PCPLUS3\CNFIGNAM.EXE /DEFAULT</pre>	
<pre>DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMSS.EXE</pre>	(B)
<pre>DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMCS.EXE</pre>	(C)
<pre>DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMRMAN.SYS</pre>	
<pre>DEVICE=C:\PCPLUS3\PCMSCD.EXE</pre>	(D)
<pre>.....</pre>	
<pre>DEVICE=C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280</pre>	(E)
<pre>DEVICE=C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIA CD</pre>	(F)
<pre>DEVICE=C:\SCSI\REXDISK.SYS</pre>	(G)

第9章 付録

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h～C8FFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」を起動しています。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。 I/Oベースアドレス=300hは使用できません。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

(注意) PCM.EXEによるカードの登録は行わないでください。

TOSHIBA DynaBook V486FV,SS425,SS433,EZVision,EZ425 の場合

TOSHIBA DynaBook シリーズ (DynaBook V486A 以前の機種を除く) では Phoenix Technologies 版のカードサービス (Phoenix Card Manager Plus) が提供されています。

DynaBook V486Aの場合は、次のいずれかの方法でインストールしてください。

**「PCMCIAコントローラ直接制御の場合」にしたがってインストールする
別売りの「東芝カードマネージャ」を用意して本項の手順でインストールする。**

- (1) 一部の機種では IC カードを JEIDA 規格のカードとして使用するための設定が必要です。
これは、パソコン本体付属のセットアップディスクに含まれる「SETUP」プログラムを起動して行います。
「システム・セットアップ」の「7. コミュニケーション / JEIDA」項目の「PC カードスロット」を「JEIDA」に設定してください。詳しくは、パソコン本体付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- (2) パソコン本体付属の「東芝カードマネージャ」フロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (3) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE P0=D000 P1=D400 P2=D800 P3=DC00 X=C800-C8FF X=C900-CCFF	(A)
.....	
DEVICE=C:¥PCPLUS¥PCMSS.EXE	(B)
DEVICE=C:¥PCPLUS¥PCMCS.EXE /WAIT=12 /ADDR=C8 /IRQ=10	(C)
DEVICE=C:¥PCPLUS¥PCMRMAN.EXE	
DEVICE=C:¥PCPLUS¥PCMSCD.EXE /RS=4 /COM=2	(D)
DEVICE=C:¥PCPLUS¥PCMATA.SYS /ADDR=C9 /SRAM	
.....	
DEVICE=C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE=C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(F)
DEVICE=C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h～C8FFh,C900～CCFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」が「C800h～CCFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用するように指定しています。また、カード状態検出用にIRQ番号「10」を使用するよう指定しています。 /ADDR = xx カードサービスが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。 /IRQ = xx カード状態検出用IRQ番号を10進数で指定します。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。 I/Oベースアドレス=300hは使用できません。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

FUJITSU FM V-BIBLO シリーズの場合

富士通の FM-V NoteBook シリーズでは Phoenix Technologies 版の PCM PLUS ver3.0 が提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE 1024 RAM X=C800-C8FF X=C900-CCFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\DOS\CONFIG.SYS /DEFAULT	
DEVICE = C:\DOS\PCMSS.EXE	(B)
DEVICE = C:\DOS\PCMCS.EXE	(C)
DEVICE = C:\DOS\PCMRMAN.SYS	
DEVICE = C:\DOS\PCMSCD.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCACD	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h～C8FFh」「C900h～CCFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」を起動しています。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。

第9章 付録

(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROM デバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

FUJITSU FM-V NoteBook シリーズの場合

富士通のFM-V NoteBook シリーズではPhoenix Technologies 版のカードサービスが提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE X=D800-DFFF	(A)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMS.S.EXE	(B)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMCS.EXE /WAIT=12 /ADDR=D8 /IRQ=10	(C)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMSCD.EXE /BEEP /COM=3 /LANIRQ=5	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「D800h～DFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMS.S.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」が「D800h～DFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用するように指定しています。また、カード状態検出用にIRQ番号「10」を使用するよう指定しています。 /ADDR = xx カードサービスが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。 /IRQ = xx カード状態検出用IRQ番号を10進数で指定します。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROM デバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

EPSON PC-VR466S(MOBILIO) の場合

エプソン販売の PC-VR466S (MOBILIO) シリーズでは Phoenix Technologies 版のカードサービス (Phoenix Card Manager Plus) が提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE 1024 RAM X=C800-C8FF X=C900-CCFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\PCM3\CNFIGNAM.EXE /DEFAULT	
DEVICE = C:\PCM3\PCMSS.EXE	(B)
DEVICE = C:\PCM3\PCMCS.EXE	(C)
DEVICE = C:\PCM3\PCMRMAN.SYS	
DEVICE = C:\PCM3\PCMSCD.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCACD	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h～C8FFh,C900h～CCFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」を起動しています。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

EPSON DIRECT Endeavor NT-500 の場合

エプソンダイレクトの Endeavor NT-500 シリーズでは Phoenix Technologies 版のカードサービス (Phoenix Card Manager Plus) が提供されています。

BIOS設定が以下の値になっていることを確認してください。

- ATBUS Clock Source - 14.381Mhz
- System Doze Timer - Disable

上記の項目を他の値に設定すると正しく動作しない場合があります。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE X=C800-C8FF X=C900-CCFF	(A)
DEVICE = C:¥PCM3¥CNFIGNAM.EXE /DEFAULT	(B)
DEVICE = C:¥PCM3¥PCMSS.EXE	(C)
DEVICE = C:¥PCM3¥PCMCS.EXE	(D)
DEVICE = C:¥PCM3¥PCMRMAN.SYS	(E)
DEVICE = C:¥PCM3¥PCMSCD.EXE	(F)
.....	(G)
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(A)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(B)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(C)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h～C8FFh,C900h～CCFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」を起動しています。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

PC-DOS J7.0/V 版カードサービスの場合

IBMの PC-DOS J7.0/V では Phoenix Technologies 版の PCM PLUS ver3.0 が提供されています。

- (1) PC DOS J7.0/V のインストール手順に従ってインストールします。

オプション・ツールの選択で「Phoenix PCMCIA サポート」が「はい」になるように設定してください。

- (2) 「PCMDINST」を実行します。
 (3) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に確認します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE X=C800-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\DOS\CNFIGNAM.EXE /DEFAULT	
DEVICE = C:\DOS\PCMSS.EXE	(B)
DEVICE = C:\DOS\PCMCS.EXE	(C)
DEVICE = C:\DOS\PCMRMAN.SYS	
DEVICE = C:\DOS\PCMSCD.EXE	(D)
.....	
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCACD	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「C800h～CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」を起動しています。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

PC-DOS J6.1/V, J6.3/V 版カードサービスの場合

IBM の PC-DOS J6.1/V, J6.3/V では Phoenix Technologies 版のカードサービスが提供されています。

- (1) PC DOS J6.1/V, J6.3/V のインストール手順に従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

PC-DOS J6.1/Vの場合

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥DOS¥PCMSS.EXE	(B)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMCS.EXE /WAIT=12 /ADDR=CE /IRQ=10	(C)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMSCD.EXE /BEEP /COM=3 /LANIRQ=5	(D)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS /DUMMY	(G)

PC-DOS J6.3/Vの場合

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥DOS¥PCMSS.EXE	(B)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMCS.EXE /WAIT=12 /ADDR=CE /IRQ=10	(C)
DEVICE = C:¥DOS¥PCMSCD.EXE /BEEP /COM=3 /LANIRQ=5	(D)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD	(F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(G)

(A)	<p>拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。</p> <p>メモリー・ウィンドウに割り当て可能なセグメントは、各パソコンの機種によって異なりますので、「MSD.EXE」コマンド（MS-Windows3.1に付属）などを使用して確認してください。</p>
(B)	<p>ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。</p> <p>/APOFF マイクロ・チャンネル(MCA)バスの機種のみ必要。 オートパワーを止めます。</p> <p>/SO = m m にPCMCIAスロット数を指定します。</p>
(C)	<p>カードサービス「PCMCS.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用するように指定しています。また、カード状態検出用IRQ番号「10」を使用して指定しています。</p> <p>/ADDR = xx カードサービスが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。</p> <p>/IRQ = xx カード状態検出用IRQ番号を10進数で指定します。</p> <p>/NOPM 電力管理イベントを無視します。\$ICPMDIS.SYS, POWER.EXE が組み込まれている場合に指定します。</p>
(D)	<p>クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。</p>

(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。 /DUMMY ディスク圧縮機能による不具合を回避します。(J6.1/Vのみ)

Phoenix 版カードサービス PCPLUS 対応の他の場合

PCMCIA 2.00相当 PCPLUS v1.0 および PCMCIA 2.10相当 PCPLUS v2.2x の場合

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:\DOS\EMM386.EXE X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:\PCPLUS\PCMSS.EXE	(B)
DEVICE = C:\PCPLUS\PCMCS.EXE /WAIT=12 /ADDR=CE /IRQ=10 /VER=200	(C)
DEVICE = C:\PCPLUS\PCMSCD.EXE /BEEP /COM=3 /LANIRQ=5	(D)
.....	
DEVICE = C:\SCSI\ASPI9530.SYS /PORT=280	(E)
DEVICE = C:\SCSI\REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(F)
DEVICE = C:\SCSI\REXDISK.SYS	(G)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。 メモリー・ウィンドウに割り当て可能なセグメントは、各パソコンの機種によって異なりますので、「MSD.EXE」コマンド(MS-Windows3.1に付属)などを使用して確認してください。
(B)	ソケットサービス「PCMSS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「PCMCS.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用するように指定しています。また、カード状態検出用IRQ番号「10」を使用して指定しています。 /ADDR = xx カードサービスが使用するメモリー・ウィンドウ開始セグメントの先頭2桁を指定します。 /IRQ = xx カード状態検出用IRQ番号を10進数で指定します。
(D)	クライアントドライバ「PCMSCD.EXE」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

DATABOOK の PCMCIA コントローラ搭載パソコンの場合

DATABOOK の PCMCIA コントローラを搭載したパソコンでは、次の2つのケースがあります。

- DATABOOK 製のカードサービス (CTALKCS.EXE) が提供されている場合
- DATABOOK の CardTalk が提供されている場合

DATABOOK 製のカードサービス (CTALKCS.EXE) が提供されている場合

ご使用のパソコンまたはパソコン添付のフロッピーに CTALKCS.EXE というファイルが含まれている場合、DATABOOK 製のカードサービスが提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

```

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 512 X=CE00-CFFF (A)
.....
DEVICE = C:¥PCMCIA¥SOCKET.SYS (B)
DEVICE = C:¥PCMCIA¥CTALKCS.EXE (C)
DEVICE = C:¥PCMCIA¥CARDTALK.SYS /A /NOSHARE (D)
.....
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=300 (E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD (F)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS (G)
    
```

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SOCKET.SYS」を起動しています。
(C)	カードサービス「CTALKCS.EXE」を起動しています。
(D)	CardTalk「CARDTALK.SYS」を起動しています。
(E)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASPI9530.SYS」をI/Oベースアドレス=300hとして起動しています。
(F)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(G)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

REX-9530 が使用する I/O アドレス以外を 300h 以外にする場合は、CARDTLAK.SYS に「/IOW」オプションを指定する必要があります。

I/O ベースアドレス=140h にする場合の例

```

.....
DEVICE = C:¥PCMCIA¥CARDTALK.SYS /A /NOSHARE /IOW=140-14F
.....
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPI9530.SYS /PORT=140
    
```

DATABOOK 製の CARDTALK が提供されている場合
--

ご使用のパソコンまたはパソコン添付のフロッピーに CTALKCS.EXE が含まれていなくて CARDTALK.SYS というファイルが含まれている場合は、以下の説明にしたがって設定してください。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 512 X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥PCMCIA¥SOCKET.SYS	(B)
DEVICE = C:¥PCMCIA¥CARDTALK.SYS /A /NOSHARE	(C)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPDBK30.SYS /PORT=300 /MEM=CE00	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(F)

「CONFIG.SYS」の記述例 (ソケットサービスがBIOS-ROM組み込みの場合)

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 512 X=DE00-DFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥PCMCIA¥CARDTALK.SYS /A /NOSHARE	(C)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASPDBK30.SYS /PORT=300 /MEM=DE00	(D)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(E)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(F)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h~CFFFh」または「DE00h~DFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。メモリー・ウィンドウに割り当て可能なセグメントは、各パソコンの機種によって異なりますので、「MSD.EXE」コマンド (MS-Windows3.1に付属) などを使用して確認してください。
(B)	ソケットサービス「SOCKET.SYS」を起動しています。パソコンの機種によっては、「SS_1.SYS」や「CARDSOCK.SYS」の場合もあります。ソケットサービス自身がBIOS-ROMに組み込まれているようなパソコンでこれらのソケットサービスを必要としない場合があります。
(C)	CardTalk 「CARDTALK.SYS」を起動しています。
(D)	CardTalk用ASPIマネージャ「ASPDBK30.SYS」をI/Oベースアドレス=300hとして起動しています。また、カード属性読みだし用のメモリー・ウィンドウ・セグメントとして「CE00h~CFFFh」または「DE00h~DFFFh」を使用するように指定しています。
(E)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(F)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

PCMCIA コントローラ直接制御の場合

(1) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に修正します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE = C:¥DOS¥EMM386.EXE 512 X=CE00-CFFF	(A)
.....	
DEVICE = C:¥SCSI¥ASP36530.SYS /PORT=280 /MEM=CE00	(B)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(C)
DEVICE = C:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(D)

(A)	<p>拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「CE00h~CFFFh」のメモリー・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。</p> <p>メモリー・ウィンドウに割り当て可能なセグメントは、各パソコンの機種によって異なりますので、「MSD.EXE」コマンド（MS-Windows3.1に付属）などを使用して確認してください。</p>
(B)	<p>PCMCIAコントローラ直接制御用ASPIマネージャ「ASP36530.SYS」をI/Oベースアドレス=280hとして起動しています。また、カード属性読みだし用のメモリー・ウィンドウ・セグメントとして「CE00h~CFFFh」を使用するように指定しています。</p>
(C)	<p>CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。</p>
(D)	<p>ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。</p>

NEC PC-9821/9801 シリーズの場合

最初に、使用するパソコンの機種と PC カードドライバを確認します。

対応機種	PCカードドライバ
PC-9821 Np, Ns, Ne2, Nd, Ld, Nf, Nm, Lt, Ne3, Nd2, Nx, Na7, Lt2, Na9, Na12 PC-9801 NL/A	本体標準添付のカードサービス
PC-9821 Ne PC-9801 NX/C, P, NS/A, NL/R	本体標準添付のソケットサービス
PC-9821 Ne PC-9801 NX/C, P, NS/A, NL/R	別売カードサービス (PCカードサポートソフトウェア Ver1.0)

これら PC カードドライバがインストールされていない場合は、まず PC カードドライバをインストールしてください。

パソコン本体付属または別売りのPCカードサポートソフトウェアのディスクを準備して、INSTCARDというコマンドでインストールします。

詳しくは、PCカードサポートソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

本体標準添付のカードサービスの場合 PC-9821 Np, Ns, Ne2, Nd, Ld, Nf, Nm, Lt, Ne3, Nd2, Nx, Na7, Lt2 PC-9801 NL/A	別売のカードサービス組み込みの場合 PC-9821 Ne, PC-9801 NX/C, P, NS/A, NL/R
DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=DC00-DFFF DEVICE=A:¥SSDRV.SYS DEVICE=A:¥CS.EXE DEVICE=A:¥CSALLOC.EXE A:¥CSALLOC.INI INSTALL=A:¥CARDID.EXE A:¥CARDID.INI DEVICE=A:¥SCSI¥ASP9530N.SYS /PORT=0D0 DEVICE=A:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD DEVICE=A:¥SCSI¥REXDISK.SYS	DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=DA00-DBFF (A) DEVICE=A:¥SSMECIA.SYS (B) DEVICE=A:¥CS.EXE (D) DEVICE=A:¥CSALLOC.EXE A:¥CSALLOC.INI (E) INSTALL=A:¥CARDID.EXE A:¥CARDID.INI (F) DEVICE=A:¥SCSI¥ASP9530N.SYS /PORT=0D0 (G) DEVICE=A:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD (H) DEVICE=A:¥SCSI¥REXDISK.SYS (J)

本体標準添付のソケットサービス組み込みの場合 PC-9821 Ne, PC-9801 NX/C, P, NS/A, NL/R
DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=DA00-DBFF (A) DEVICE=A:¥SSDRV.SYS (B) REM DEVICE=A:¥CARDSET.SYS (C) DEVICE=A:¥SCSI¥SS9530.SYS (G) DEVICE=A:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIA CD (I) DEVICE=A:¥SCSI¥REXDISK.SYS (J)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「DC00h～DFFFh」または「DA00h～DBFFh」のメモリ・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SSDRV.SYS」, 「SSMECIA.SYS」を起動しています。
(C)	カード設定ドライバ「CARDSET.SYS」を起動しないよう注釈行にしています。
(D)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。

第9章 付録

(E)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」がドライブAのルートディレクトリのリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を参照して起動しています。
(F)	コモンイネーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(G)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASP9530N.SYS」をI/Oベースアドレス=0D0hとして起動しています。 詳しくは、「DOS用ドライバ(イネーブラ+ASPIマネージャ)」をご覧ください。
(H)	ソケットサービス用ASPIマネージャ「SS9530.SYS」を起動しています。 詳しくは、「DOS用ドライバ(イネーブラ+ASPIマネージャ)」をご覧ください。
(I)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(J)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

機器構成を変更した場合

機器構成を変更した場合は、カードサービスに変更されたリソースを認識させるために以下の手順でリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を更新してください。

```
A:¥> CD ¥CARDSOFT <Enter>
```

```
A:¥CARDSOFT> CSALLOC /D <Enter>
```

カレントディレクトリをカードサービス・プログラムが存在するディレクトリへ移動
「CSALLOC.EXE」を「/D」オプションを付けて実行

注意 CSALLOC.INI ファイルは、テキスト形式ですがエディタ等で修正せずに必ず上の方法で更新してください。

CONFIG.SYS ファイルや CSALLOC.INI ファイルを更新した場合、パソコンを再起動して組み込まれたドライバが正常に起動することを確認します。

EPSON PC-486/586 シリーズの場合

エプソン販売のPC-486/586シリーズではSystemSoft版のカードサービスが提供されています。

- (1) パソコン本体付属のフロッピーディスクのインストールプログラムに従ってインストールします。
- (2) 「CONFIG.SYS」ファイルを下の記述例を参考に確認します。

「CONFIG.SYS」の記述例

DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS	
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=DF00-DFFF	(A)
.....	
DEVICE=A:¥CARDSOFT¥SS.EXE	(B)
DEVICE=A:¥CARDSOFT¥CS.EXE	(C)
DEVICE=A:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE A:¥CARDSOFT¥CSALLOC.INI	(D)
INSTALL=A:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE A:¥CARDSOFT¥CARDID.INI	(E)
.....	
DEVICE=A:¥SCSI¥ASP9530E.SYS /PORT=380	(F)
DEVICE=A:¥SCSI¥REXCD.SYS /D:PCMCIACD	(G)
DEVICE=A:¥SCSI¥REXDISK.SYS	(H)

(A)	拡張メモリマネージャ「EMM386.EXE」が「DF00h~DFFFh」のメモリ・ウィンドウ・セグメントを使用しないように指定しています。
(B)	ソケットサービス「SS.EXE」を起動しています。
(C)	カードサービス「CS.EXE」を起動しています。
(D)	リソースマネージャ「CSALLOC.EXE」がディレクトリ「A:¥CARDSOFT」のリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を参照して起動しています。
(E)	コモンインーブラ「CARDID.EXE」を起動しています。
(F)	カードサービス用ASPIマネージャ「ASP9530E.SYS」をI/Oベースアドレス=380hとして起動しています。 詳しくは、「DOS用ドライバ(インーブラ+ASPIマネージャ)」をご覧ください。
(G)	CD-ROMデバイスドライバのASPIモジュール「REXCD.SYS」をデバイス名「PCMCIACD」として起動しています。
(H)	ハードディスク/光磁気ディスク用デバイスドライバのASPIモジュール「REXDISK.SYS」を起動しています。

機器構成を変更した場合

機器構成を変更した場合は、カードサービスに変更されたリソースを認識させるために以下の手順でリソース定義ファイル「CSALLOC.INI」を更新してください。

A:¥> CD ¥CARDSOFT <Enter>	カレントディレクトリをカードサービス・プログラムが存在するディレクトリへ移動
A:¥CARDSOFT> CSALLOC /G <Enter>	「CSALLOC.EXE」を「/G」オプションを付けて実行

**注意 CSALLOC.INI ファイルは、テキスト形式ですがエディタ等で修正せず
に必ず上の方法で更新してください。**

CONFIG.SYS ファイルや CSALLOC.INI ファイルを更新した場合、パソコンを再起動して組み込まれたドライバが正常に起動することを確認します。

接続可能なSCSI 機器のタームパワー供給能力について

SCSIの規格ではタームパワー供給(ターミネータへの電源供給)は最大800mA供給可能で、途中に1Aのヒューズを入れることと定められています。REX-9530はPCカードという形状の制限により、この基準を満たすことができません。したがってREX-9530からはターミネータへの電源供給は行いませんので、必ず接続するSCSI機器から供給するようにしてください。たいていのSCSI機器にはターミネータへの電源供給の有無を設定するためのスイッチ類が設けられていますので、SCSI機器付属のマニュアルに従って設定してください。

ターミネータへの電源供給機能の確認方法については、「SCSI機器のターミネータ電源供給の確認方法」をご覧ください。

例外としてzipドライブでは、タームパワーは出力されていませんが、本製品へ接続しても問題ありません。

SCSI 機器のターミネータ電源供給の確認方法

REX-9530はPCMCIAの規格上、SCSIバス上にターミネータ用の電源出力を供給することができませんので必ず外部のSCSI機器から供給することが必要です。SCSI機器から供給されているかどうかはテストで簡単に調べることができます。

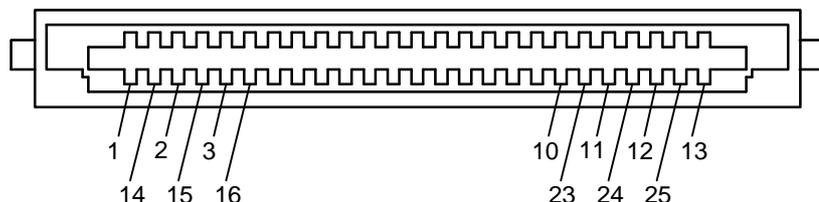
SCSI機器からSCSIケーブルを外し、コネクタの38番(+)と25番の間の電圧を測定してください(SCSI機器の電源はONにしておいてください。)。38番側に+5V前後出力されていれば正常です。+5V前後出力されていない場合はSCSI機器からターミネータ用電源は供給されていないので単独ではREX-9530と組み合わせて使用することはできません。

SCSI PC カードの仕様

SCSI PCカード	PC Card Standard 準拠 (TypeII)
SCSI インターフェイス	シングルエンド
転送方式	同期転送および非同期転送をサポート
電源電圧・消費電流	+5V・200mA MAX
タームパワー供給機能	なし
ターミネータ	アクティブターミネータ内蔵
FIFO	128 バイト
割り込み	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows95 : OSによって割り当てられるIRQを使用 ・ DOS/Windows3.1 (DOS/V, 98, EPSON) : なし
選択可能 I/Oアドレス	<ul style="list-style-type: none"> ・ DOS/Windows3.1 (DOS/V), Windows95 : 120h ~ 12Fh / 140h ~ 14Fh / 180h ~ 18Fh / 280h ~ 28Fh / 300h ~ 30Fh / 340h ~ 34Fh ・ DOS/Windows3.1 (98) : 0D0h ~ 0DFh / 1D0h ~ 1DFh / 2D0h ~ 2DFh / 3D0h ~ 3DFh / 4D0h ~ 4DFh ・ DOS/Windows3.1 (EPSON) : 300h ~ 30Fh / 320h ~ 32Fh / 340h ~ 34Fh / 380h ~ 38Fh / 3A0h ~ 3AFh / 3C0h ~ 3CFh

SCSI ケーブルのコネクタピン配列について

REX-9530用SCSIケーブルのPCカード側コネクタのピン配列は以下のとおりです。コネクタには、ヒロセ NX30TA-25PAAまたは相当品を使用しています。他社製SCSI PCカードで同様のコネクタのものがあありますが、一部を除いてピン配置が異なります。REX-9530に接続するSCSIケーブルは、必ず本製品専用のものをご使用ください。



ピン	信号名	ピン	信号名
1	REQ	14	GND
2	MSG	15	C/D
3	I/O	16	GND
4	RST	17	ATN
5	ACK	18	GND
6	BSY	19	SEL
7	GND	20	DBP
8	DB0	21	DB1
9	GND	22	DB2
10	DB3	23	DB4
11	DB5	24	GND
12	DB6	25	TERMPWR
13	DB7		

オプション製品について

ここでは、REX-9530 をより有効にお使い頂くためのオプション製品を紹介します。製品型番、製品仕様、製品価格等は1997年1月現在のものです。

オプションSCSI ケーブル

SCSI PCカード専用のSCSIケーブルとして以下のものを用意しています。

型番	コネクタ仕様	ケーブル長	価格
RCL-3001-05	アンフェノール50ピン	50cm	¥5,000
RCL-3001-10	アンフェノール50ピン	1m	¥6,000
RCL-3002-05	ハーフピッチ(3M)50ピン	50cm	¥5,000
RCL-3002-10	ハーフピッチ(3M)50ピン	1m	¥6,000
RCL-3003-05	ハーフピッチ(SCSI2)50ピン	50cm	¥5,000
RCL-3004-05	D-sub 25ピン (zipドライブ接続用)	50cm	¥5,000

デスクトップパソコンでREX-9530を使用する場合

デスクトップパソコン（PC/AT互換機およびPC98）でPCカードを使用するためのアダプタを用意しています。

これによりREX-9530をデスクトップパソコンでも使用可能になります。

PC/AT互換機 ISA バス用 PCカードアダプタ

型番 / 価格	仕様
REX-5051 ¥29,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×2スロット (カードドライブとボードに各1スロット装備) Play At Will for REX標準添付
REX-5051F ¥29,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに各1スロット装備) Play At Will for REX標準添付
REX-5051W ¥22,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×2スロット (カードドライブとボードに各1スロット装備) Windows95, WindowsNT 3.51, NT 4.0 専用モデル
REX-5051FW ¥22,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに各1スロット装備) Windows95, WindowsNT 3.51, NT 4.0 専用モデル
共通仕様	
<ul style="list-style-type: none"> PCMCIAコントローラはIntel 82365SL互換 カードドライブは3.5インチFDDベイサイズ 5インチファイルベイ用アタッチメント付 	

PC98シリーズ Cバス用 PCカードアダプタ

型番 / 価格	仕様
REX-9851 ¥23,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (ボード上に装備) CardSoft 3.12標準添付
REX-9851F ¥29,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに装備) CardSoft 3.12標準添付
REX-9851W ¥19,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (ボード上に装備) Windows95, WindowsNT 4.0専用モデル
REX-9851FW ¥26,800	<ul style="list-style-type: none"> TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに装備) Windows95, WindowsNT 4.0専用モデル
共通仕様	
<ul style="list-style-type: none"> PCMCIAコントローラはIntel 82365SL互換 カードドライブは3.5インチFDDベイサイズ 5インチファイルベイ用アタッチメント付属 (REX-9851F/9851FW) 	

上記製品の詳細につきましては直接サポートセンターまでお問合せください。